

JOHN DEERE
WORLDWIDE COMMERCIAL & CONSUMER
EQUIPMENT DIVISION

ユーティリティ・ビークル プロゲーター
Utility Vehicle ProGator®

2020

2030

OMM144950 K0

オペレーターズ・マニュアル



北米版
Litho in U.S.A.



D C Y



K 0
O M M 1 4 4 9 5 0

はじめに

ジョン・ディア社製品をお買い求め頂き有難うございます。

当社製品のご利用を感謝すると共に、本製品を安全に満足して末長くご使用いただけることを願っております。

重要：損傷に注意して下さい！ このメッセージは機械に損傷を与える要因となる操作や状況をオペレータに知らせるものです。

メモ：オペレータが機械の運転や整備点検を行う際に役立つ一般情報はマニュアル全体の各所に記載されています。

オペレーターズ・マニュアルの利用法

本マニュアルは製品の重要パーツの一部です。売却される際は必ず製品に添付して下さい。

オペレーターズ・マニュアルをお読みいただくことで利用者等のケガや機械破損の防止に役立ちます。本マニュアルには製品を最も安全かつ効果的に使用するための情報が記載されています。本機を安全かつ正しく操作する方法を身に付け他の方々が扱う場合のご指導にもお役立て下さい。

本マニュアルと製品の安全マークは他の各種言語でもご利用いただけます。ジョン・ディア代理店までお申し付け下さい。

オペレーターズ・マニュアルの各セクションの順番は、安全に関するあらゆるメッセージとコントロール操作を習得し易くし、本機を安全に操作できるよう考慮されています。また運転や整備点検を行う上で発生する具体的な疑問についても応えられるようになっています。本書の終わりに便利な索引があり、これを利用することで必要な情報がすばやく見つかります。

ご使用の機械が本マニュアルに示されるものと若干違う場合がありますが、説明を理解する上で差し支えはありません。

本マニュアル中の「右側」と「左側」は、機械の前進する方向を向いたときの方向を示しています。破線の矢印（--->）は、その部分が見ている方向からは隠れて見えないことを示します。

お客様に本製品をお届けする際は、その前にジョン・ディア代理店が出荷前の点検を行って本機が最良の状態にあることを確認しています。

特殊メッセージ

マニュアル内では各種の特殊なメッセージを用いて、操作及び整備点検時に役立つ情報に併せ、さらに危険な状態や機械の損傷を招く可能性について注意を促すようにしています。これらの内容はすべてよく読んで、ケガや機械の破損などを招くことのないように努めて下さい。



注意：ケガに注意して下さい！ この記号とテキストは、危険要因や手順が無視された場合に起こりうる、オペレータやその付近の人への潜在的な危険あるいは死亡事故を強調しています。

製品識別情報

識別番号の記録

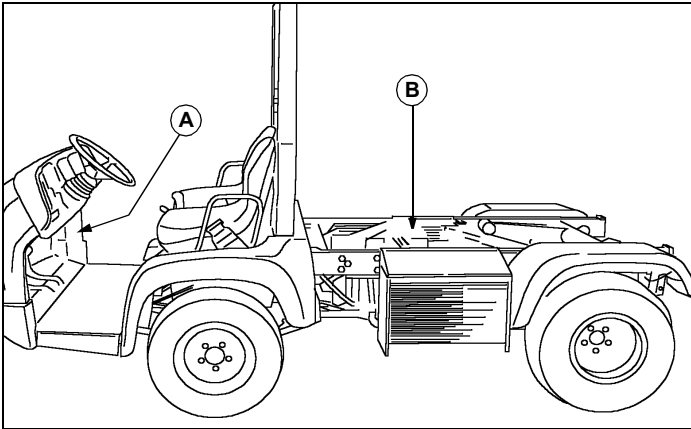
ユーティリティ・ビークル プロゲーター Utility Vehicle
ProGator®

2020 シリアル番号 (020001 -)

2030 シリアル番号 (020001 -)

整備点検について正規サービスセンターまでお問い合わせの際は必ず製品モデルとシリアル番号とを控えておいて下さい。

機器及び機器エンジンのモデルとシリアル番号を調べ、以下に記録しておいて下さい。



製品購入年月日：

代理店名：

代理店電話番号：

製品識別番号 (A)：

エンジンのシリアル番号 (B)：

目次

安全	1
運転中	12
交換用パーツ	26
定期点検	27
エンジンの整備点検	29
トランスミッションの整備点検	43
油圧機器の整備点検	48
ステアリングとブレーキの整備点検	52
電気系統の整備点検	55
その他の整備点検	60
トラブルシューティング	64
保管	69
組み立て	71
仕様	73
索引	77

マニュアル内の全ての情報、仕様、
図、イラストは出版された時点での
最新情報に基づいています。
尚、ジョン・ディア社では、
出版後のいかなる時点においても予告なしに
変更を加える権利を保持しています。

COPYRIGHT© 2001

Deere & Co.

John Deere Worldwide Commercial and

Consumer Equipment Division

Horicon, WI USA

All rights reserved

Previous Editions

COPYRIGHT© 1999

OMM144950 K0 - 日本語

機械の安全ラベルの説明

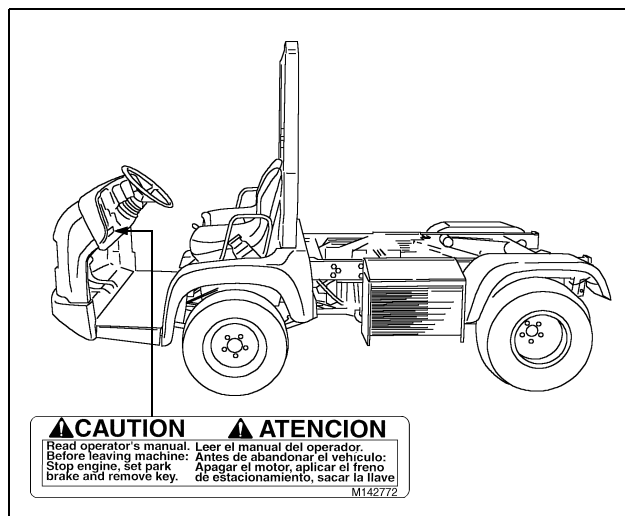


本セクションに示す機械の安全ラベルは、安全性における潜在的な危険要因に注意を促すため、機械の重要な位置に貼られています。

本機の安全ラベルには、「DANGER」（危険）、「WARNING」（警告）、「CAUTION」（注意）という言葉が、安全喚起マーク (▲) とともに使用されています。「DANGER」（危険）は最も重大な危険性があることを示しています。

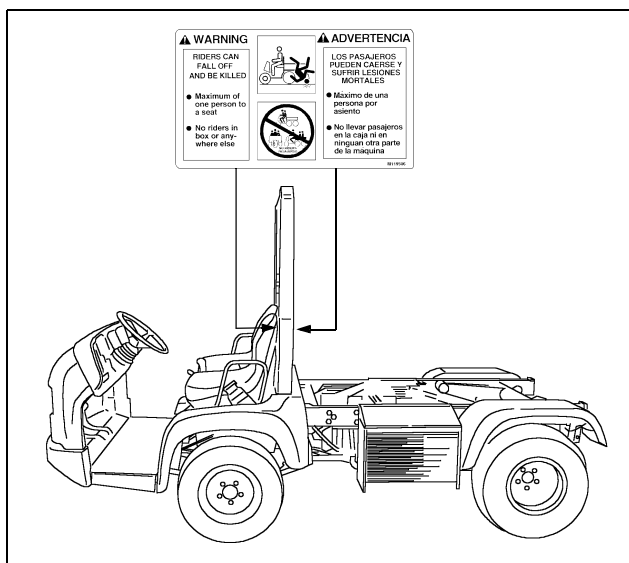
本オペレーターズ・マニュアルでは、安全を損なうような危険を知らせる特殊メッセージであることがすぐにわかるように、「注意」という言葉とこの安全喚起マーク (▲) とを常に記載しています。

CAUTION（注意）



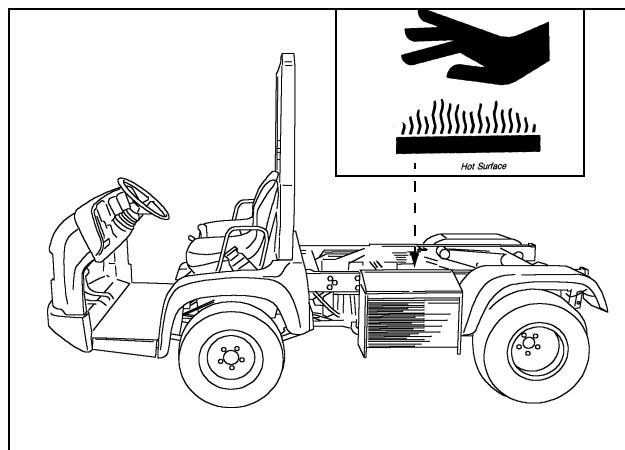
オペレーターズ・マニュアルをお読み下さい。機械から離れる前に、エンジンを停止し、パーキング・ブレーキをかけて、キーを抜き取ります。

WARNING（警告）：運転席から落ちて死亡する恐れがあります。



- 1つの座席に1人厳守
- 荷台など座席以外の乗車厳禁

WARNING（警告）－ 表面が熱くなっています

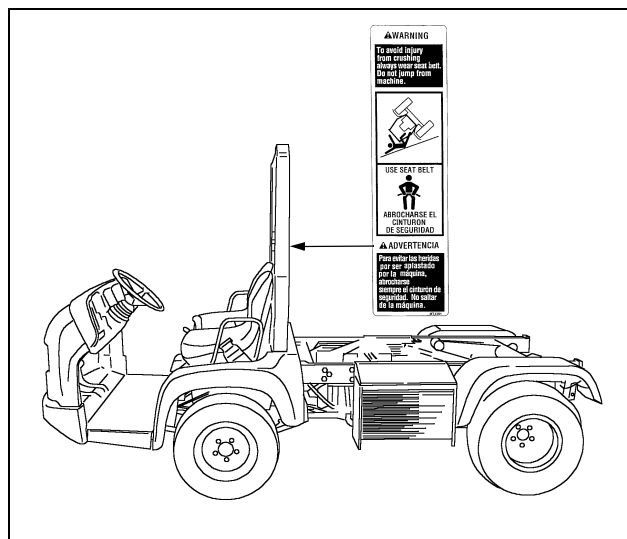


写真注：“HOT”－ 熱いので触れないようマフラーに警告が示されています。

マフラーは熱くなっている可能性があるので触らないこと。

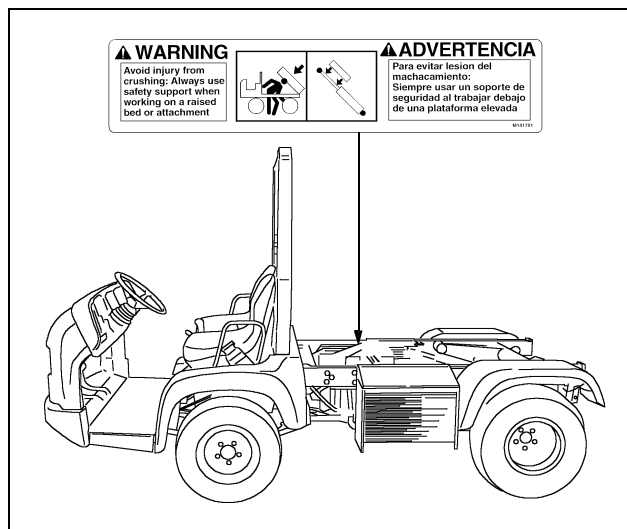
安全

WARNING（警告）：シート・ベルト着用



衝突によるケガを防止するため、シート・ベルトは常に着用して下さい。機械から飛び降りないこと。

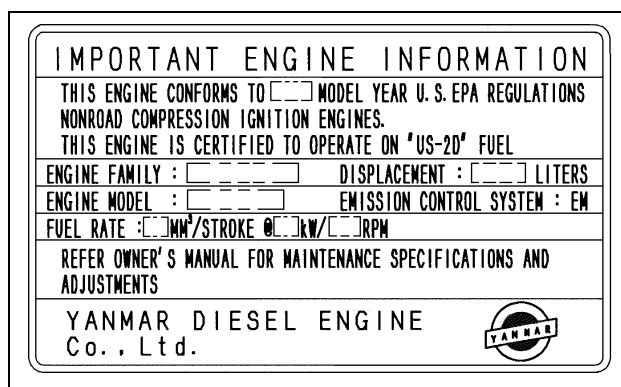
WARNING（警告）



写真注：ラベルは車体フレームのサイド・レールにあります。

事故によるケガを防止するため、荷台や付属装置を持ち上げて作業する際は、必ず安全サポートを使用して下さい。

排気ガス制御装置認定ラベル（道路外用ディーゼル）



注意：ケガに注意して下さい！排気ガス制御装置に無断で手を加えると所轄の法規によって厳罰に処せられます。

保証セクションに記載の排気ガス保証は、ジョン・ディア社によって販売された、米国環境保護庁（EPA）及び/またはカリフォルニア州空気資源局（CARB）認定の、米国内一般道路非走行車両（自走式あるいは携帯型/可搬型¹）装置として使用される、エンジンに対してのみ適用されるものです。図のような排気ガス・ラベルが貼られていると、エンジンがEPA及び/またはCARBの認定済みであることを示しています。EPA及びCARBの保証は、認定ラベルが貼り付けられた新しいエンジン、及び規制官庁の監督地域内にて上記状態で売却されたエンジンに対してのみ適用されます。

メモ：エンジン排気ガス認定ラベルのhp/kW定格は、総エンジンhp/kW、つまりファンなしのフライホイール馬力を表しています。ほとんどの場合、この値が広告の車両hp/kW定格と同じになることはありません。

1. 12ヶ月毎に少なくとも一度運転した装置。

排気ガス制御装置認定ラベル（小型オフロード用ガソリン・エンジン）

メモ：許可なく排気ガス制御装置や構成部品に手を加えると、重い罰金または厳罰に処せられます。排気ガス制御装置及び構成部品を調整できるのは、EPA や CARB の認定サービス・センターのみです。排気ガス制御装置及び構成部品については、お近くのジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。

排気ガス・ラベルが貼られていると、そのエンジンが米国環境保護庁（EPA）及び / またはカリフォルニア州空気資源局（CARB）の認定済みであることを示しています。

排気ガス保証は、ジョン・ディア社によって販売された、EPA 及び / または CARB 認定の、米国及びカナダ国内でオフロード自走装置に使用されるエンジンに対してのみ適用されるものです。

排気ガス適合期間（小型オフロード用ガソリン・エンジン）

ご購入いただいたエンジンに、排気ガス・コントロール・システム証明書あるいは空気指標ラベルに記載された排気ガス適合区分があれば、これは EPA 及び / または CARB 排気ガス要求事項に適合することを認定されたエンジン運転時間数を示します。下表には、認定ラベルにある区分に関連するエンジン適合時間数が記載されています。

機関	部門	時間
EPA	C	250
EPA	B	500
EPA	A	1000
CARB	（普通）	125
CARB	（中間）	250
CARB	（拡張）	500

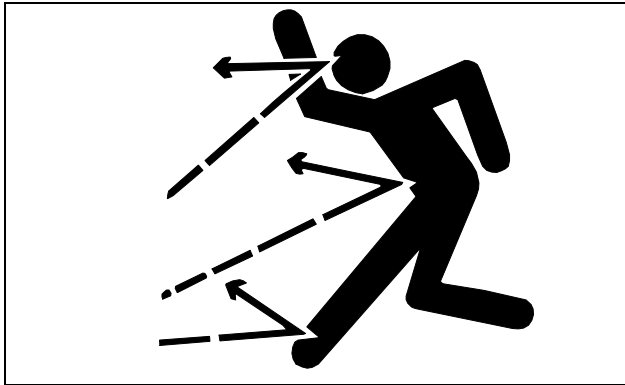
オペレータに必要なトレーニング



本車両を運転する前に本マニュアル内の「機械の操作」セクションを熟読して下さい。

- 本機の所有者には使用者にトレーニングを受けさせる義務があります。
- 本機が正しく使用されていれば、所有者／使用者は事故を未然に防ぐことができます。所有者／使用者は自分自身や他の人々、資産への事故やケガがあった場合の責任者となります。
- トレーニングを受けていない人に本機の運転をさせてないこと。
- 本機を運転する前に、このオペレーターズ・マニュアルを読んで、安全と操作についてよく学んで下さい。
- 本機オペレータがこのマニュアルを読むことができない場合、又は理解できない場合、所有者はそのオペレータに内容を説明する義務があります。このマニュアルは他の言語でも用意されています。
- 運転の練習は、障害物などのない広い場所で、本機の操作を熟知する経験者の監視の下で行って下さい。
- 各コントロール装置の操作方法を十分に習得して下さい。
- オペレータ・トレーニングでは、機械の移動、停止、方向転換、その他本機特有の操作を習得することが必要です。

安全な操作



- ・ 運転前に機器を点検します。金具がしっかり固定されていることを確認します。破損や極度の摩耗、欠損などがあるパーツは修理、又は交換して下さい。ガードとシールドが良好な状態で、所定の位置に固定されていることを確認します。運転前に、必要な調整は全て済ませて下さい。
- ・ 使用前に、オペレータ不在時の制御装置が正しく機能することを確認します。安全システムをテストします。正しく機能することが確認されるまで、運転しないで下さい。
- ・ 安全な運転操作方法については添付のビデオをご覧ください。
- ・ プロゲーター（ProGator®）ユーティリティ・ビークルは作業用の実用車です。レクリエーション用ではありません。
- ・ 両足を足床に着け、シートの中央に腰掛けて下さい。足床はきれいに保ち、コントロール・ペダルの周辺に溜まった泥や石などは取り除きます。
- ・ バッテリー格納室内、特にトランスアクスル両側のアクスル・ハウジングに取り付けられているブレーキ・リンク機構付近に、ゴミや石などが詰まっていないことを確認します。
- ・ ハンドルを動かすときは、必ず両手で行って下さい。
- ・ エンジンの速度設定変えたり、速度を上げ過ぎてはいけません。
- ・ コントロール装置の場所、操作方法、操作対象を理解して下さい。
- ・ 立ったままで、車両を絶対に運転しないで下さい。
- ・ 絶対に、荷台その他の付属装置を持ち上げたままで、車両を運転しないで下さい。
- ・ 車両の運転を始める前に、ブレーキの効き具合をチェックします。必要に応じて、ブレーキの調整または整備点検を行って下さい。
- ・ 人が作業場所に入ってきた場合は、機械を止めます。
- ・ 作業中に何かにぶつかった場合は、機械を停止し、異常がないか点検します。操作の前に、機械の修理を行います。機械及び付属装置を適切な方法でメンテナンスし、良

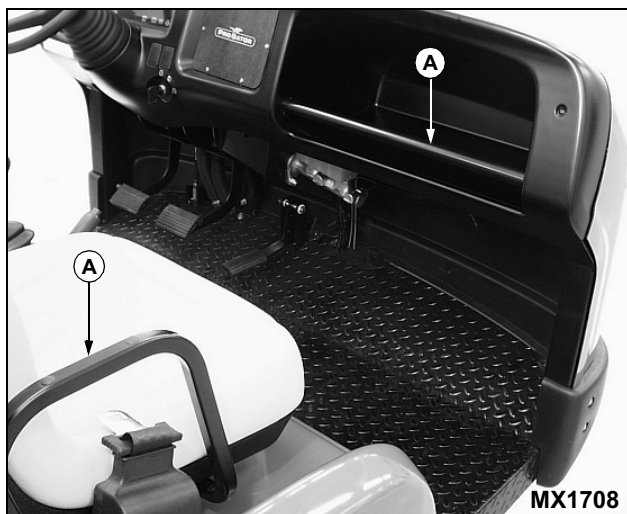
好な整備状態を維持します。

- ・ ブレーキ能力と静止摩擦の度合いを適度に保つために、荷台に積載物がない場合は、付属装置や荷積みしたトレーラーの牽引は行わないで下さい。
- ・ 運転前に車両点検を行って下さい。金具がしっかり固定されていることを確認します。破損や極度の摩耗、欠損などがあるパーツは修理、又は交換して下さい。ガードとシールドが良好な状態で、所定の位置に固定されていることを確認します。運転前に、必要な調整を全て済ませて下さい。
- ・ 作業場所へ人やペットを近づけないで下さい。人が作業場へ入ってきた場合には、機械を停止させて下さい。作業中に何かにぶつかった場合には、車両を停止させ、機械への損傷はないかを調べて下さい。運転前に、修理を行います。車両を常に良好な状態に維持して下さい。
- ・ ヘッドライトとテールランプのレンズを清潔に保ちます。
- ・ オペレータは、運転中の機械から離れてはいけません。
- ・ 作業は、日中、もしくは十分な照明の下でのみ行って下さい。
- ・ 道路周辺で作業する時、あるいは道路を横断する時、交通に十分注意して下さい。
- ・ この車両は高速道路や一般道路で使用するものではありません。使用はオフロードに限ります。
- ・ 急発進、急停車、急転回をしないで下さい。
- ・ 方向転換は必ず平坦な場所で行います。
- ・ 本機の運転中はラジオや音楽をヘッドホーンで聞かないこと。安全な運転をするには、十分な注意が必要です。
- ・ 道路周辺で作業する時、あるいは道路を横断する時、交通に十分注意して下さい。道路や歩道を横断する前に、必ずブレードを停止して下さい。見通しの悪いコーナー、灌木、樹木、その他の視界を遮る物に近づくときは、十分に注意して下さい。道路周辺で運転する時は、交通に十分注意して下さい。

安全な駐車

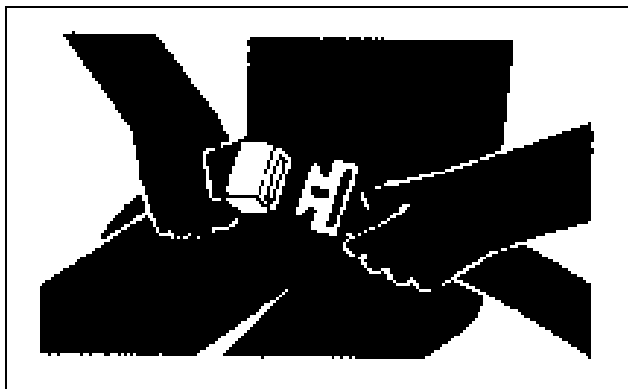
1. 水平な場所に機械を止めて下さい。
2. PTO を切り離します。
3. 付属装置を地面に降ろします。
4. パーキング・ブレーキをかけます。
5. エンジンを停止します。
6. キーを抜き取ります。
7. オペレータ・ステーションを離れる前に、エンジンと全ての駆動機器の停止を確認します。

手すりの使用



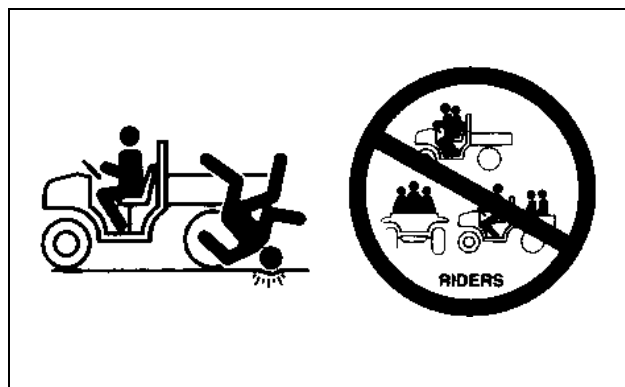
手すり (A) はデコボコした地面を走る際にオペレータや同乗者がバランスを保つために設けられています。座席に備え付けられたダッシュ・バーとサイド・レールで安定を保ってください。

シート・ベルトの正しい着用



転倒などの事故があった場合のケガを最小限に抑えるために、ROPS (Roll-Over Protective Structure) や屋根を付け、運転中はシート・ベルトを着用して下さい。

子供の保護と事故の防止



子供の保護：

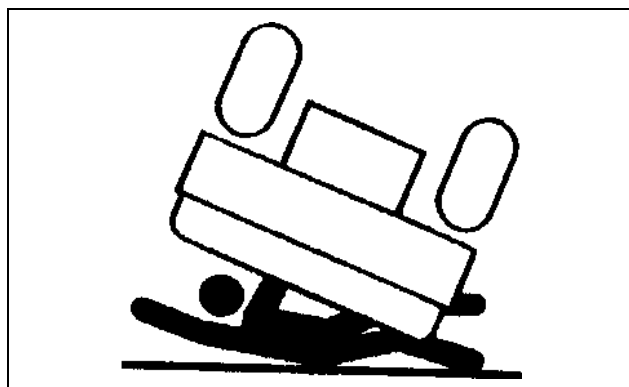
- 決して、子供たちが一ヶ所に留まっていると思っはいけません。周囲に子供がいないか、常に注意を払って下さい。
- 車両に荷台が装備されている場合、絶対に荷台に子供を乗せてはいけません。子供が、ユーティリティ・ビークルの荷台やその他の付属装置に上ることを許してはいけません。荷車やトレーラーに子供を乗せて、牽引しないで下さい。
- 見通しの悪いコーナー、灌木、樹木、その他の視界を遮る物に近づくときは、特に注意を払って下さい。
- 子供やトレーニングを受けてない人に、車両を運転させてはいけません。
- バックや方向転換をする前に、ユーティリティ・ビークルの後方及び周辺に子供がいないかよく見て下さい。

重大事故や死亡事故を防ぐために：

- 常に細心の注意を払いながら、慎重に前進運転とバック運転を行って下さい。人、特に子供は走行域内に急に進入してくることがあります。
- 慎重にバックして下さい。バックする前に、車両の後方に、特に子供がいないか、よく見て下さい。
- アルコールや薬品の影響があるときは、車両を運転してはいけません。
- 誤って使用したり、レクリエーション用に使用すると、事故や大ケガ、死亡にいたる恐れがあります。

安全

横転の防止



車両が横転して重傷、又は死亡事故を起こす恐れがあります。事故防止のために以下を守って下さい。

- ・ 本車両の用途を間違えないこと。このユーティリティ・ビークルはレクリエーション用には設計されていません。
- ・ 荷台など座席以外の所には決して人を乗せないで下さい。
- ・ 方向転換するときは、速度を十分落として下さい。急に方向転換すると、車両が転倒することがあります。
- ・ 坂やデコボコした地面の上では、速度を落とし、特に注意を払って下さい。
- ・ 荷崩れを防ぐため、車両に荷物を積みすぎないで下さい。デコボコした所や斜面を運転するときは、荷物を減らして下さい。
- ・ 走行地面上の穴や岩石、崩れやすい場所、濡れたり滑りやすい地面、その他隠れた危険に対して、常に注意を払って下さい。
- ・ 上り坂や下り坂を走行するときは、急停止や急発進をしないで下さい。斜面で方向を変えるときは、特に注意して下さい。
- ・ 斜面の頂上や道の隆起を乗り越えるときは、前輪をまっすぐに保って下さい。
- ・ 斜面を下るときは、アクセル・ペダルから足を離し、ブレーキをかけて速度を落として、走行のコントロールが維持できるようにします。
- ・ このユーティリティ・ビークルの改造や変更をしないで下さい。

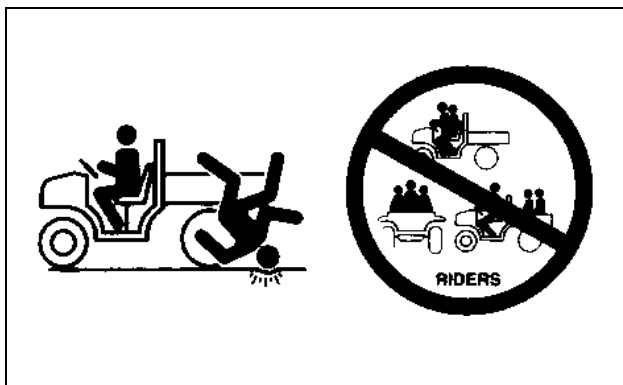
回転している駆動装置には近づかないで下さい。



回転中の駆動装置に絡まると重大な死傷事故を招く恐れがあります。

- ・ 手足や衣服を駆動パーツに近づけないで下さい。
- ・ 衣服は身体にフィットしたものを着用して下さい。
- ・ PTO 駆動装置に近づく前に、エンジンを停止して、PTO 駆動装置が止まっていることを確認して下さい。

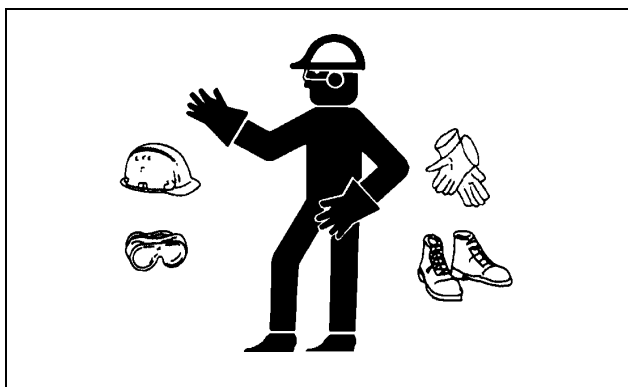
同乗の禁止



- ・ 座席は運転席と同乗者用にもう 1 つのみです。荷台など座席以外の場所に人を乗せないで下さい。
- ・ 座席以外の場所に乗ると物にぶつかったり車両から転落したりして重傷又は致命傷を負う危険があります。
- ・ 同乗者は、重心だけでなく、オペレータの車両をコントロールする能力にも影響を与えます。同乗者は又、オペレータの視界をふさいで安全な運転の妨げとなる恐れもあります。

安全

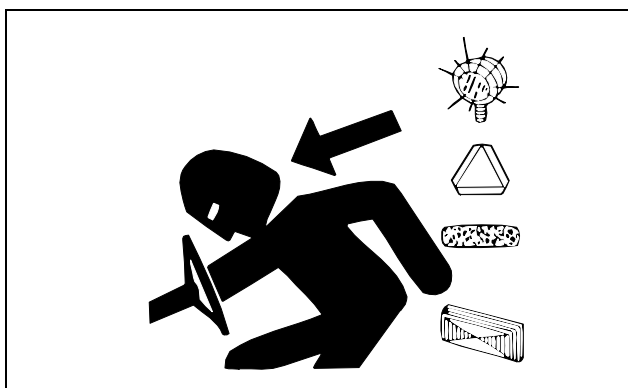
適切な作業着の着用



- 作業服は緩めではなく身体にフィットしたものを着用し、さらに作業に適した安全装具を身に付けて下さい。
- モア（草刈り機）の運転時は安全のため常に保護用のゴーグルやサイドシールド付き安全めがねをかけて下さい。
- 耳栓のような適切な保護具を着用して下さい。大きな騒音によって聴覚の傷害や消失をもたらす恐れがあります。
- ラジオや音楽をヘッドホーンで聞かないこと。安全な操作及び整備点検を行うには十分な注意が必要です。

公道上での安全な運転

公道では他の車両との接触による死傷事故を招かないよう十分に注意して下さい。



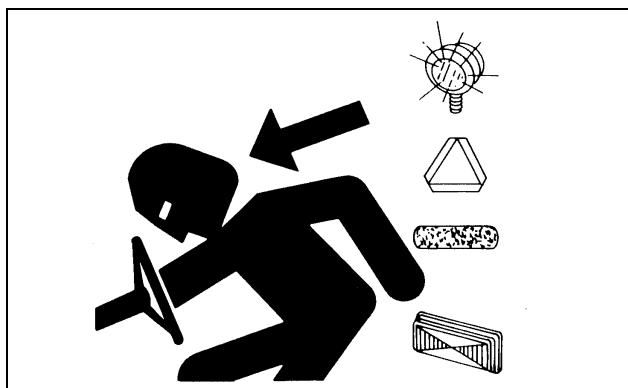
- 安全ライトや安全装置を使用して下さい。特に夜間、低速車が公道を走行すると、他車からよく見えません。
- 本車両をトレーラーやトラックに積み込む時、又は降ろす時は、十分に注意して下さい。
- 公道を走行するときはいつでも、地方の規則に従って、点滅警報灯や方向指示器を使用します。点滅警告灯の取り付けを増やすことが必要な場合があります。

高圧液を浴びないように注意



- 油圧ホースや油圧ラインは、損傷やねじれ、長期間の使用、風雨にさらされて、正常に機能しなくなることがあります。ホースとラインを定期的にチェックして下さい。損傷したホースやラインは交換します。
- 作動油の接続部分は、損傷や振動により、ゆるむことがあります。接続部分を定期的にチェックして下さい。緩んだ接続部分は締め付けます。
- 高圧液ラインから漏れた液は、皮膚を貫通して重傷に至らせる危険性があります。危険防止のため、油圧ライン又は他のラインの接続を取り外すときは、圧力を十分に下げてから行って下さい。圧力をかける前に、接続部分を全て締め付けます。
- ボール紙を使って、漏れを調べます。手など身体が高圧液に触れないよう十分注意して下さい。
- 万一事故が起こった場合は速やかに医師の処置を受けて下さい。皮膚の内部に入った液体は、数時間以内に外科手術により除去しなければなりません。さもないと創部の壊疽（えそ）に至る恐れがあります。担当の医師がこの種のケガの処置法に精通していない場合は、専門医と連絡を取る必要があります。この件に関しては、Deere & Company Medical Department, Moline, Illinois, U.S.A. にて情報提供を行っております。アメリカ又はカナダからは1-800-822-8262 までお電話下さい。

安全な運搬



安全

- 安全ライトや安全装置を使用して下さい。特に夜間、公道上を走行する低速車は他の車からよく見えません。車両との衝突によるケガや死亡事故を防止して下さい。
- 公道を運転する時は常に、他の車からよく見えるように、点滅警告灯を取り付けることを推奨します。点滅警告灯の取り付けを増やすことが必要な場合もあります。
- 安全照明キットは、お近くのジョン・ディア代理店で求められます。

安全なメンテナンス作業の実施

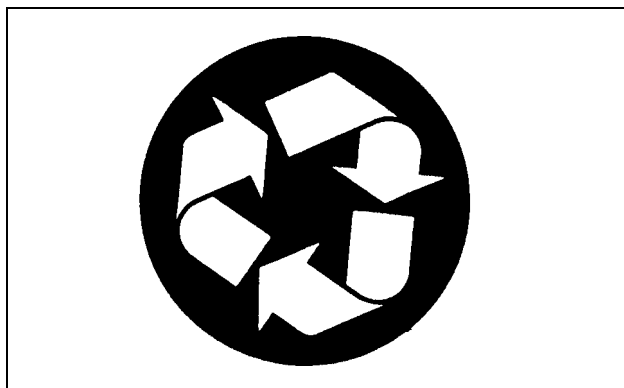


- 作業を始める前に、整備点検手順を理解しておいて下さい。作業場所は、清潔で乾いた状態にしておきます。
- 機械が動いている間は、絶対に注油したり、整備点検したり、調整を行なってはいけません。安全装置は適切な場所に配置し、常に良好な状態にしておきます。金具は常にしっかりと固定しておきます。
- 手足、衣類、アクセサリ、髪の毛などが機械に引き込まれないように、機械の動いている部分には近づけないで下さい。
- 整備点検の開始前に、付属装置は地面に降ろし、全ての電源を切り、エンジンを停止します。さらにパーキング・ブレーキをかけ、キーを抜き取り、暫く置いて機械を冷まします。
- 修理を行う時は、その前にバッテリー接続の切り離しとスパーク・プラグ・ワイヤーの取り外しを行います。
- 機械の整備点検を行う前に、油圧コンポーネントなどエネルギーを蓄積するものから慎重に圧力を抜きます。
- すべてのナットとボルト、特にブレード取り付け用ボルトが十分に締め付けられた状態にしておきます。
- 整備点検作業のために持ち上げておくべき箇所は、点検中に落ちてこないようにしっかりと支えておいて下さい。
- パーキング・ブレーキがロックされていない状態のままエンジンを作動させてはいけません。
- すべての部品が良好な状態であり、適切に取り付けられているようにして下さい。損傷したところは速やかに修

理して下さい。摩耗または破損している部品は交換します。摩耗または損傷している安全及び指示ラベルを交換します。

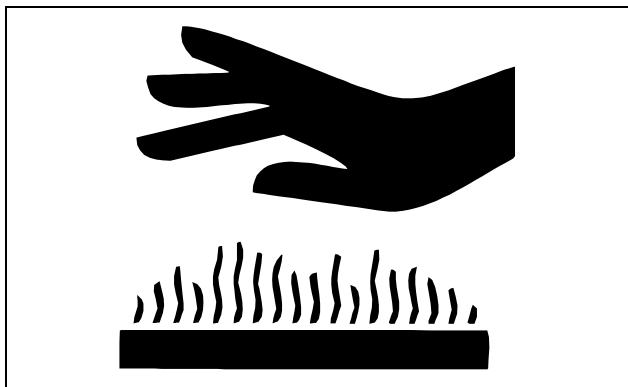
- 火災を防止するため、機械、特にエンジン・コンパートメントに、グリースやオイル、ゴミがたまっていれば取り除きます。
- バッテリーは広くて換気のよい場所で充電します。スパークは避けて下さい。バッテリーの接続や切り離しを行う時は、その前に充電器のプラグを外して下さい。絶縁された工具を使用して下さい。
- 機械や安全装置の変更や改造を行わないで下さい。無断で変更や改造を行うと、機能や安全性を損なうことがあります。
- 本機の整備点検中はラジオや音楽をヘッドホーンで聞かないこと。整備点検作業を安全に行うには、十分な注意が必要です。

廃棄物及び化学薬品の取り扱い



- 使用済みオイル、燃料、冷却液、ブレーキ液及びバッテリー等の廃棄物は、環境を破壊し、人体に害を及ぼす危険性があります。
- 廃液は飲料用のボトルや缶等には絶対に入れないこと。誰かが誤って飲んでしまう恐れがあります。
- 廃棄物のリサイクル方法、処分方法については、お近くのリサイクル・センターあるいはジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。
- 危険物安全性データ・シート（MSDS）に、種々の化学薬品に関する詳細な情報として、人体に及ぼす危険性、安全保持のための手順、応急処置法等が記載されています。各機器に用いられる化学薬品のデータ・シートは、その薬品の販売者に提供義務があります。

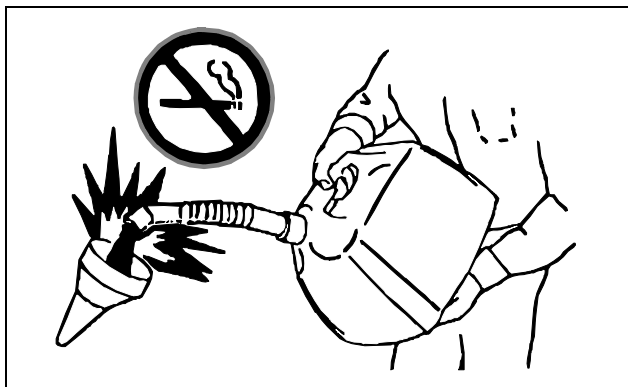
火災の防止



- ・ エンジンが運転中あるいは熱いときに、決して燃料キャップを取り外してはいけません。数分間、エンジンの温度が下がるのを待ちます。
- ・ 気化した燃料に引火する恐れのある裸火やスパークが発生し得るような建物内には燃料が入った装置を保管しないこと。
- ・ 屋内に保管する時は、エンジンの温度が冷めるのを待ってからにして下さい。
- ・ 火災発生防止のため、エンジンに付着した草や葉は取り除き、又グリースの塗り過ぎも避けて下さい。

燃料の安全な取り扱い

燃料及び燃料からの発散気は高可燃性です。



- ・ タバコを吸いながら、あるいは裸火やスパークの出るものが近くにあるとき、またはエンジンが回っているとき、燃料を補給してはいけません。補給する前に、エンジンを止めて温度を下げます。
- ・ エンジンが運転中は、決して燃料キャップを取り外したり、燃料を追加してはいけません。
- ・ 閉鎖されている場所では、燃料タンクへの給油や機械からの排出を行わないこと。燃料タンクは屋外で注入して下さい。
- ・ 火災防止に努めて下さい。燃料をこぼした場合はすぐ

に清掃して下さい。

- ・ 気化した燃料に引火する恐れのある裸火やスパークが発生し得るような建物内には燃料が入った機械を保管しないこと。
- ・ 静電気放電による火災や爆発を起こさないよう注意して下さい。使用する燃料用小型容器は、Underwriter's Laboratory (U.L.: 保険引受調査研究所) 又は American Society for Testing & Materials (ASTM: 米国試験及び原材料協会) で認証されている非金属製のものを必ずご使用下さい。漏斗を使用する場合は、スクリーンやフィルターのないプラスチック製のものであることを確認して下さい。



- ・ アースされていない容器を用いると、静電気の放電によって気化したガソリンに火が付く恐れがあります。燃料補充時は、燃料の容器を荷台や車のトランクなどに置かず、車両から離れた地面に置いて下さい。燃料補充中はノズルを容器の口から離さないこと。
- ・ 可能であれば、装置をトレーラやトラックの荷台から取り外し、地面において燃料を補給します。これができない場合は、プラスチック製の小型燃料容器を用いて、荷台やトレーラ上の装備に燃料を補給します。
- ・ ガソリン・エンジンの場合、メタノールを含有する燃料は使用しないこと。メタノールは人体及び環境に有害です。

タイヤの安全性

タイヤやリム・パーツが急激に分離すると重大な死傷事故の原因となります。



- タイヤの取り付けは作業に熟知した人による適切な器具使用のもとで必ず行うこと。
- 常に適正なタイヤ空気圧を維持して下さい。推奨空気圧以上に圧力を上げてはいけません。ホイールとタイヤ・アッセンブリを溶接したり、加熱してはいけません。熱を加えると、空気圧が上昇し、タイヤの破裂を引き起こすことがあります。溶接は、ホイールを構造的に弱めたり、変形することがあります。
- タイヤに空気を入れる時は、クリップ式チャックと延長ホースを使用して、タイヤの正面や上ではなく、少し離れた所に立って作業できるようにして下さい。
- タイヤの空気圧が十分で、裂け目や気泡がなく、リムの破損やラグ・ボルト及びラグ・ナットの欠損がないことを確認します。

リフト・シリンダ安全サポートの使用方法

車両の整備点検を安全に行うため、必ずリフト・シリンダ安全サポートをご使用下さい。

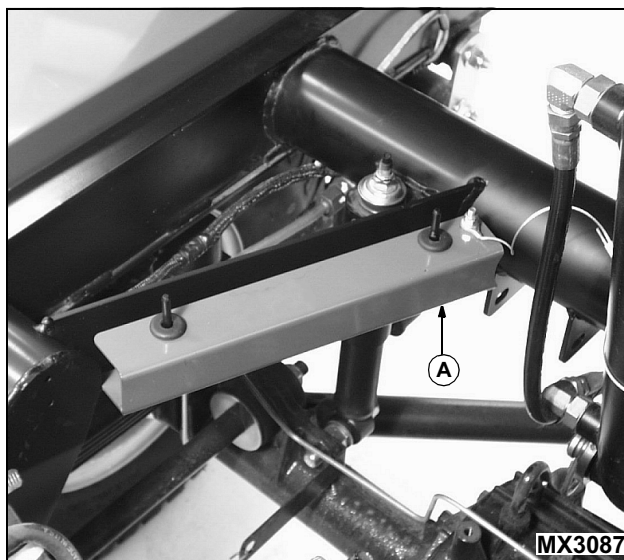


注意：ケガに注意して下さい！

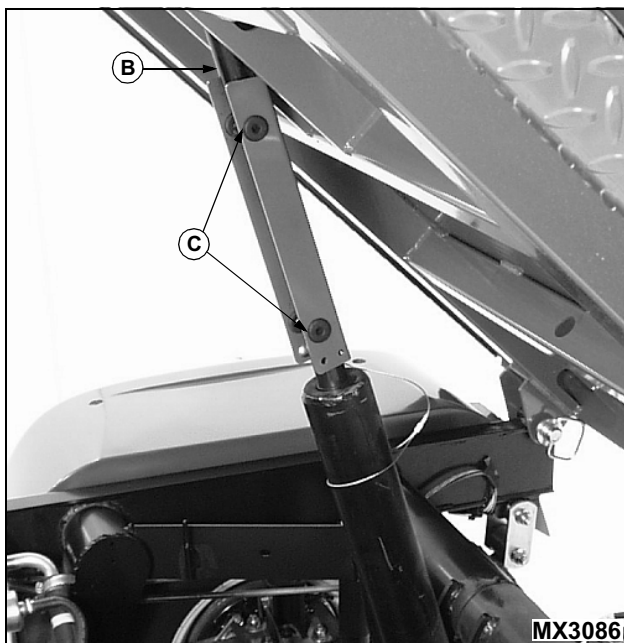
- リフト・シリンダの安全サポートを正しく装着しないまま、付属装置を持ち上げて整備点検を行わないこと。
- 車両の整備点検は付属装置の積載物をすべて降ろしてから開始して下さい。

取り付け：

1. 付属装置の中を空にします。
2. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。
3. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



4. 車両後部の右側にある安全サポート（A）を取り出します。



5. 安全サポートをリフト・シリンダ・ロッド（B）に取り付けます。リフト・シリンダ・ロッドが安全サポートのゴム製グロメット（C）の間にしっかり収まっていることを確認して下さい。

取り外し：

1. 安全サポートをリフト・シリンダ・ロッドから取り外します。
2. 安全サポートを元の場所に戻します。
3. 付属装置を降ろします。

付属装置

- 承認済みの付属装置のみをご使用下さい。
- 付属装置を取り付けないと、牽引力が低下します。付属装置がないときは、平坦な地面上か低速でのみ運転して下さい。

ホイール金具のチェック

- ホイール金具がしっかり締めつけられていないと、大ケガを引き起こす重大事故が発生することがあります。
- 運転開始後 100 時間は、ホイール金具の締め具合を頻繁にチェックして下さい。

運転中

毎日の操作点検リスト

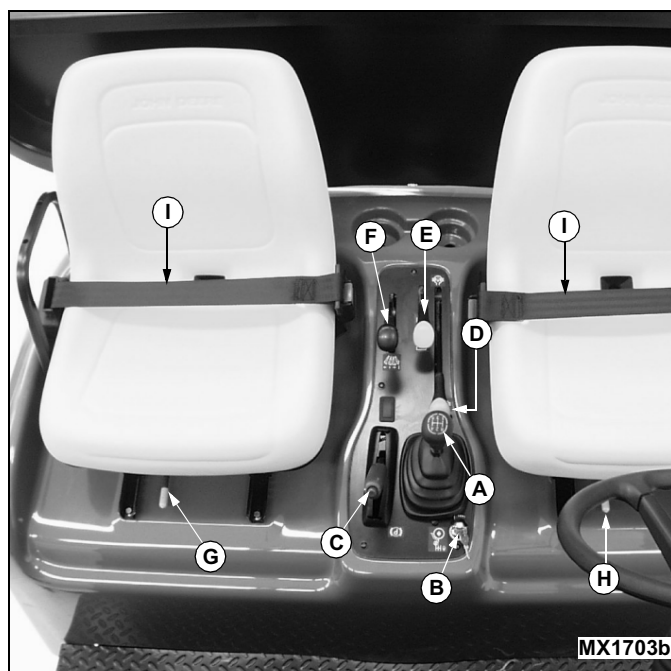
- 安全システムのテストを行います。
- タイヤの空気圧を点検します。
- 燃料レベルを点検します。
- エンジンのオイル・レベルを点検します。
- トランスミッション・オイル・レベルを点検します。
- 冷却液レベルを点検します。
- 機械から、草や破片を取り除きます。
- 吸気口スクリーンを清掃します。
- 機械下部に、漏れがないかチェックします。

ダッシュボード／フット・コントロール装置



- A - インストルメント・パネル
- B - 警音器
- C - ライト・スイッチ
- D - キー・スイッチ
- E - クラッチ・ペダル
- F - ブレーキ・ペダル
- G - アクセル・ペダル

コンソール及びその他のコントロール装置



- A - ギア・シフト・レバー
- B - トップ (5 速) ギア・ロックアウト・スイッチ
- C - パーキング・ブレーキ・レバー
- D - ディファレンシャル・ロック・レバー
- E - 油圧 PTO レバー (オプション)
- F - リフト・シリンダ・レバー
- G - 同乗者座席調整レバー
- H - 運転者座席調整レバー
- I - シート・ベルト

座席の調整

1. 運転席か同乗者席に座ります。

運転中



2. レバー (A) を左に引いたまま保持します。
3. 座席を前後にずらし、希望する位置にします。
4. レバーを離します。

ライト・スイッチの使用法

メモ：エンジン停止中にヘッドライトを長時間点灯すると、バッテリーが放電します。



1. キー・スイッチ (A) を運転位置へ回します。
2. ロッカ・スイッチ (B) の上側を押してライトを点灯します。
3. ロッカ・スイッチの下側を押してライトを消灯します。

シート・ベルトの着用



注意：ケガに注意して下さい！

- ROPS (Roll-Over Protective Structure) 又はキャブ (幌) のある車両を運転する際はシート・ベルトを着用して下さい。

シート・ベルトの付け方：



- リトラクタ (A) からシート・ベルトを一気に引き出し、腰に回します。

メモ：シート・ベルトが十分に伸びないまま止まってしまった場合は、一度リトラクタに戻してから引き直して下さい。

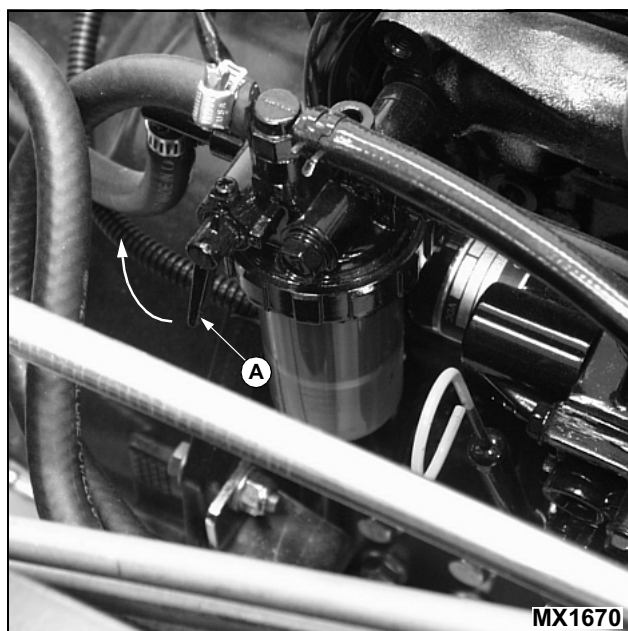
- バックルをシート横のラッチ (B) に挿入します。きちんと収まれば、“カチッ”という音がするはずです。

シート・ベルトの外し方：

- 赤いボタン (C) を押します。シート・ベルトはリトラクタに戻ります。

燃料シャットオフ・バルブの使用法 (ディーゼル・エンジン・モデル)

1. エンジンの左側にある燃料フィルタ・セディメント容器アッセンブリの位置を確認します。



写真注：「開」位置になっている燃料シャットオフ・バルブを示しています。

2. 設定切替が2つある燃料シャットオフ・バルブ・レバー（A）を次のように“O”（開）の位置、又は“C”（閉）の位置に回します。

“C”（閉）の位置：

- ・ エンジンの整備点検を行う場合
- ・ 機械の運搬時
- ・ 長期の保管期間中

“O”（開）位置：

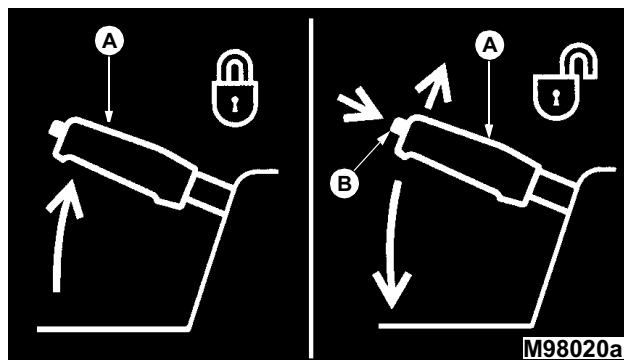
- ・ 燃料をエンジンに適切に供給するには、燃料シャットオフ・バルブが全開になっていなければなりません。

パーキング・ブレーキの使用法



注意：ケガに注意して下さい！車両から離れる時は、必ずパーキング・ブレーキをかけて下さい。パーキング・ブレーキをかけないと車両が勝手に動き出してしまう恐れがあります。

パーキング・ブレーキのかけ方：



- ・ レバー（A）を引き、ラッチに収めます。

パーキング・ブレーキの外し方：

- ・ レバー（A）を引き上げます。
- ・ ボタン（B）を押します。
- ・ レバー（A）を下へ完全に押し下げます。インストルメント・パネルの表示ライトが消えます。

ディファレンシャル・ロック・レバーの使用法



注意：ケガに注意して下さい！ディファレンシャル・ロックをかけると、車両転倒を起こす危険性が高くなります。坂や丘陵でのターンや高速運転は行わないこと。

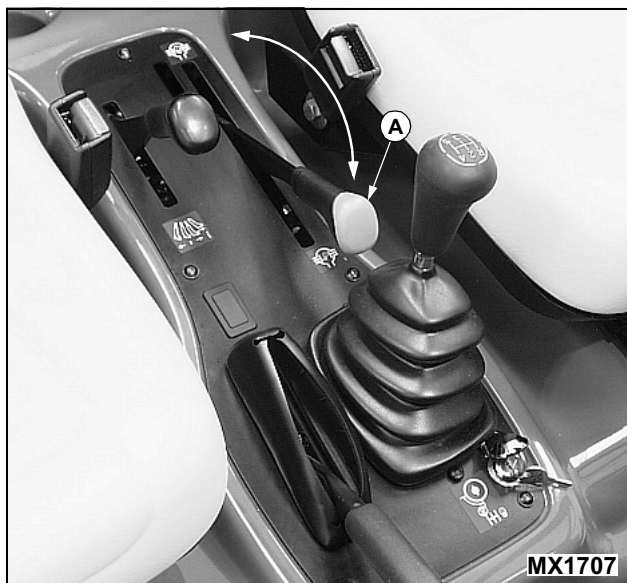
ディファレンシャル・ロックは後輪が滑り出した時に牽引能力を上げるためのものです。ディファレンシャル・ロック・レバーをかけると左右の後部アクスルが互いにロックされ、両方の車輪を同じ速度で回すことによって牽引力を最大化します。

重要：損傷に注意して下さい！車両の高速走行中にディファレンシャル・ロックをかけないこと。

メモ：ディファレンシャル・ロックをかけるとターン時の旋回半径が大きくなります。

ディファレンシャル・ロックのかけ方：

- ・ 車両を停止するか、低速走行にします。



- ・ ディファレンシャル・ロック・レバー (A) を引き、持ち上げた状態を保持します。レバーは後輪が滑っている間この持ち上げ状態に維持します。

ディファレンシャル・ロックの外し方：

- ・ ディファレンシャル・ロック・レバー (A) を下げます。

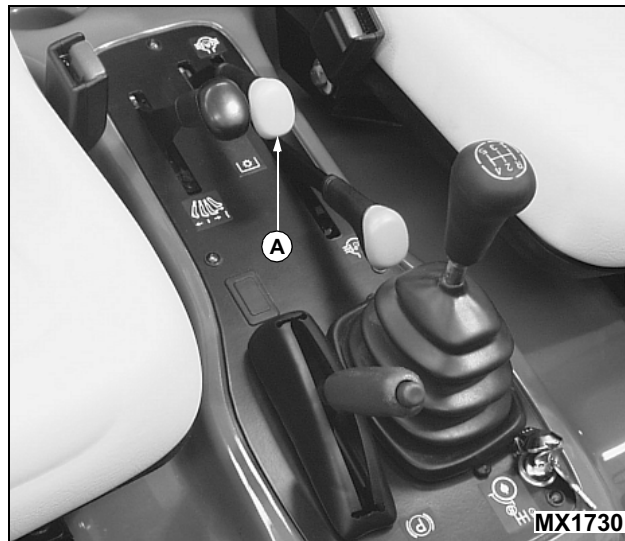
油圧 PTO コントロール・レバーの使用法

予備作動油キットが装備されている車両の場合、この操作手順を実行します。油圧 PTO レバーをつなぐと必要とする付属装置に予備作動油が供給されます。

重要：損傷に注意して下さい！ 予備付属装置を接続していない時は、PTO コントロール・レバーを操作しないこと。油圧流がさえぎられ、圧力が油圧コントロール・バルブのリリーフ・ポートに伝わらず異常加熱状態を起こし、構成部品に故障を招く恐れがあります。

予備作動油レベルは使用するたびにチェックして下さい。

油圧 PTO の接続方法：



- ・ レバー (A) をオン (☞) 位置まで引き上げます。

油圧 PTO の外し方：

- ・ レバー (A) をオフ (☞) 位置まで押し下げます。

リフト・シリンダ・レバーの使用法



注意：ケガに注意して下さい！

- ・ 荷台を持ち上げる前に、車両が堅い平らな地面に置かれ、パーキング・ブレーキがかかっていることを確認します。車両が上り坂に面しているときに荷台を上げると、その重みで車体が転倒する恐れがあります。
- ・ リフト・シリンダの安全サポートを正しく装着しないまま、付属装置を持ち上げて整備点検を行わないこと。

付属装置の持ち上げ方：

1. エンジンを始動します。

運転中



2. レバー (A) を引いて保持します。
3. レバーを離します。レバーはニュートラル位置に戻り、付属装置はリフト・シリンダのロック位置に保持されます。

付属装置の降ろし方：

メモ：付属装置を下げると、エンジンが稼働中でも停止中でもリフト・シリンダは引っ込みます。

1. レバーを押し下げ、付属装置が降りるか必要とする位置に来るまで保持します。
2. レバーを離します。レバーはニュートラル位置に戻り、付属装置はリフト・シリンダのロック位置に保持されます。

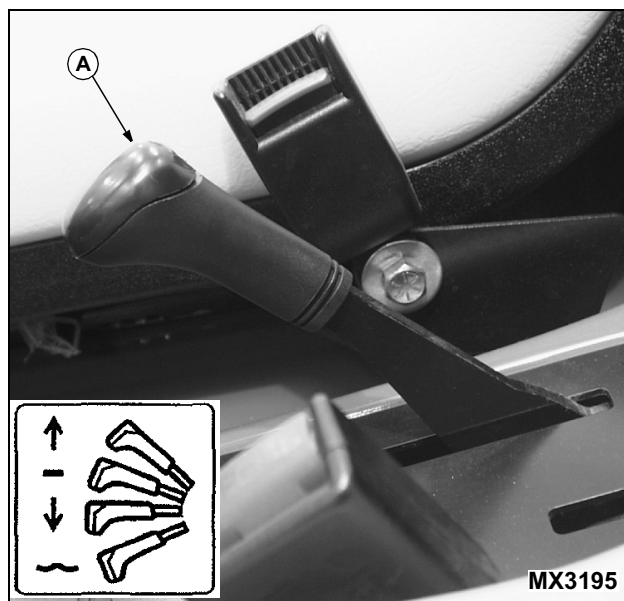
メモ：予備の油圧 PTO をつないで車両を運転する場合、付属装置を下げた後、少し間を置いてからリフト・シリンダ・レバーを降ろすようにして下さい。これによってリフト・シリンダのスプールに負荷チェックが確実に収まり、リフト・シリンダを所定の位置にロックすることができません。

テールゲート・リリース・キットを装備した荷台付属装置のある車両を運転する場合、荷台を下げた後少し間を置いてからリフト・シリンダ・レバーを下げる必要があります。これによってテールゲートがロックされ、がたつきなくなります。

付属装置を浮動状態にする方法：

メモ：浮動状態にすると付属装置が地形に応じて動くようにリフト・シリンダを自由運動させることができます。

リフト・シリンダ・レバーを浮動状態にすると持ち上げられていた付属装置は地面に着く所まで下がります。良好な持ち上げ負荷コントロールを保つために、付属装置を下げる目的では浮動状態にしないようにして下さい。

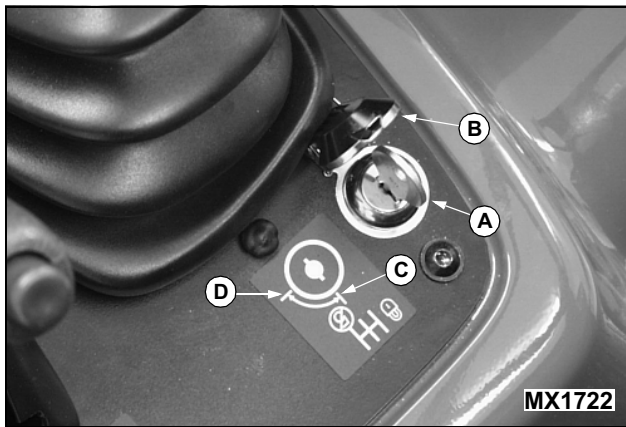


1. レバー(A) を押し下げて“降下”位置を通過させ、さらに力を加えて、デテントを越えてレバーを押し下げて浮上位置にロックします。
2. レバーを引き上げて浮動位置から解除します。
3. レバーを離します。レバーはニュートラル位置に戻り、付属装置はリフト・シリンダのロック位置に保持されます。

トップ (5 速) ギア・ロックアウトの使用法



注意：ケガに注意して下さい！高速で運転すると、制御不能、荷崩れ、転倒などを引き起こす恐れがあります。荷物の運搬時、障害物近辺での運転時、ターンする時、その他オフロードの危険な場所での運転時は、高速運転を行わないこと。



写真注：5速ギアがロックアウトされている状態の、キー位置を示しています。

本車両には5速ギアをロックアウトするキー付きロック(A)が装備されています。運転するときの条件によって走行速度の制限とともに、このトップ・ギアの使用抑制機能も行うようにして下さい。

5速ギアのロックアウト法：

メモ：トランスミッションがすでに5速に入っているときは、ロックできません。

1. ギア・シフト・レバーを5速ギア以外の位置に動かして下さい。
2. スイッチ・カバー (B) を持ち上げます。
3. キーをキー・スイッチに差し込みます。
4. キーを (C) 位置に回します。

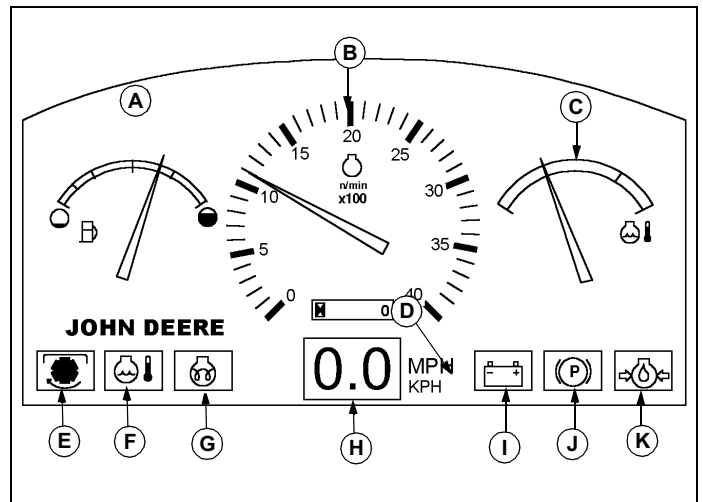
重要：損傷に注意して下さい！ このロックにキーを差し込んだまま車両を運転しないで下さい。スイッチ・カバーは、水や砂、その他の異物がキーの穴に入らないように、必ず閉じて下さい。

5. キーを抜き取ります。

5速ギアのロックの外し方：

1. ギア・シフト・レバーをいずれかの位置に入れます。
2. スイッチ・カバー (B) を持ち上げます。
3. キーをキー・スイッチに差し込みます。
4. キーを (D) 位置に回します。
5. キーを抜き取ります。

インストルメント・パネル



- A - 燃料ゲージ
- B - タコメータ
- C - 冷却液温度ゲージ
- D - 時間計
- E - PTO インジケータ
- F - 冷却液温度インジケータ
- G - グロー・プラグ回路インジケータ
(ディーゼル・エンジン・モデル)
- H - 速度計 LED 表示
- I - バッテリー電圧低下インジケータ
- J - パーキング・ブレーキ・インジケータ
- K - エンジン・オイル圧カインジケータ

燃料ゲージ (A) は燃料タンクに入っている燃料のおおよその量を表示します。

タコメータ (B) は速度を決めるために使用される計器です。エンジン速度が 100 単位で表示されます。例えば、インジケータが 20 を示す時は、 $20 \times 100 = 2000$ RPM の回転数となります。

エンジン冷却液温度ゲージ (C) は、エンジン温度の上がり過ぎを知らせるものです。このゲージの表示針が赤色の範囲内に入り込んだときは、すぐにエンジンを停止し、原因を調べて下さい。

時間計 (D) によって、エンジンの作動時間の概数が示されます。この時間計と「定期点検表」を使用して必要とされる整備点検の時期を確認して下さい。

PTO インジケータ (E) は油圧 PTO レバーが入れられたときにのみ点灯します。

エンジン冷却液温度インジケータ (F) は、エンジン冷却液の温度が上がり過ぎて危険範囲に達すると点灯します。エンジン速度をアイドリング速度まで下げて下さい。エンジン冷却液レベルの点検、及びラジエータへの空気の流れがさえぎられていないことを確認します。そのまま運転を

運転中

続けるとさらに温度が上昇して機械の破損を招く恐れがあります。

グロー・プラグ・インジケータ（ディーゼル・エンジン・モデル）（G）が見えるのは、キー・スイッチが「作動」（RUN）位置に回されて点灯した時のみです。キー・スイッチを「作動」位置に回した後、約3秒で表示ライトは消えるはずですが、このインジケータはエンジン・グロー・プラグがオンで、エンジン燃焼室に余熱を与えていることを示します。

速度計 LED 表示（H）は、キー・スイッチが作動位置に回された時に点灯します。このLED表示は車両速度を示します。

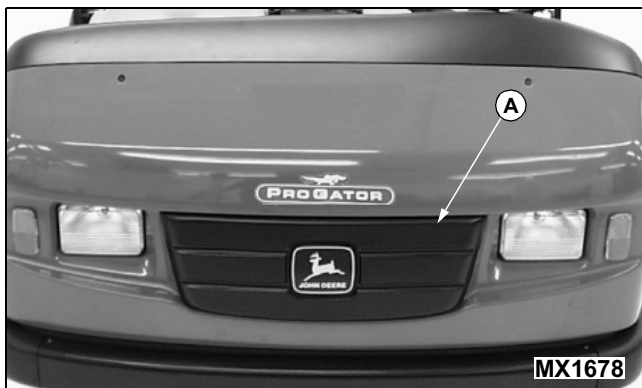
バッテリー電荷インジケータ（I）はキー・スイッチが「作動」位置に回されたときに点灯します。これはオルタネータによって十分な電流が出力されていないことを示すインジケータです。エンジンを止めて、原因を確認して下さい。

パーキング・ブレーキ・インジケータ（J）は、パーキング・ブレーキがロックされたときに点灯します。

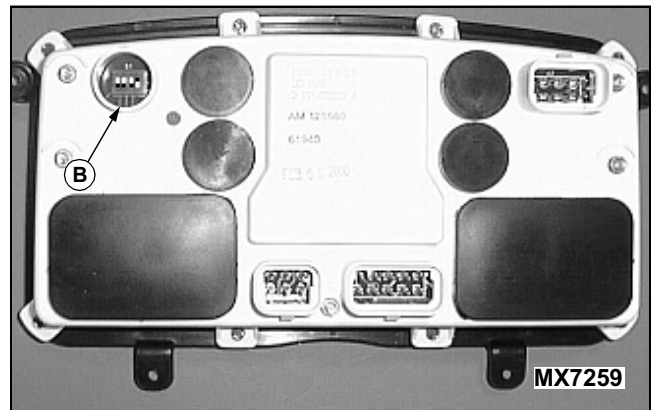
エンジン・オイル圧カインジケータ（K）は、エンジン・オイル圧力が低い時に点灯します。エンジン運転中にランプが点いた時は、直ちにエンジンを停止して下さい。このインジケータは、エンジン・オイル残量が少ないか、又はエンジンに何らかの大きな問題が発生したことを知らせるものです。

エンジン速度計の切り替え

1. バッテリーのマイナス側のケーブルを外します。

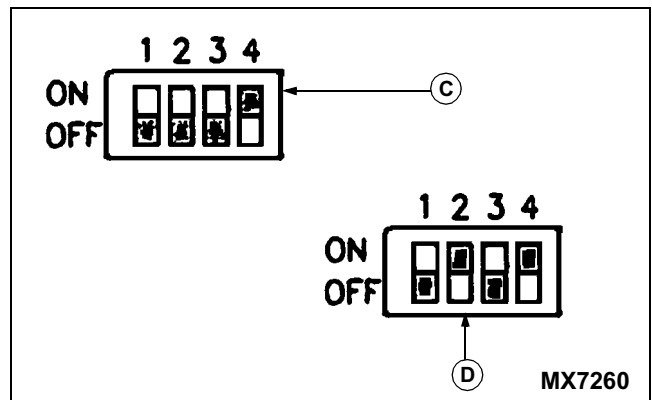


2. フロント・グリル（A）を取り外します。



3. インストルメント・パネル後側にある mph/kph スイッチ（B）の位置を確認します。

メモ：このスイッチは標準タイヤを使用している車両にセットされています。



4. 各スイッチまで届く長さのドライバを用いて、MPH（C）（工場設定）か KPH（D）に速度単位を切り換えます。
5. フロント・グリルを取り付けます。
6. バッテリーのマイナス・ケーブルを接続します。

5 段同期型トランスミッションの操作

クラッチ・ペダルの使用法

重要：損傷に注意して下さい！ 不必要な磨耗のため、運転中は、クラッチ・ペダルに足を乗せたままでは、決して“運転”しないで下さい。

ギヤをロー（1 速）、セコンド（2 速）、バック（R）に入れてクラッチ・ペダルを踏んだまま坂を下ると、クラッチの回転を異常に高めてしまう可能性があります。ギヤを入れてクラッチを切った状態のまま車輪を空回りさせないこと。

運転中



クラッチ・ペダル（A）の機能：

- ・ エンジン動力をトランスミッションに伝えたり、切ったりします。
- ・ ギア・シフト・レバーと共に操作して、ギアのシフトを行います。

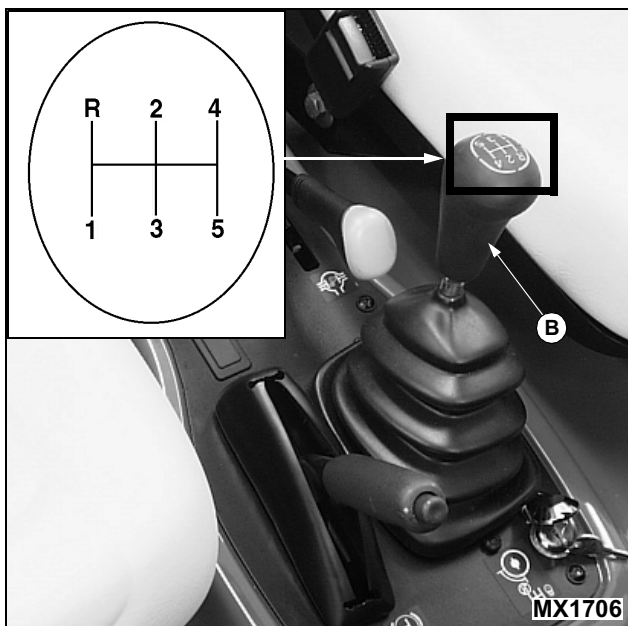
クラッチの切り離し方：

- ・ クラッチ・ペダルを完全に踏みます。これで、トランスミッションはエンジン動力から切り離されます。

クラッチの入れ方：

- ・ クラッチ・ペダルから足をゆっくり離します。これでトランスミッションがエンジン動力につながります。

ギア・シフト・レバーの使用法



ギア・シフト・レバー（B）は運転席右側のコンソール上にあります。ギア・シフト・レバーには、前進が5速、後

進が1速あります。

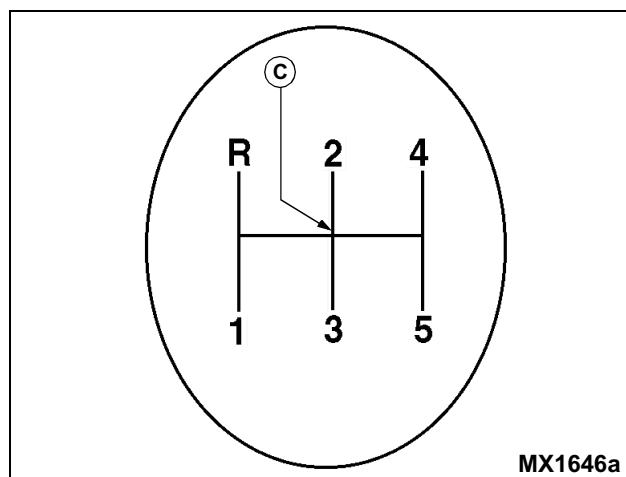
ギア・シフト・レバーで希望する速度と方向を選びます。ロー（1速）とセコンド（2速）は非常にゆっくりで重い積載物を運搬するときに使用します。

ギア	標準サイズのタイヤで回転数 3,300RPM の時の対地最高速度
1	4.5 km/h (2.8 mph)
2	7.4 km/h (4.6 mph)
3	12.7 km/h (7.9 mph)
4	24.1 km/h (15 mph)
5	30.7 km/h (19.1 mph)
R	5.8 km/h (3.6 mph)

前進走行

1. パーキング・ブレーキをかけます。

メモ：エンジンを始動するときは、ギア・シフト・レバーをニュートラル位置にしておかなければなりません。



2. ギア・シフト・レバーを、“2”と“3”の間のニュートラル位置（C）に動かします。
3. クラッチ・ペダルを踏み、エンジンを始動します。
4. ギア・シフト・レバーを動かして、希望する起動ギアにします。
 - ・ 積載物がある場合 — ロー（1速）ギア
 - ・ 積載物がない場合 — セコンド（2速）かサード（3速）ギア
5. パーキング・ブレーキを解除します。
6. クラッチ・ペダルからゆっくり足を離してスムーズに発進させます。

重要：損傷に注意して下さい！ダウンシフトする時は一度に2段以上飛ばさないで下さい。例えば、5速から4速に落とすのは全く問題なく、5速から3速に落とすのも可能ですが、5速から2速まで落とすことは推奨できません。ギアを一度に3段以上落とすと、クラッチの回転がその限界（10,000 RPM）を超す恐れがあります。10,000 RPM 以上回転させてしまうとクラッチの損傷を招き、故障発生の原因となります。

7. 走行中のギア・シフト：

- ・ クラッチ・ペダルを踏んで、次のギアにシフトします。
- ・ クラッチ・ペダルからゆっくり足を離します。

後進走行

1. 車両を完全に停止させます。
2. クラッチ・ペダルを踏みます。
3. ギア・シフト・レバーをバックに入れます。
4. クラッチ・ペダルからゆっくり足を離します。

エンジンの始動



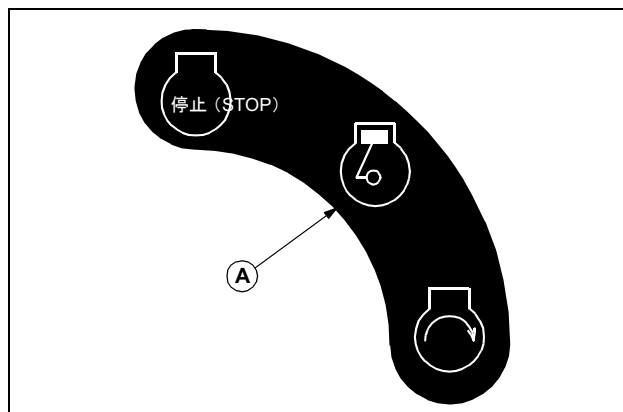
注意：ケガに注意して下さい！エンジンからの排気ガスは一酸化炭素を含み、重病や死亡を起こす要因となる恐れがあります。

エンジンは車両を屋外に移動してから始動して下さい。

密閉され、換気が不十分な場所ではエンジンを作動させないこと。

- ・ 作業場所に排気ガスを溜めないようにするには、延長パイプをエンジンの排気管に接続して外へ吐き出します。
- ・ 作業場所には外からの新鮮な空気を十分に取入れて排気ガスを浄化させます。

1. ディーゼル・エンジン・モデル：燃料シャットオフ・バルブを開きます。
2. パーキング・ブレーキをかけます。
3. 油圧 PTO レバーを押して、オフ (OFF) 位置にします。
4. ギア・シフト・レバーを動かして、ニュートラル位置にします。



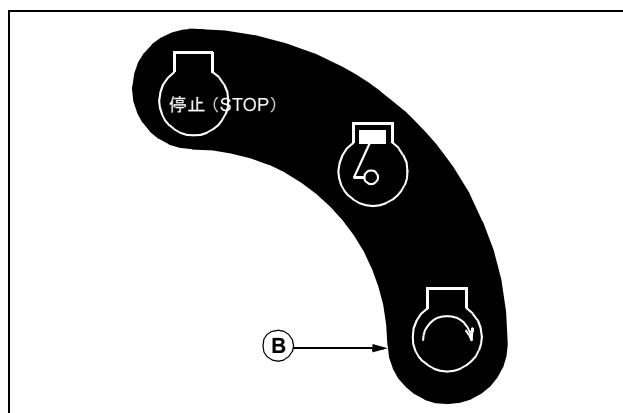
5. キー・スイッチを運転位置（A）へ回します。

6. 表示ライトのチェック：

- ・ バッテリー放電表示ライトが点灯します。
- ・ パーキング・ブレーキ表示ライトが点灯します。
- ・ エンジン・オイル圧表示ライトが点灯します。
- ・ **ディーゼル・エンジン・モデル：**グロー・プラグ表示ライトが点灯します。約3秒後、表示ライトは消えます。これでエンジンは始動準備完了です。

重要：損傷に注意して下さい！スタータは、損傷を招く恐れがあるので、一度に20秒以上回したままにしないこと。

エンジンが始動しない場合、再試行は2分ほど待ってから行います。エンジンが始動しない場合は、「トラブルシューティング」のセクションを参照して下さい。



7. キー・スイッチを始動位置（B）まで回します。

メモ：エンジンは始動時、低速アイドリングが1,450RPM ± 50RPM になるように工場で調整されています。

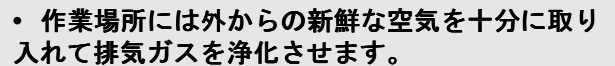
8. エンジンが始動したら、キーから手を離すと、スイッチは作動位置に戻ります。

- ・ バッテリー放電表示ライトが消えます。
- ・ エンジン・オイル圧力表示ライトが消えます。

 注意：ケガに注意して下さい！車両から離れる時は、必ずパーキング・ブレーキをかけて下さい。パーキング・ブレーキをかけないと車両が勝手に動き出してしまう恐れがあります。ギア・シフト・レバーをニュートラル位置にすると、車両はフリーホイール状態になります。

-
- A diagram of a curved road with three traffic signs. The first sign is a stop sign with the text '停止 (STOP)'. The second sign is a yield sign with a downward-pointing triangle. The third sign is a circular arrow sign indicating a roundabout. An arrow points from the stop sign to a circle containing the letter 'A'.

-



1. オペレータは運転席に着きます。
2. パーキング・ブレーキをかけます。

運転中

3. ギア・シフト・レバーを“R”（バック）位置に入れます。
4. キー・スイッチをスタート位置へ回します。
5. エンジンはかからないはずです。
6. シフト・レバーを各ギアに入れて、始動手順を繰り返します。
7. エンジンはかからないはずです。
8. ギア・シフト・レバーをニュートラル位置に動かします。
9. キー・スイッチをスタート位置へ回します。

結果：エンジンは回るはずですが、ギア・シフト・レバーをニュートラル以外の位置に入れてエンジンが始動する場合、安全インターロック回路に問題があります。（お近くのジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。）

予備油圧システム・スイッチのテスト



注意：ケガに注意して下さい！ PTO インターロック・スイッチは安全性を保つために設計されており、PTO コントロール・レバーがオン（) 位置にあって予備のクイックカップラに圧力が伝わっていない場合、エンジンを始動させないようにするものです。PTO インターロック・システムに故障がある場合、又は接続されていない場合、本車両の運転は絶対に行わないこと。車両の始動中、予備の付属装置が突然動き出すことがあります。

メモ：車両後部にある予備の油圧クイックカップラに付属装置が何も接続されていないことを確認して下さい。

1. オペレータは運転席に着きます。
2. パーキング・ブレーキをかけます。
3. ギア・シフト・レバーをニュートラル位置に動かします。
4. 油圧 PTO レバーを引いてオン（) 位置にします。
5. キー・スイッチをスタート位置へ回します。

結果：エンジンはかからないはずですが、エンジンが始動する場合、安全インターロック回路に問題があります。（お近くのジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。）

オペレータが運転席で腰を上げた状態でのエンジン稼働



注意：ケガに注意して下さい！

- 座席から離れる前は、常にパーキング・ブレーキをかけます。
- 付属装置の機能により必要な場合を除き、運転中は座席から離れないで下さい。

メモ：通常の運転状態では、オペレータが座席から離れると、エンジンは停止することになっています。

オペレータが座席から離れても、エンジンを運転し続けるには：

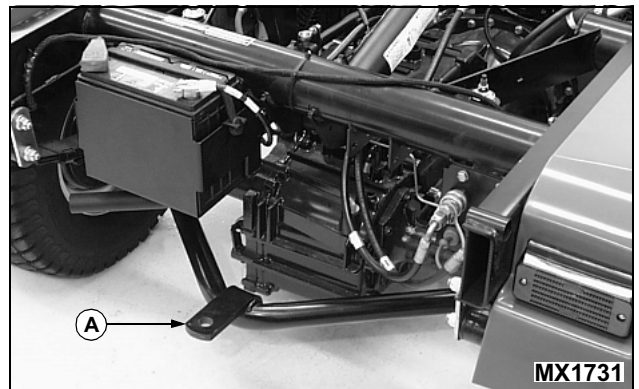
1. クラッチ・ペダルとブレーキ・ペダルを踏んで車両を停止させます。
2. ギア・シフト・レバーをニュートラル位置に動かします。
3. パーキング・ブレーキをかけます。
4. ゆっくりクラッチ・ペダルとブレーキ・ペダルから足を離します。
 - これでオペレータが運転席から離れてもエンジンは稼働し続けます。

ユーティリティ・ビークルの牽引



注意：ケガに注意して下さい！ 牽引は本車両の荷台や付属装置にある積載物を降ろしてから行って下さい。積載物を載せたまま牽引すると両方の車両がバランスを失う恐れがあります。

1. ギア・シフト・レバーをニュートラル位置に動かします。



・ 本車両用に装備された、承認済みのリア・ヒッチ・ポイント (A) をいつもご使用下さい。これは承認済みのヒッチ・ポイントです。決して改造しないで下さい。

- 引きづなは車両前部下側のメイン・フレームの両側にある楕円形のスロット (A) に取り付けます。
- パーキング・ブレーキを解除します。



注意：ケガに注意して下さい！本車両を牽引する時は、16 km/h (10 mph) 以内で走行して下さい。エンジンが動いていない時はハンドル操作が固くなります。

- 車両を目的地へ、ゆっくり、慎重に牽引します。

積載物の牽引



注意：ケガに注意して下さい！積荷を牽引する時は、コントロールを失って転倒などしないように、必ず速度を十分に落として下さい。

ブレーキや牽引の能力を適度に保つため、荷台に積荷がある場合、又は付属装置が装備されている場合以外は、牽引を行わないで下さい。

- ・ 本車両では、680 kg (1,500 lb) を超える積荷は牽引しないで下さい。
- ・ タング重量は 90.7 kg (200 lb) を超えないようにして下さい。
- ・ コントロールを失わないように、十分低速で積荷を牽引します。



注意：ケガに注意して下さい！トラクタを運転する時は運搬速度に注意して下さい。牽引される方がトラクタよりも重く、ブレーキが装備されていない場合は速度を落とします。推奨運搬速度については、牽引される機器のオペレーターズ・マニュアルをご覧ください。

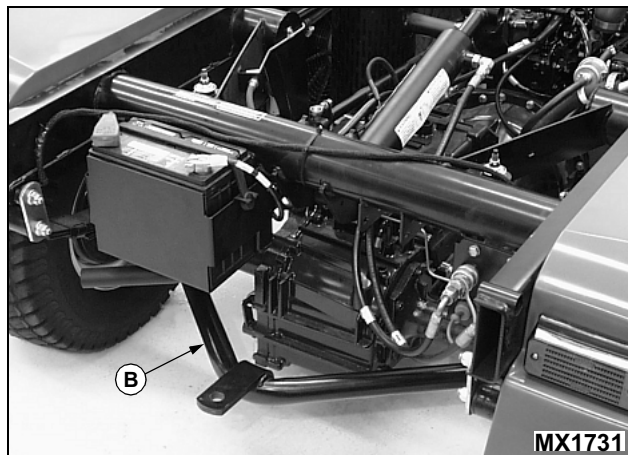
不適当な地面状態で牽引積荷を移送するとき、特に方向転換するときや傾斜地面上では、さらに注意します。

州や地方の規則で禁止されていない限り、公道を走行するときは、警報灯と方向指示器を使用することが望まれます。安全照明キットは、お近くのジョン・ディア代理店で求められます。

1. 車両はトレーラーに対して前向きにつないで運転します。
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）
3. **ディーゼル・エンジン・モデル：**運搬中は燃料シャットオフ・バルブを“OFF”位置にします。
4. 木片などで後輪に輪止めをします。
5. 特別に丈夫なストラップ、チェーン又はケーブルを使って車両を固定します。



MX1732



MX1731

・ 固定用具は、車体前部下のメイン・フレームの両側にある楕円形のスロット (A) 及び車体後部にあるヒッチ・アッセンブリの両側 (B) に取り付けて下さい。

・ 前部後部の取り付けひもは両方とも、車両からみて下向きかつ外向きに向けて下さい。

6. 道路又は高速道路上で運搬する場合は、アクセサリ・ライトと適切な警告装置を使用して、他の車両の運転者に適切な注意を促します。関係する法令をお調べ下さい。

荷台の上げ下げ



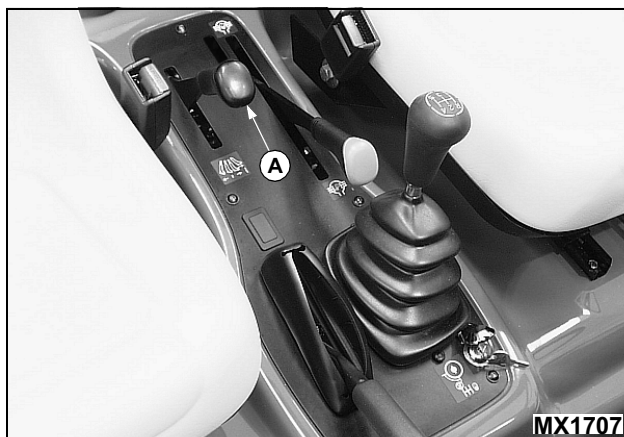
注意：ケガに注意して下さい！

・ 荷台を持ち上げる前に、車両が堅い平らな地面に置かれ、パーキング・ブレーキがかかっていることを確認します。車両が上り坂に面しているときに荷台を上げると、その重みで車体が転倒する恐れがあります。

・ リフト・シリンダの安全サポートを正しく装着しないままで、付属装置を持ち上げて整備点検を行わないこと。

・ 荷台の積荷をすべて降ろしてから、車両の整備点検を行って下さい。

1. エンジンを始動します。



MX1707

2. リフト・シリンダー・レバー (A) を引いたまま保持し、荷台を持ち上げます。

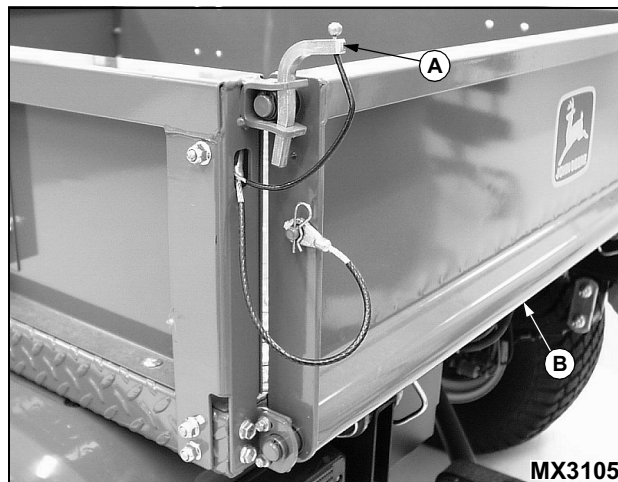
メモ：エンジンが運転中でも停止中でも、リフト・シリンダが引き込み、荷台は下がります。

レバーを降下位置を越えてラッチ付き浮上位置まで押し下げると、回路は急激な落下をしないように制限されるので、荷台は降下位置においたよりもさらにゆっくりと降下します。

3. レバー (A) を押し下げたまま保持すると荷台は下がります。

4. エンジンを停止します。

荷台テールゲートの操作



MX3105

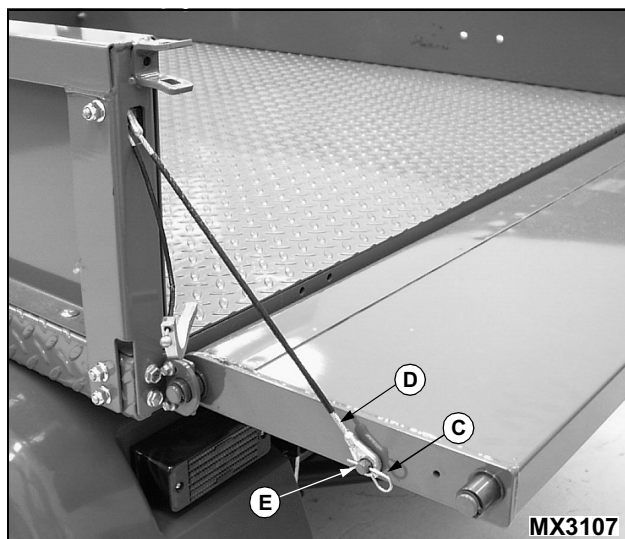
1. 各テールゲート・ラッチ・ピン (A) を引抜いて取り外します。

2. テールゲート (B) を降ろします。

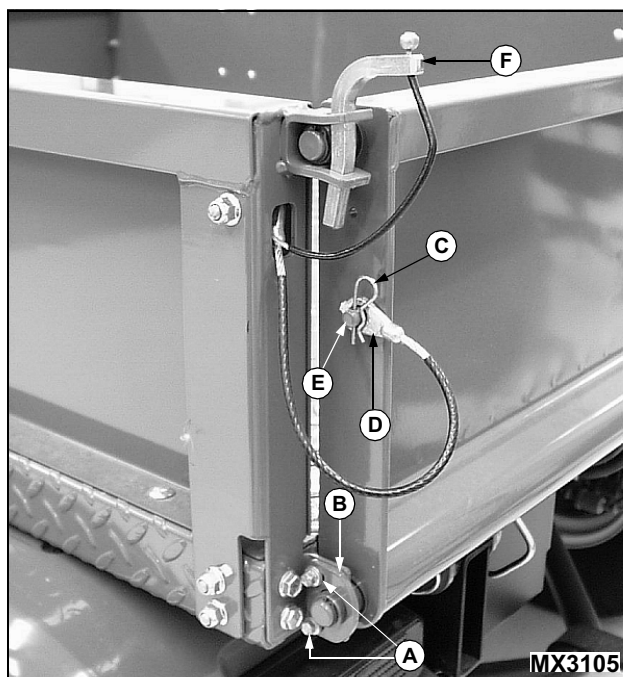


注意：ケガに注意して下さい！テールゲートが完全に降りた状態のまま車両を運転しないこと。テールゲートが完全に降りていると、後ろからテールライトが見えなくなり、追突される恐れがあります。

重要：損傷に注意して下さい！テールゲートを完全に降ろすと、リヤ・フェンダに接触し、変形させる可能性があります。テールゲートが完全に降りた状態のまま車両を運転しないこと。



3. スプリング・ロック・ピン（C）とケーブル（D）を止め穴付きスタッド（E）から取り外し、テールゲートを完全に降ろします。



2. 各側面から、ネジ（A）2本とテールゲート・サポート・プレート（B）を取り外します。
3. スプリング・ロック・ピン（C）及びケーブル（D）をそれぞれの止め穴付きスタッド（E）から取り外します。
4. 各テールゲート・ラッチ・ピン（F）を引抜いて取り外します。
5. テールゲートを取り外します。
6. テールゲートを装着するときは、以上の手順を逆にを行います。

荷台テールゲートの取り外し

1. テールゲートを閉じ、両側にラッチをかけます。

交換用パーツ

整備点検関連の書類について

本機に関するパーツ・カタログ、テクニカル・マニュアルをご要望の際は下記までご連絡下さい。

- ・ **米国又はカナダ**：1-800-522-7448.
- ・ **その他の地域**：ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。

パーツ：

お近くのジョン・ディア代理店でお求めいただける、品質の優れたジョン・ディア社製パーツ及び潤滑油をお勧めいたします。

パーツ番号は変更されることがあります。ご注文の際には、下記リストのパーツ番号をご使用下さい。パーツ番号が変更された場合は、お近くの代理店で最新の番号がわかります。

部品をご注文いただくときは、ジョン・ディア代理店にお客様の製品のシリアル番号をお知らせ下さい。これらの番号は、本マニュアルの「製品識別」セクションにお客様が記録された番号です。

パーツ名	パーツ番号
ヒューズ ・ 10 アンペア ・ 25 アンペア	57M7121 99M7069
ライト・バルブ ・ ヘッドライト ・ ストップライト／テールライト ・ 表示ライト	AM118013 AR48041 57M7926
オルタネータ・ベルト - 全モデル共通	M802026

(パーツ番号は予告なしに変更されることがあります。
パーツ番号は、アメリカ国外では異なることがあります)

パーツ番号

パーツ名	パーツ番号
エア・クリーナ・アッセンブリ - 全モデル共通 ・ 1 次エレメント ・ 2 次エレメント	M113621 M123378
エンジン・オイル・フィルタ - 全モデル共通	M806418
トランスミッション・オイル・ストレーナ	M800489
作動油フィルタ	M131053
スパーク・プラグ - ガソリン・エンジン・モデル	M805853
Battery	AM125463
燃料フィルタ ・ ガソリン・エンジン・モデル ・ ディーゼル・エンジン・モデル	AM876035 CH15553
キー - トップ (5 速) ギア・ロックアウト	M142370

定期点検

機械の整備点検

以下の予定表を使い、機械の定期メンテナンスを実行して下さい。

重要：損傷に注意して下さい！ 極めて厳しい条件で運転する場合は、より頻繁に整備点検する必要があります。

- ・ 極めて高温であつたり、ホコリが非常に多かつたり、その他極めて厳しい条件下で運転すると、エンジン構成部分が汚れたり、詰まつたりします。
- ・ 車両をいつも低速で運転したり、短時間に発停を繰り返していると、エンジン・オイルとスパーク・プラグの効率が悪くなります。

毎回のご使用前に

- ・ エンジンのオイル・レベルをチェックします。
- ・ トランスミッションのオイル・レベルをチェックします。
- ・ 冷却液レベルをチェックします。
- ・ 予備オイル・リザーバ・タンクの作動油レベルを点検します。
- ・ 安全インターロック・システムを点検します。

毎回のご使用後に

- ・ オペレータ・ステーションのゴミを取り除きます。
- ・ 吸気口スクリーンとファン・シュラウドを清掃します。
- ・ 緩んだり、無くなつたり、損傷した部品がないかチェックします。
- ・ 燃料ゲージを点検し、必要に応じて補充します。

ブレークイン期間中 — 機械の初期稼動時から10 時間経過後

- ・ タイヤ空気圧をチェックします。
- ・ ホイール金具の締め付け具合を点検します。
- ・ 金具が緩んでいないかチェックします。

ブレークイン期間中 — 機械の初期稼動時から50 時間経過後

- ・ エンジン・オイルとフィルタを交換します。
- ・ トランスミッション・オイルとフィルタを交換します。

- ・ トランスミッション・オイル・ストレーナを清掃します。
- ・ 4WD モデル：前輪アクスル・オイルを点検します。
- ・ ブレーキ液レベルをチェックします。
- ・ 吸気口ホース、油圧ホース、ラジエータ・ホース、クランプをチェックします。
- ・ オルタネータ・ベルトの摩耗度及び張力を点検します。
- ・ 予備作動油タンクの作動油とフィルタを交換します。

稼動 100 時間おきに

- ・ ホイール金具の締め付け具合をチェックします。
- ・ エンジン・オイルとフィルタを交換します。
- ・ 4WD モデル：駆動シャフトのフィッティング（3箇所）に注油します。
- ・ 4WD モデル：前輪アクスル・オイルをチェックします。
- ・ エア・クリーナ・エレメントをチェックします。
- ・ ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグを清掃します。
- ・ バッテリーの電解液レベルをチェックします。

稼動 200 時間おきに

- ・ エンジン・オイルとフィルタを交換します。
- ・ ディーゼル・エンジン・モデル：燃料セディメント容器を清掃します。
- ・ ラジエータ冷却フィンをチェックし、清掃します。
- ・ 予備作動油キットのオイル冷却器コイルを清掃します。
- ・ バッテリー電解液レベルをチェックします。
- ・ オルタネータ・ベルトの摩耗度及び張力を点検します。
- ・ 吸気口ホース、油圧ホース、ラジエータ・ホース、クランプを点検します。

稼動 450 時間おきに

- ・ トランスミッション・オイルとフィルタを交換します。
- ・ 予備作動油タンク（オプション）の作動油とフィルタを交換します。
- ・ 4WD モデル：前輪アクスル・オイルを交換します。
- ・ 予備リザーバ・タンクの作動油とフィルタを交換します。
- ・ トーイン調整を点検します（テクニカル・マニュアル

定期点検

を参照するか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。

毎年

- 冷却液の凍結点と清澄度をチェックします。
- 燃料フィルタを交換します。
- バッテリーを清掃します。

2000 時間ごと、あるいは 2 年ごと

- COOL-GARD™ PRE-DILUTED SUMMER COOLANT (TY16036) を使用している場合は、エンジン冷却液を交換します。

3000 時間ごと、あるいは 3 年ごと

- COOL-GARD™ CONCENTRATED SUMMER COOLANT (TY16034) を使用している場合は、エンジン冷却液を交換します。

必要に応じて

- オルタネータ・ベルトを交換します。
- エア・クリーナ・エレメントを交換します。
- ヒューズを交換します。
- バッテリーを清掃または交換します。
- ライトのバルブを交換します。
- タイヤ空気圧をチェックします。
- ブレーキ液を補充します。
- パーキング・ブレーキのリンク機構を調整します。(テクニカル・マニュアルを参照するか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。)
- クラッチ・ペダルリンク機構を調整します。(テクニカル・マニュアルを参照するか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。)
- アクセル・ペダルリンク機構を調整します。(テクニカル・マニュアルを参照するか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。)

エンジンの整備点検

エンジン保証メンテナンスについての表明

本エンジンの排気ガス・コントロール装置及びシステムのメンテナンス、修理、交換は、お客様ご自身の負担でなされる場合には、エンジン修理会社あるいは個人で行うことができます。保証修理は、必ず正規ジョン・ディア代理店でなければなりません。

キャブレタの調整

メモ：キャブレタはエンジン・メーカーで校正済みのため、調整できません。

エンジンを標高 1,829 m (6,000 ft) 以上で運転する場合は、キャブレタによっては、特別な高地用主ジェットが必要になる場合があります。お近くのジョン・ディア代理店にお問い合わせ下さい。

エンジンが始動しにくかったり、スムーズに運転できない場合は、本マニュアルの「トラブルシューティング」セクションをチェックして下さい。

トランスミッションが“N”ニュートラルで、芝刈機かみ合いレバーが切り離されている状態で、スロットルが全開になると、エンジン・サージが発生します。これは、排気ガス規制装置によって起きる通常の現象です。

「トラブルシューティング」セクションのチェックを行った後もエンジン正しく作動しない場合は、ジョン・ディア代理店までご連絡下さい。

排気ガスの吸引防止



注意：ケガに注意して下さい！エンジンからの排気ガスは一酸化炭素を含み、重病や死亡を起こす要因となる恐れがあります。

エンジンは車両を屋外に移動してから始動して下さい。

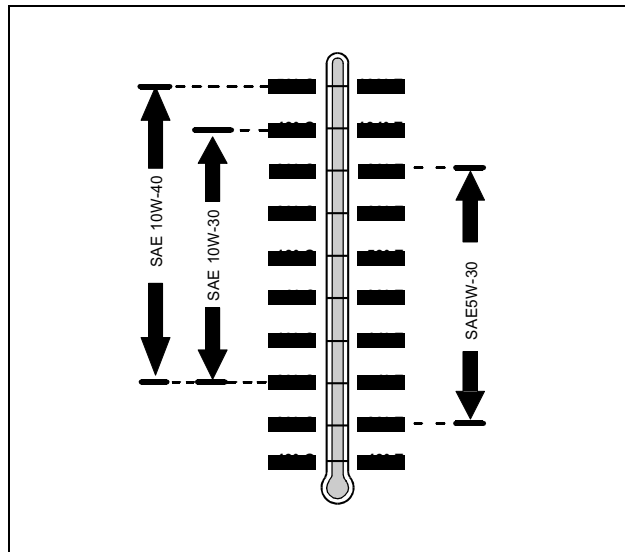
密閉され、換気が不十分な場所ではエンジンを作動させないこと。

- 作業場所に排気ガスを溜めないようにするには、延長パイプをエンジンの排気管に接続して外へ吐き出します。
- 作業場所には外からの新鮮な空気を十分に取入れて排気ガスを浄化させます。

エンジン・オイル（ガソリン・エンジン）

次のオイル交換までの期間、予想される気温範囲に適した粘度のオイルを使用して下さい。

下記のジョン・ディア社製のオイルが推奨されます。



- TURF-GARD®
- PLUS-4®

上記ジョン・ディア社製オイルが入手できない場合は、下記の仕様に適合していれば、他のオイルを使用することもできます。

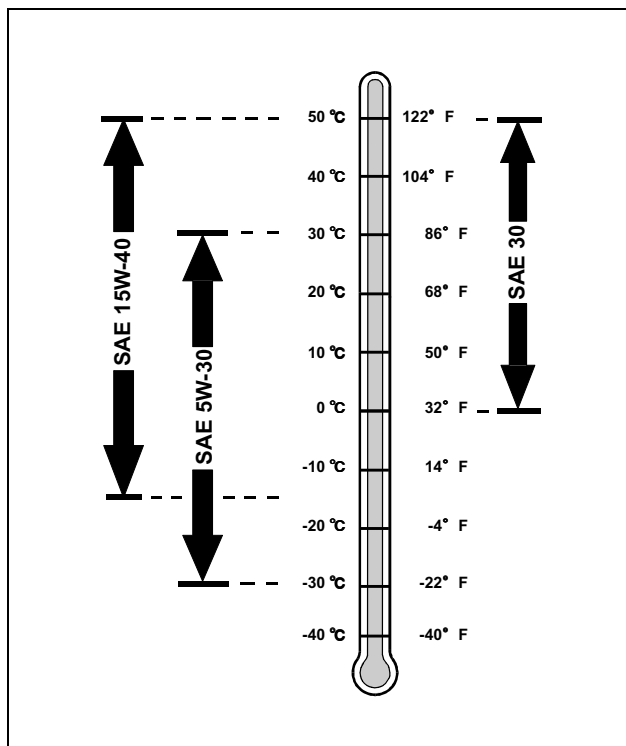
- API（アメリカ石油協会）Service Classification SG 以上

エンジン・オイル – ディーゼル・エンジン・モデル

次のオイル交換までの期間、予想される気温範囲に適した粘度のオイルを使用して下さい。

下記のジョン・ディア社製のオイルが推奨されます。

エンジンの整備点検



- PLUS-50® (SAE 15W-40)
- TORQ-GARD SUPREME® (SAE 30)
- TORQ-GARD SUPREME® (SAE 5W-30)
- PLUS-4®

上記ジョン・ディア社製オイルが入手できない場合、下記仕様を1つ満足すれば、他のオイルを使用することもできます。

- SAE 15W-40 泡 PI Service Classification CF-4 以上。
- SAE 5W-30 泡 PI Service Classification CC 以上。
- SAE 10W-30 泡 PI Service Classification CF 以上。
- SAE 30 泡 PI Service Classification CF 以上。

エンジン・オイル・レベルの点検

重要：損傷に注意して下さい！オイル・レベルの定期チェックを怠ると、オイル・レベルが不足した時に重大なエンジン・トラブルを招く恐れがあります。

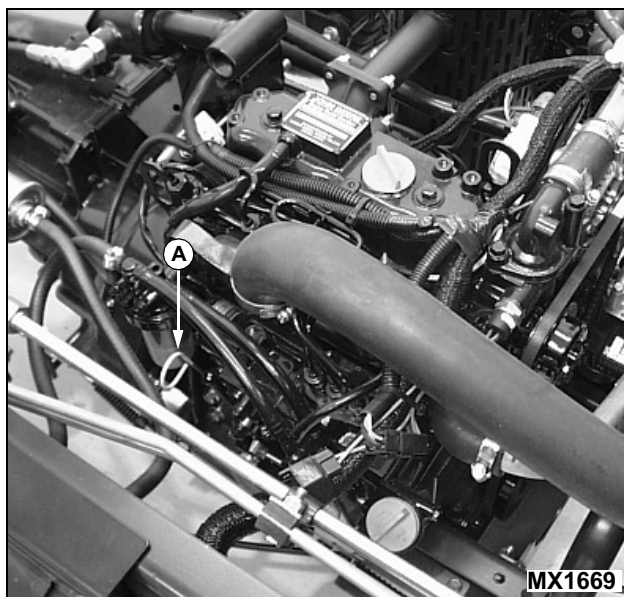
- 運転前にオイル・レベルをチェックします。
- オイル・レベルの点検は、エンジンが停止し、温度が十分に下がっている時にします。
- オイル・レベルは、「FULL」マークと「ADD」マークの間を維持して下さい。
- エンジンを停止してから、オイルを補充して下さい。

メモ：1日4時間以上エンジンを運転する場合は、1日2回オイルをチェックします。

エンジンのオイル・レベルをチェックするときは、エンジンが冷めていることを確認します。

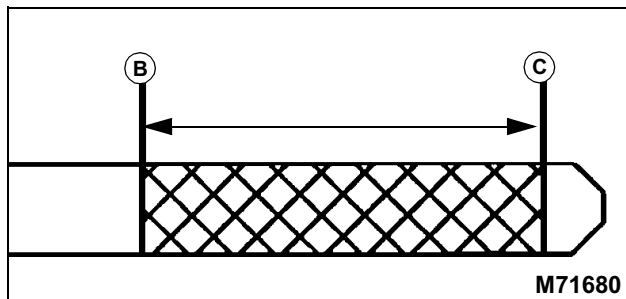
- 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」をご参照下さい）
- 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）

重要：損傷に注意して下さい！ゴミやその他の汚染物質がディップスティック・チューブに入らないよう注意して下さい。ディップスティックを抜く前に、周辺を清掃して下さい。



写真注：ディーゼル・エンジンを示しています。

- ディップスティック（A）を抜き取ります。きれいな布でディップスティックを拭きます。
- ディップスティックを取り付けます。



- ディップスティックを抜き取ります。ディップスティックに付いたオイル・レベルをチェックします。オイル・レベルは、ディップスティックの（B）レベルと（C）レベルの間になければなりません。

エンジンの整備点検

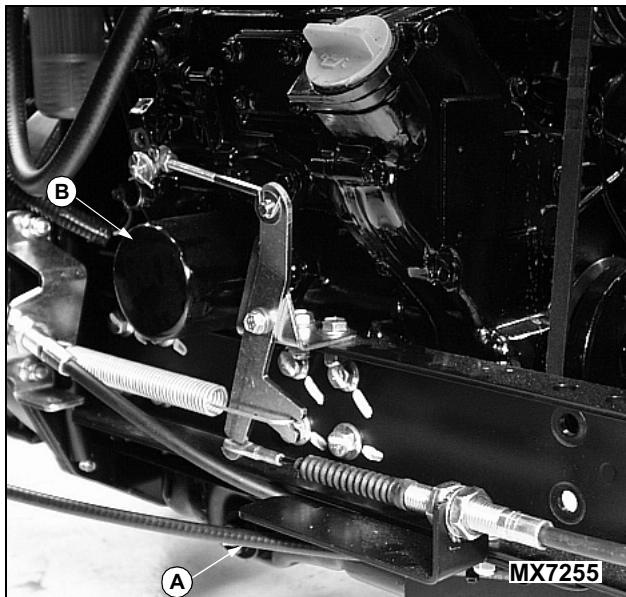
- オイル・レベルが低い時は、ディップスティックの (B) レベルを越えない範囲でオイルを補充して下さい。
 - オイル・レベルが (B) レベルを越えている場合は、適切なレベルになるまでオイルを抜きます。
6. ディップスティックを取り付けます。
 7. 付属装置を降ろします。

エンジン・オイルとフィルタの交換

重要：損傷に注意して下さい！車両が過酷な条件で使用されている場合は、オイルをもっと頻繁に交換します。

- 極端にほこりが多い状態。
- 低速運転を頻繁に行う場合。
- 短時間の運転を頻繁に行う場合。

1. エンジンを作動させてオイルを温めます。
2. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」をご参照下さい）
3. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）
4. オイルを抜く場所に容器を置きます。

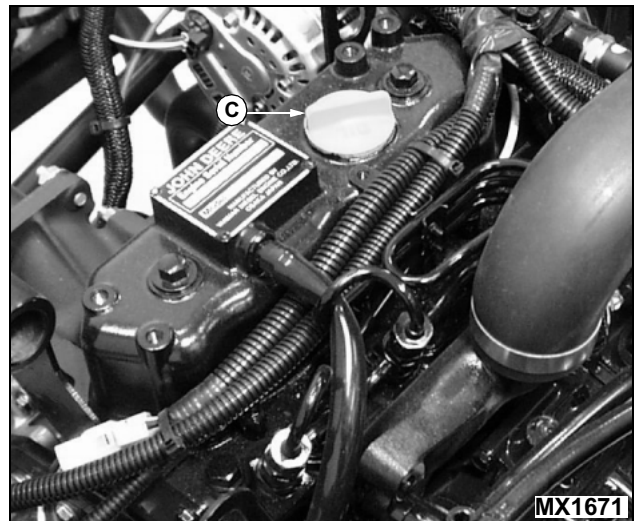


写真注：ディーゼル・エンジンを示しています。

5. エンジン右下部にあるドレーン・プラグ (A) を取り外します。
6. オイル・フィルタ (B) を取り外します。
 - エンジン右下部にあるフィルタの位置を確認します。

- フィルタを反時計方向に回して、取り外します。
7. 新しいフィルタのガスケットに、きれいなエンジン・オイルを薄く塗って下さい。
 8. オイル・フィルタを取り付けます。
 - フィルタを時計方向に回して、ガスケットを取り付け面に接触させます。ガスケットが接触したら、1/2 ～ 3/4 回転分、さらに締め付けます。
 9. オイル・ドレーン・プラグを取り付けます。締め付け過ぎないように注意して下さい。

メモ：オイル・フィラ・キャップがもう1つ、エンジンの右側にあります。

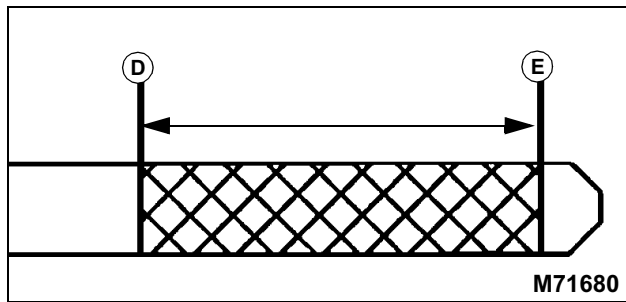


10. エンジン上部のオイル・フィラ・キャップ (C) を取り外します。
11. 約 2.1 L (2.2 qt) のオイルを補充します。
12. オイル・フィラ・キャップを取り付けます。
13. エンジンを始動します。
 - 約 2 分間、エンジンを低スロットル速度で運転します。
14. エンジン下部にオイル漏れがないかチェックします。
15. エンジンを停止します。
16. 約 2 分後、エンジン・オイルのレベルをチェックします。

重要：損傷に注意して下さい！ゴミやその他の汚染物質がディップスティック・チューブに入らないよう注意して下さい。ディップスティックを抜く前に、周辺を清掃して下さい。

17. ディップスティックを抜き取ります。きれいな布でオイルを拭き取ります。
18. チューブにディップスティックを取り付けます。

エンジンの整備点検



19.ディップスティックを抜き取ります。ディップスティックのオイル・レベルを点検します。オイル・レベルは、ディップスティックの (D) レベルと (E) レベルの間になければなりません。

- ・ オイル・レベルが低い時は、ディップスティックの (D) レベルを越えない範囲でオイルを補充して下さい。
- ・ オイル・レベルが (D) レベルを越えている場合、適正なレベルになるまでオイルを抜きます。

20.ディップスティックを取り付けます。

21.付属装置を降ろします。

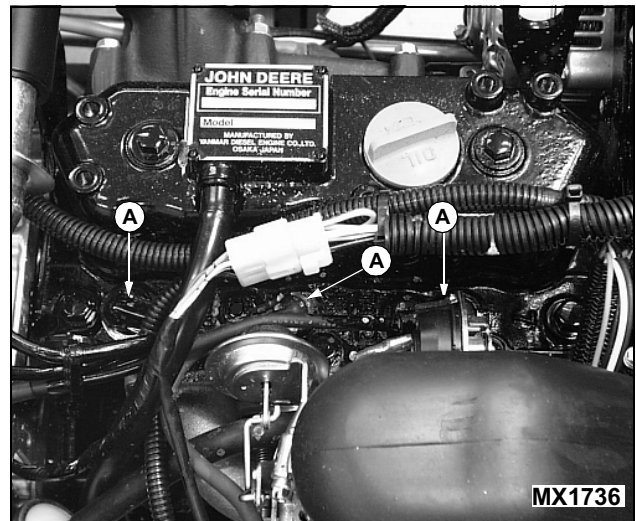
スパーク・プラグの点検



注意：ケガに注意して下さい！熱くなっている所に触れると、火傷する恐れがあります。運転後暫くはエンジンやその他の構成部品が熱くなっています。エンジン温度が下がるのを待ってから、整備点検を開始して下さい。

重要：損傷に注意して下さい！スパーク・プラグの清掃に研磨剤を使用しないで下さい。

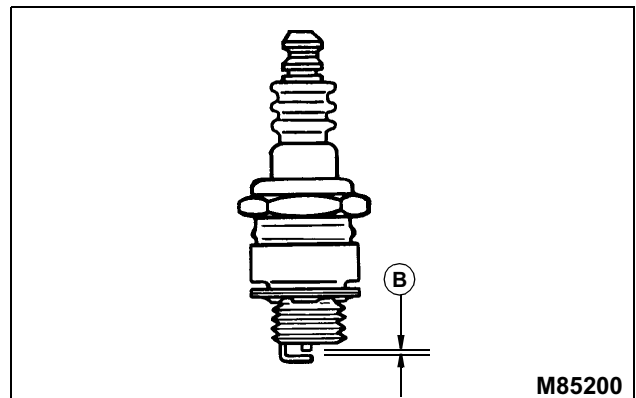
1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）
3. 各スパーク・プラグの周囲を清掃します。



4. 各プラグからスパーク・プラグ・ワイヤ (A) を外します。

5. スパーク・プラグを取り外して、点検します。

- ・ 各プラグを清掃して損傷がないかチェックし、必要に応じて交換します。
- ・ プラグの状態が良好であれば、ギャップをチェックします。



6. スパーク・プラグのギャップ (B) をチェックし、0.76 mm (0.030 in.) に調整します。

7. スパーク・プラグを取り付けます。

- ・ 20 N・m (15 lb-ft) まで締め付けます。

8. 各スパーク・プラグ・ワイヤを取り付けます。

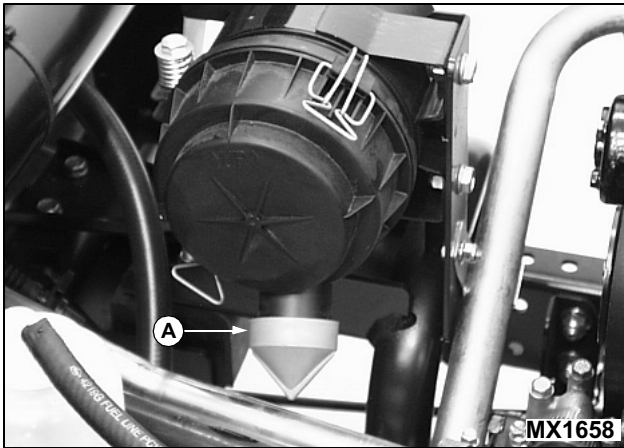
9. 付属装置を降ろします。

エンジンの整備点検

ゴム製チリ除去バルブの清掃

重要：損傷に注意して下さい！ エア・クリーナ・エレメント及びゴム製チリ除去バルブが取り付けられていない状態で、絶対にエンジンを運転してはいけません。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. ゴム製チリ除去バルブ（A）を取り外し、手入れします。損傷している場合は交換します。
4. チリ除去バルブを取り付けます。
5. 付属装置を降ろします。

吸気口スクリーンの清掃

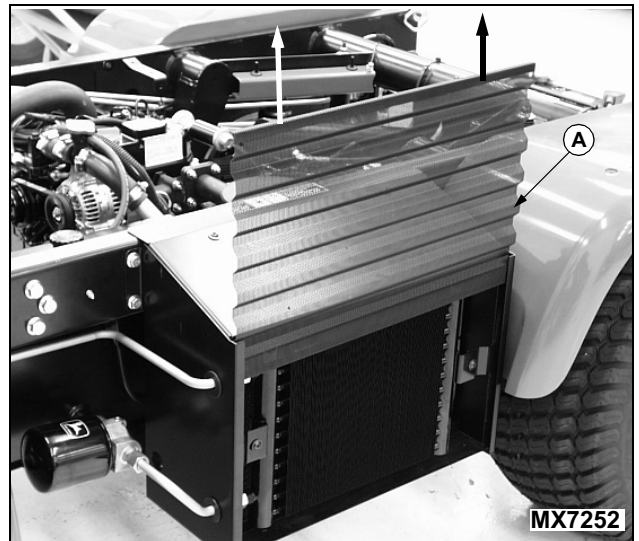


注意：ケガに注意して下さい！ 熱くなっている所に触れると、火傷する恐れがあります。運転後暫くはエンジンやその他の構成部品が熱くなっています。エンジン温度が下がるのを待ってから、整備点検を開始して下さい。

重要：損傷に注意して下さい！ フィルタ・エレメントに破損があると、そこを通してホコリやゴミがエンジンに入る恐れがあります。

- ペーパ・エレメントは洗浄しないで下さい。
- 何かにたたきつけて、ペーパ・エレメントの汚れを取ろうとしてはいけません。
- エレメントの清掃に圧縮空気を使わないで下さい。
- ひどく汚れていたり、破損していたり、シールにひび割れがある場合は、エレメントを交換します。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. エンジン・ラジエータの前側から吸気口スクリーン（A）を持ち上げます。
4. ブラシまたは圧縮空気を使って、スクリーンを清掃します。
5. グリル・スクリーンを取り付けます。
6. 付属装置を降ろします。

ラジエータ冷却フィンとファン・シュラウドの清掃



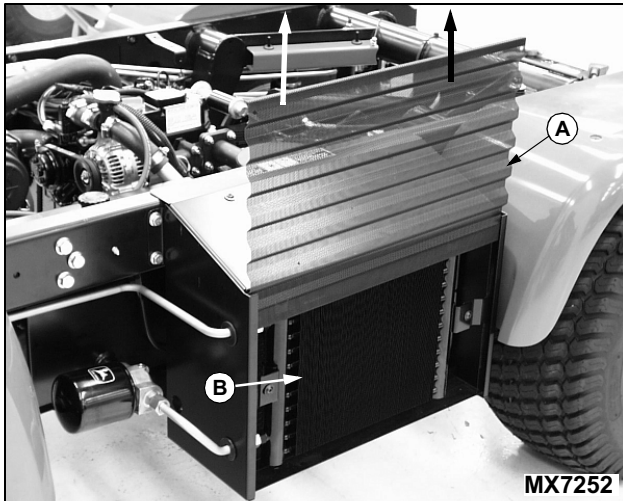
注意：ケガに注意して下さい！ 清掃のために圧縮空気を使用する時は、目の保護用ゴーグルを着用して下さい。

エンジンの整備点検

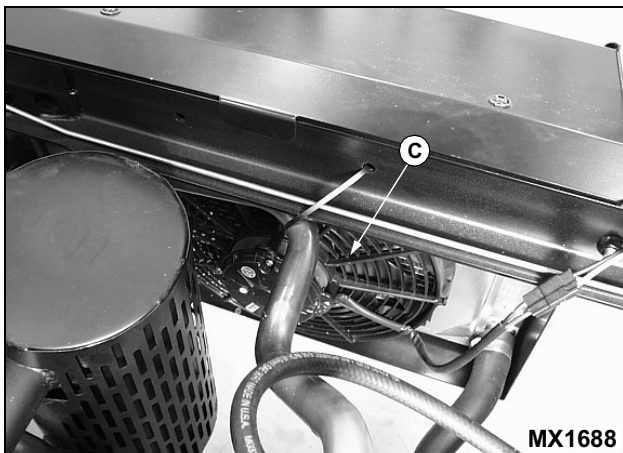
重要：損傷に注意して下さい！冷却フィンや吸気口スクリーンが汚れると、エンジンのオーバーヒートを招く恐れがあります。ラジエータ冷却フィンとファン・シュラウドは、必ず清掃して下さい。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. 吸気口スクリーン（A）を取り外します。



4. 圧縮空気か水を使って、ラジエータ冷却フィン（B）とファン・シュラウド（C）のゴミとホコリを取り除きます。

5. ラジエータ・フィンに損傷がないか、チェックします。

6. 吸気口スクリーンを取り付けます。

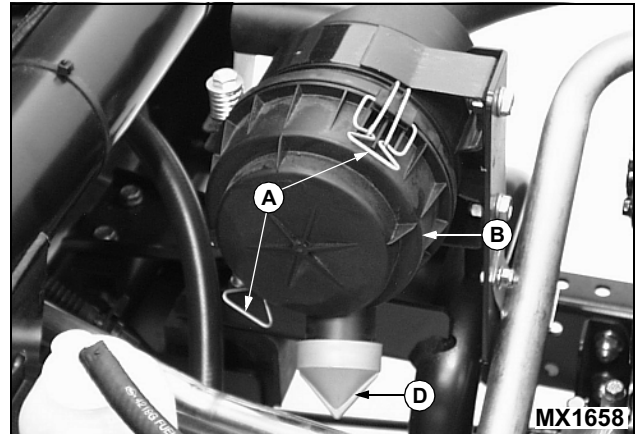
7. 付属装置を降ろします。

エア・クリーナ・エレメントの整備点検

エア・クリーナ・エレメントの点検

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. ラッチ（A）を外し、エア・クリーナのキャニスタ・カバー（B）を取り外します。

4. 取り外す前に、各エレメントを目視点検します。損傷や極度の汚れがある場合のみ、エレメントを交換します。

1次エア・フィルタ・エレメントの交換



1. 1次エレメント（C）を取り外し、廃棄します。新しい1次フィルタ・エレメントと交換します。

2. エア・クリーナ・キャニスタ・カバー（B）を取り付けます。

- 正しい取り付け方法については、キャニスタ・カバーに型取りされている記載に従って下さい。

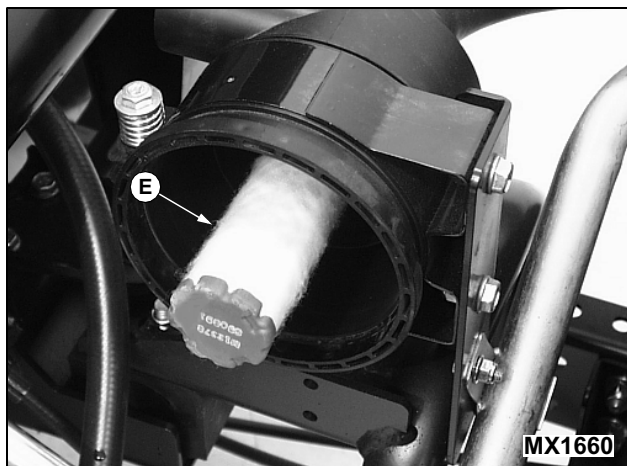
- ゴム製チリ除去バルブ（D）は、カバーが正しく取り付けられると下向きになるはずです。

3. ラッチ（A）を掛けます。

エンジンの整備点検

2次エア・フィルタ・エレメントの交換

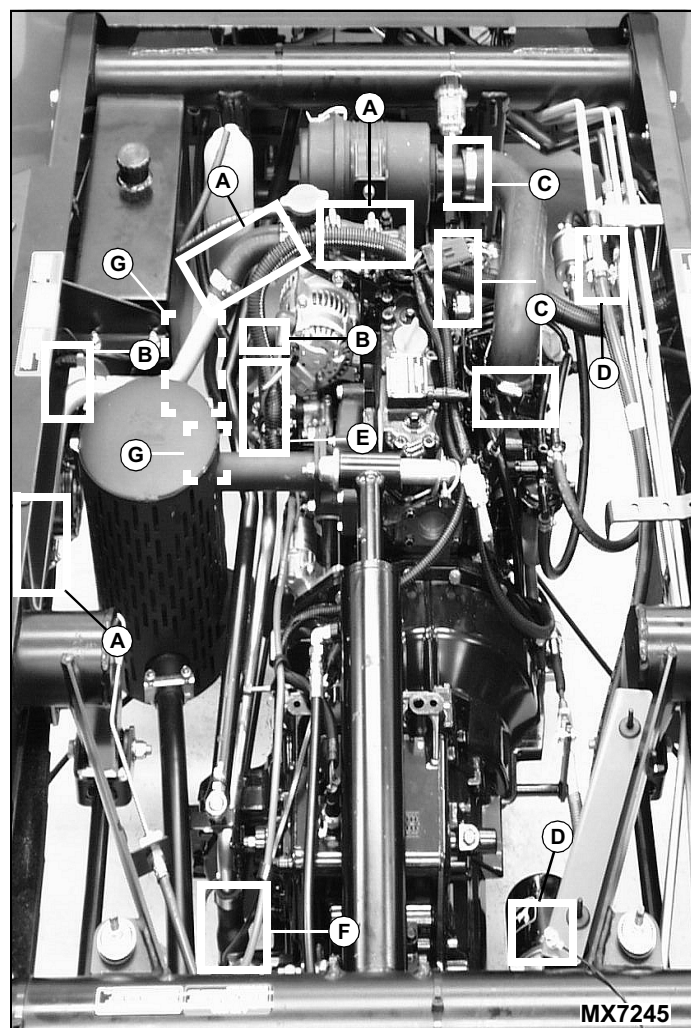
1. エア・クリーナ・キャニスタ・カバーを取り外します。
2. 1次エア・フィルタ・エレメントを取り外します。



3. 2次エア・フィルタ・エレメント (E) を取り外し、廃棄します。新しい2次エア・フィルタ・エレメントと交換します。
4. 1次エア・フィルタ・エレメントを取り付けます。
5. エア・クリーナ・キャニスタ・カバーを交換します。
6. 付属装置を降ろします。

吸気口ホース、油圧ホース、ラジエータ・ホース、クランプの点検

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。)

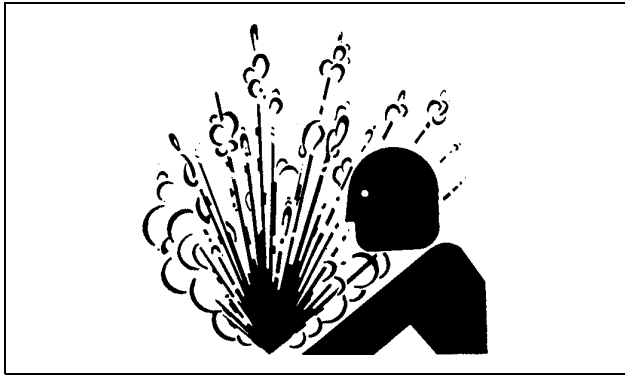


- A - 上部ラジエータ・ホース (クランプ 6 個)
- B - 下部ラジエータ・ホース (クランプ 4 個)
- C - 吸気口ホース (クランプ 2 個)
- D - 作動油ホース (クランプ 2 個)
- E - 作動油吸入マニホールド (クランプ 4 個)
- F - 油圧ホース (クランプ 2 個)
- G - 油圧ホース (クランプ 8 個)

3. ホースに漏れや破損がないこと、及び調節可能なクランプがしっかり緩まっていることを確認します。必要に応じて交換します。
4. 付属装置を降ろします。

エンジンの整備点検

冷却システムの安全な整備点検



注意：ケガに注意して下さい！加圧された冷却システムから噴出された流体を浴びると大火傷をする恐れがあります。

- エンジンを停止します。
- フィラ・キャップを開ける時は、必ずラジエータが手で触れても安全な温度に下がってからして下さい。キャップは、最初のストッパの所までゆっくり緩めて内部の圧力を抜いてから、完全に外して下さい。

推奨エンジン冷却液

下記のジョン・ディア社製冷却液をお勧めします。

- COOL-GARD™ PRE-DILUTED SUMMER COOLANT (TY16036)
- COOL-GARD™ CONCENTRATED SUMMER COOLANT (TY16034)

これら冷却液が両方とも入手できない場合は、以下の仕様に適合するグリコール・ベースの冷却液を使用して下さい。

- ASTM D4985 (JDM H24A2)

使用する前に容器のラベルをチェックし、ご使用の機械に適合した仕様のものであるかを確認して下さい。コンディショナ配合済みの冷却液を使用するか、又は使用前、冷却液にコンディショナを足して使用します。

濃縮液を使用する場合は、冷却システムに補充する前に、不凍液が約 50%、蒸留水又は脱イオン水が 50% になるように混合します。この混合液は -37 °C (-34 °F) までの不凍結効果があります。

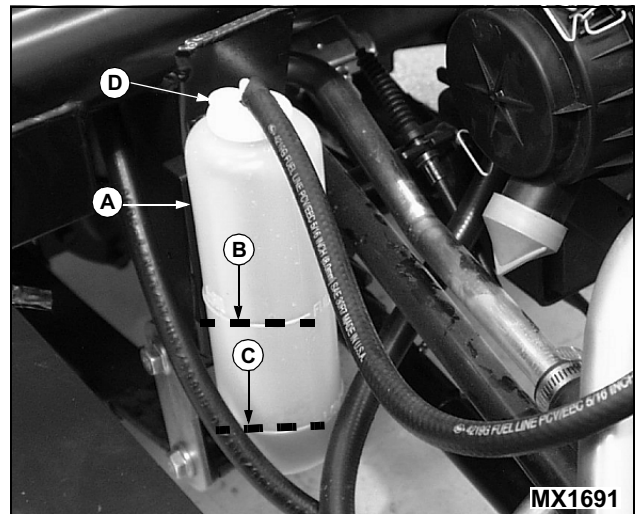
特殊な地理的条件下においては、更に低い温度に適応可能な不凍液が必要になります。その場合の最新情報及び推奨事項については、ご使用の不凍液のラベルをお読みになるか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。

冷却液レベルの点検

重要：損傷に注意して下さい！

- 冷却液が入っていないエンジンを作動させないこと。
- エンジンが熱いうちは、冷却液をラジエータに注入しないで下さい。
- アルミニウム製エンジンへの使用基準に適合した不凍液を使用して下さい。
- エンジンのオーバーヒートを防ぐため、含有量 50% を超える不凍液を冷却システムに入れないで下さい。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. リカバリ・ボトル（A）の冷却液レベルを点検します。
 - エンジンが暖まっている時は、冷却液レベルは“FULL”ライン（B）と“LOW”ライン（C）の間になっていなければなりません。
 - エンジンが冷えているときは、冷却液レベルはリカバリ・ボトルの“LOW”ライン（C）になっているはずです。
4. リカバリ・ボトルのキャップ（D）を取り外し、冷却液を補充します。
5. 冷却液レベルが低い時は、希釈済みの冷却液、又は指定割合の水で希釈した不凍液を加えます。
6. リカバリ・ボトルのキャップを取り付け、締め付けます。
7. 吸気口スクリーン、ファン・シュラウド、ラジエータ冷却フィン、予備オイル冷却器コイルのゴミを取り除きます。
8. 冷却液システムのホースとクランプの状態を点検しま

エンジンの整備点検

す。漏れ又は接続に緩みがないかを点検して下さい。

冷却システムの排液



注意：ケガに注意して下さい！ラジエータは熱くなるため触ると火傷をする恐れがあります。ラジエータ・キャップを取り外す時に内部に蓄積された圧力のため冷却液が噴出する恐れがあります。

- ・ エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。
- ・ ラジエータとエンジンが手で触れても安全な温度に下がるまではキャップを外さないこと。
- ・ キャップは、まず最初のストッパのところまでゆっくり緩めて内部の圧力を完全に抜いてから、取り外します。

重要：損傷に注意して下さい！

- ・ 冷却液が入っていないエンジンを作動させないこと。
- ・ エンジンがまだ熱いうちは冷却液をラジエータに注入しないこと。

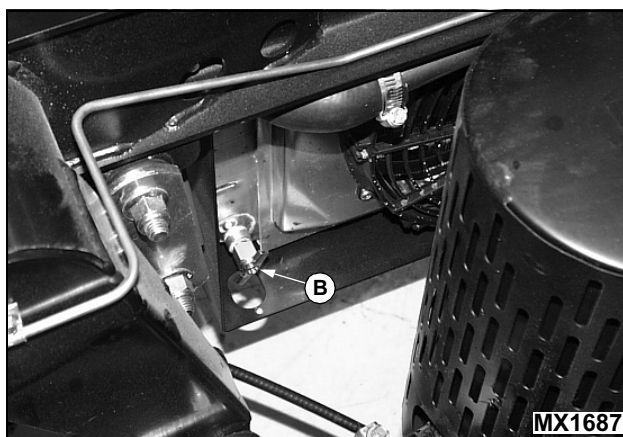
1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. ラジエータ・キャップ（A）を最初のストッパのところまでゆっくり開け、圧力をすべて逃がします。

4. ラジエータ・キャップをしっかり締めます。



5. ラジエータのペットコック（B）を開きます。冷却液を排液皿に排出します。

6. 冷却液をリカバリ・ボトルから排出したら、ラジエータ・キャップを取り外します。

7. 冷却液が全部排出されたら、ラジエータのペットコックを閉めます。

8. 冷却システムをフラッシングします。

冷却システムのフラッシング



注意：ケガに注意して下さい！エンジン及び冷却液は熱くなっている恐れがあります。

ラジエータ・キャップを回すときは、厚いぼろ布や手袋を使って手を保護して下さい。

1. 冷却システムに、清浄な水と John Deere Cooling System Cleaner か、John Deere Cooling System Quick Flush、又は同等の溶液を満たします。缶容器に記載の説明に従って下さい。

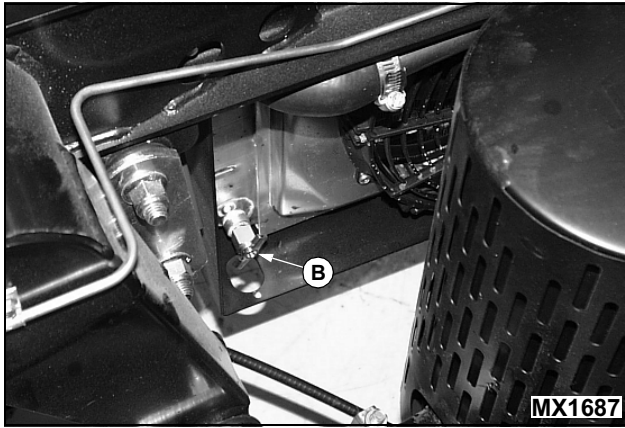


2. ラジエータ・キャップ（A）を取り付けて、締め付けます。

3. エンジンを始動し、運転温度に達するまで運転します。

4. エンジンを停止します。

エンジンの整備点検



5. ラジエータのペットコック (B) を開きます。
 - ・ さびや汚れが付着しないうちに、速やかに冷却システムを排液します。
6. ラジエータのペットコックを閉めます。

冷却システムの補充

重要：損傷に注意して下さい！不適当な冷却液混合液を使うと、ラジエータを損傷します。

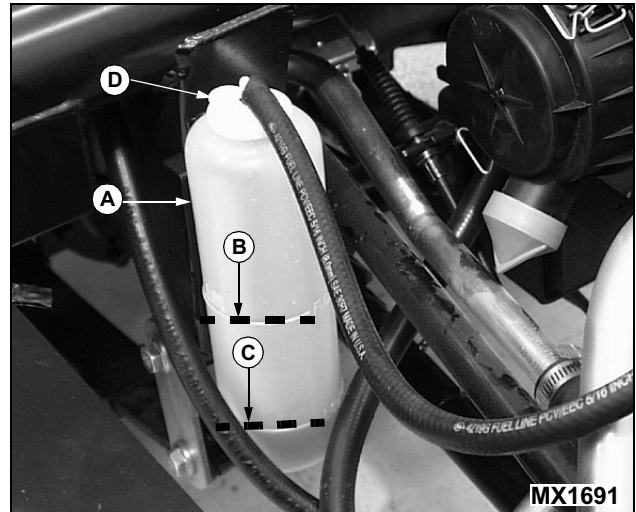
- ・ 普通の水をエンジンに使用しないこと。
- ・ アルミニウム製エンジンへの使用基準に適合した不凍液を使用して下さい。
- ・ 冷却液に加える不凍液の割合が 50% を超えないようにして下さい。
- ・ エンジンが熱いうちは、冷却液をラジエータに注入しないで下さい。

メモ：冷却システムに冷却液を追加するときは、ジョン・ディア社製 COOL-GARD 冷却液をお勧めします。

正しい混合割合については、容器に記載された指示に従って下さい。

1. 冷却システムに約 3.8 L (4.1 qt) の冷却液を補充します。
 - ・ 特殊な地理的条件下においては、更に低い温度に適応可能な不凍液が必要になります。その場合の最新情報及び推奨事項については、ご使用の不凍液のラベルをお読みになるか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。
 - ・ ジョン・ディア社製冷却システム・シーラー又は同等の製品をラジエータに加えると、漏れを防止することができます。これ以外の添加剤を冷却システムに使用しないで下さい。
2. ラジエータ・キャップを取り付けて、締め付けます。
3. エンジンが作動温度に達するまで作動させます。

4. エンジンを停止します。



5. リカバリ・ボトル (A) の冷却液レベルをチェックします。
 - ・ エンジンが暖まっている時は、冷却液レベルは“FULL”ライン (B) と“LOW”ライン (C) の間になっていなければなりません。
 - ・ エンジンが冷えているときは、冷却液レベルはリカバリ・ボトルの“LOW”ライン (C) になっているはずです。
6. 必要に応じて、キャップ (D) を取り外して冷却液を補充します。
7. 冷却液システムのホースとクランプの状態をチェックします。
8. 付属装置を降ろします。

燃料フィルタの交換（ガソリン・エンジン・モデル）



注意：ケガに注意して下さい！燃料の発散気は爆発性／可燃性です。

- ・ 燃料の取り扱い中は禁煙です。
- ・ 裸火やスパークを燃料に近づけないこと。
- ・ 整備点検前にエンジンは停止します。
- ・ 整備点検はエンジンの温度が下がってから開始して下さい。
- ・ 作業は換気のよい所で行って下さい。
- ・ こぼれた燃料は直ちに清掃します。

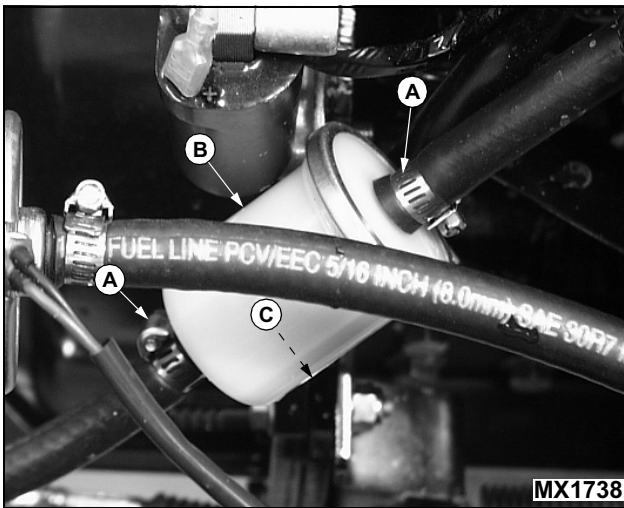
メモ：燃料が少ないときに、フィルタを交換します。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」

エンジンの整備点検

セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. エンジンの右側にあるフィルタ（B）から離れるように、ホース・クランプ（A）をスライドさせます。

4. フィルタからのホースを外します。

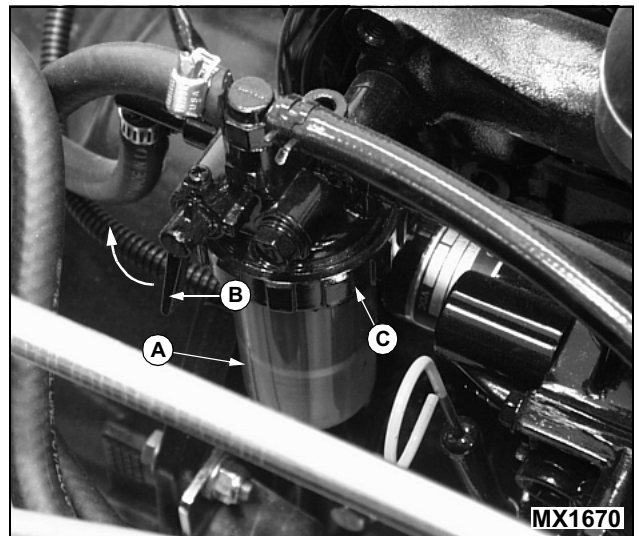
メモ：新しい燃料フィルタを取り付けるときは、フィルタの矢印（C）が燃料の流れる方向を指していることを確認して下さい。

5. 新しいフィルタを取り付けます。

6. 新しいフィルタにホースを接続します。

7. ホース・クランプを取り付けます。

8. 付属装置を降ろします。



3. セディメント容器（A）内の水と沈殿物を目視チェックします。

4. 必要に応じて、容器の清掃とフィルタの交換を行います。

清掃と交換

1. 燃料シャットオフ・バルブ（B）を閉じます。

2. カラー（C）を回して、容器とフィルタを取り外します。フィルタは廃棄します。

3. 容器を清掃します。

4. 新しいフィルタとボールを取り付けます。

5. カラーを締め付けます。

6. 燃料シャットオフ・バルブを開けます。

7. 付属装置を降ろします。

燃料フィルタ・セディメント容器（ディーゼル・エンジン・モデル）の整備点検



注意：ケガに注意して下さい！燃料系統に、タバコ、スパーク、裸火を近づけないで下さい。エンジンが冷めていることを確認して下さい。

点検

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



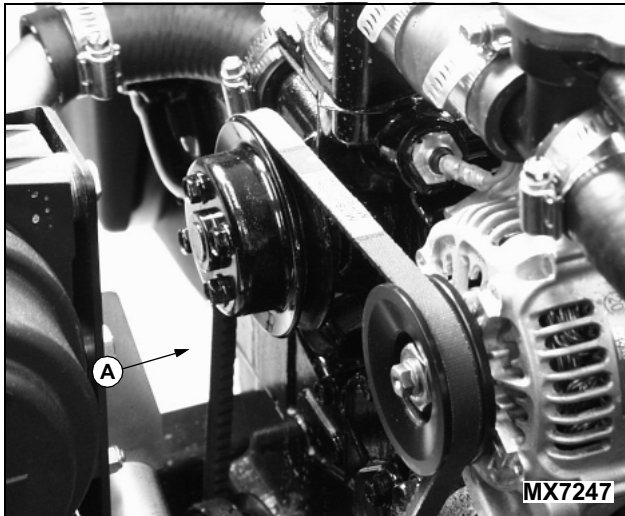
注意：ケガに注意して下さい！回転するベルトやシープへの巻き込みや接触によってケガをしないよう注意して下さい。エンジンを止めた後は全ての駆動パーツが止まるのを待って下さい。

ベルト張力の点検

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）

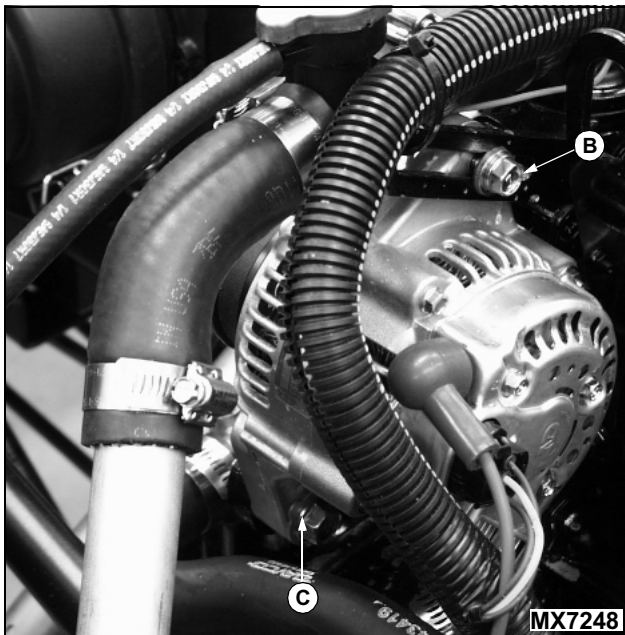
エンジンの整備点検



3. オルタネータ・ベルト (A) を点検します。

- ・ シーブ上の所定位置にある状態で、ベルトに過度の摩耗、破損、伸びがないかを点検します。
- ・ シーブのほぼ中間の位置に親指で圧力を加えます。ベルトが約 10 mm 内側にたわむはずです。

ベルト張力の調整



1. 調整用ボルト (B) を緩めます。
2. オルタネータの取り付け用ボルト (C) を緩めます。
3. オルタネータ・ハウジングに外側向きの力を加えます。
4. オルタネータ調整用ボルト (B) と取り付け用ボルト (C) を締め付けます。
5. ベルト張力をチェックします。
 - ・ シーブのほぼ中間の位置に親指で圧力を加えます。ベルトが約 10 mm 内側にたわむはずです。

6. 付属装置を降ろします。

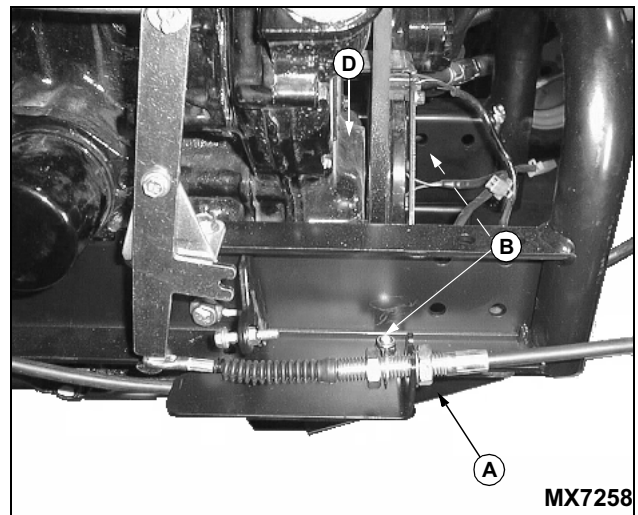
オルタネータ・ベルトの交換 (ガソリン・エンジン・モデル)



注意：ケガに注意して下さい！回転するベルトやシーブへの巻き込みや接触によってケガをしないよう注意して下さい。エンジンを止めた後は全ての駆動パーツが止まるのを待って下さい。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用方法」を参照して下さい。）

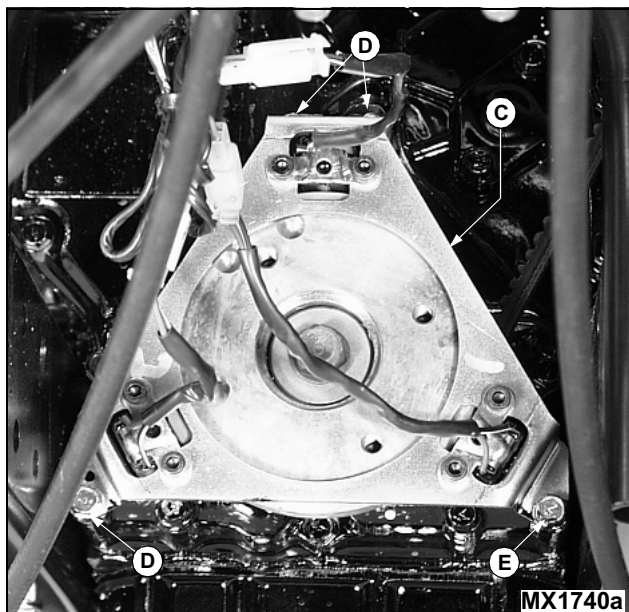
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



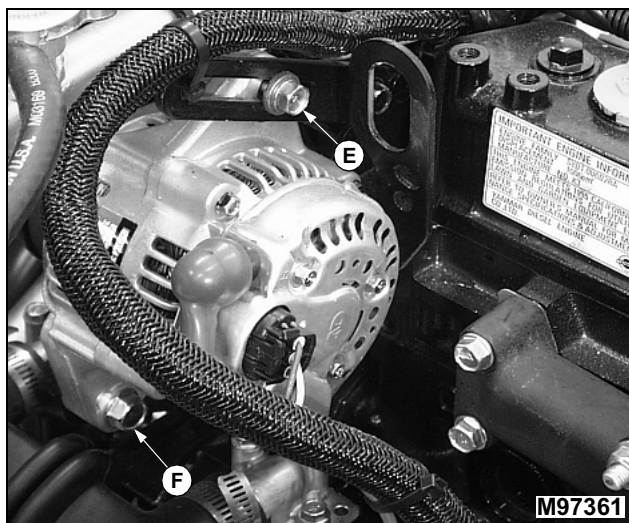
3. エンジン前部の車体下側にあるスキッド・プレート (A) を取り外します。

- ・ 2本のヘクス・ボルト (B) とフランジ付きロック・ナットを取り外し、今後の使用のために保管します。

エンジンの整備点検



4. パルサー・ブラケット (C) を取り外します。
- ・ 4本のキャップ・スクリュー (D) を取り外します。



5. オルタネータ調整用ボルト (E) を緩めます。
6. オルタネータの取り付け用ボルト (F) を取り外します。
7. オルタネータ・ハウジングに内側向きの力を加えます。
8. オルタネータ・シーブと両エンジン・シーブから摩耗したベルトを取り外します。
9. 新しいベルトを取り付けます。
10. オルタネータの取り付け用ボルト (F) を取り付けます。まだ完全には締めないこと。
11. オルタネータ・ハウジングに外側向きの力を加えます。
12. 調整用ボルト (E) と取り付け用ボルト (F) を締め付けます。

13. ベルト張力を点検します。

- ・ シーブのほぼ中間の位置に親指で圧力を加えます。ベルトが約 10 mm 内側にたわむはずです。

14. パルサー・ブラケットを、4本のキャップ・スクリューで取り付けます。

メモ：ボルトはスキッド・プレートの内側から外側へ取り付けます。

15. スキッド・プレートを4本のヘクス・ボルトと、先に取り外していたフランジ付きロック・ナットで取り付けます。

16. 付属装置を降ろします。

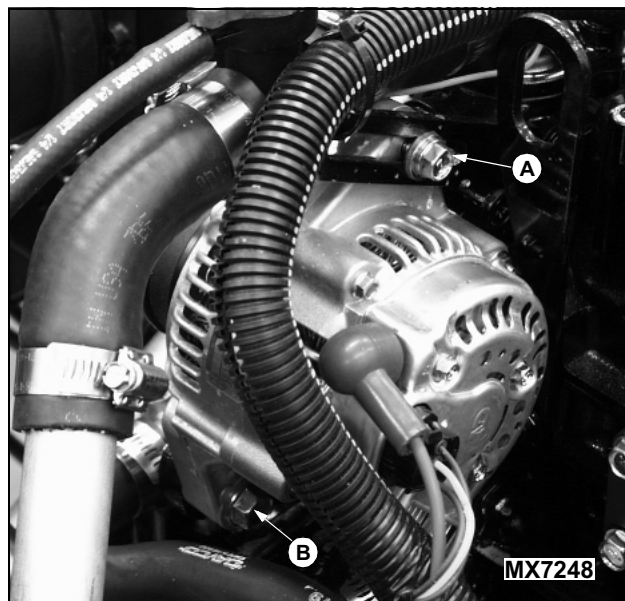
オルタネータ・ベルトの交換（ガソリン・エンジン・モデル）



注意：ケガに注意して下さい！回転するベルトやシーブへの巻き込みや接触によってケガをしないよう注意して下さい。エンジンを止めた後は全ての駆動パーツが止まるのを待って下さい。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. 調整用ボルト (A) を緩めます。
4. オルタネータの取り付け用ボルト (B) を取り外します。

エンジンの整備点検

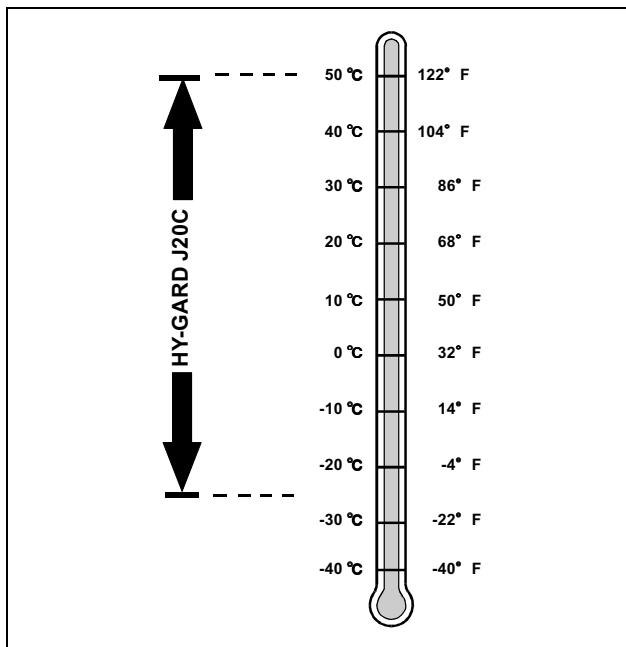
5. オルタネータ・ハウジングに内側向きの力を加えます。
6. オルタネータ・シーブと両エンジン・シーブから摩耗したベルトを取り外します。
7. 新しいベルトを取り付けます。
8. オルタネータの取り付け用ボルト（B）を取り付けます。まだ完全には締めないこと。
9. オルタネータ・ハウジングに外側向きの力を加えます。
10. オルタネータ調整用ボルト（A）と取り付け用ボルト（B）を締め付けます。
11. ベルト張力を点検します。
 - シーブのほぼ中間の位置に親指で圧力を加えます。ベルトが 10 mm (3/8 in) ほど内側にたわむはずです。
12. 付属装置を降ろします。

トランスミッションの整備点検

トランスミッション・オイル

次のオイル交換までの期間、予想される気温範囲に適した粘度のオイルを使用して下さい。

下記のジョン・ディア社製のトランスミッション・オイル及び作動油を推奨いたします。



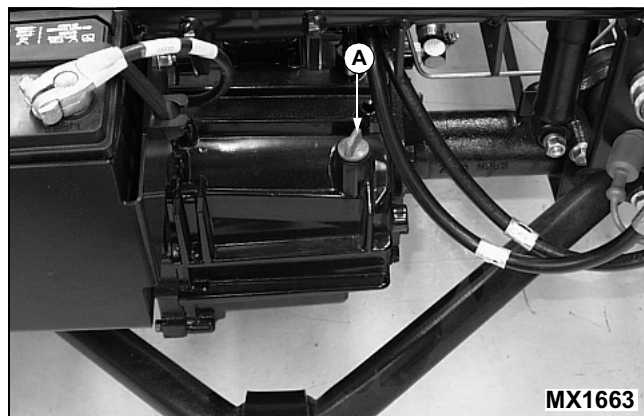
- HY-GARD® (JDM J20C)

重要：損傷に注意して下さい！本トランスミッションには、必ず高品質オイルをご使用下さい。他のオイルを混ぜまぜないこと。本トランスミッションに、BIO-HYGARD® は使用しないこと。このトランスミッションに、エンジン・オイルや“タイプF”（赤）のオートマチック・トランスミッション・フルイドは使用しないこと。

トランスミッション・オイル・レベルの点検

重要：損傷に注意して下さい！オイル温度が十分に下がってから、トランスミッション・オイル・レベルの点検をして下さい。エンジンは必ず停止していること。

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



2. リザーバ・フィラ・キャップ／ディップスティック（A）の周辺を十分清掃します。

3. フィラ・キャップ／ディップスティックを取り外し、きれいな布で拭きます。

メモ：ディップスティックを締め付けないこと。ねじの部分がトランスミッション・ハウジングの上になるようにします。

4. フィラ・キャップ／ディップスティックを取り付けます。



5. フィラ・キャップ／ディップスティックを取り出します。ディップスティックのオイル・レベルをチェックします。オイル・レベルは、ディップスティックの（B）レベルと（C）レベルの間になければいけません。

- オイル・レベルが低い時は、ディップスティックの（B）レベルを越えない範囲でオイルを補充して下さい。

- オイルが（B）レベルより上の場合は、適正なレベルになるまでオイルを抜きます。

6. フィラ・キャップ／ディップスティックを取り付けます。

トランスミッションの整備点検

トランスミッション・オイルとフィルタの交換

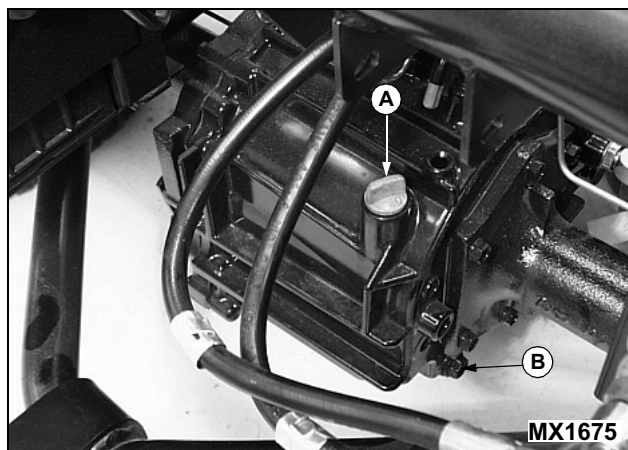
重要：損傷に注意して下さい！トランスミッション・オイルの汚れは、トランスミッションの損傷や故障を引き起こすことがあります。フィラ・キャップ／ディップスティックは、本当に必要がある場合を除き外さないこと。

極端な、あるいは特殊な使用状況下では、より頻繁に整備点検を行う必要があります。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）

- ・ エンジンとトランスミッションの温度が下がるのを待ちます。

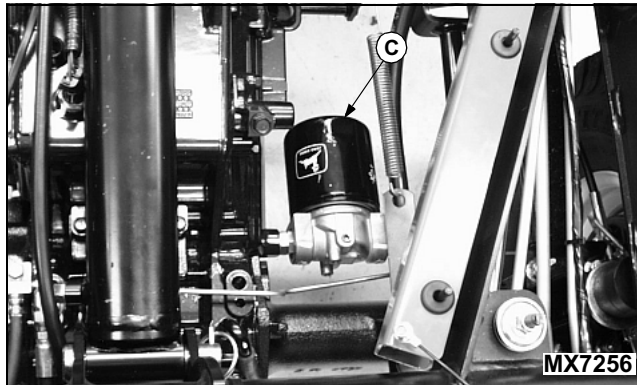


3. トランスミッション・フィラ・キャップ／ディップスティック（A）の周辺を十分清掃します。フィラ・キャップ／ディップスティックを再度取り出します。

4. トランスミッション右下部にあるドレーン・プラグ（B）の位置を確認します。

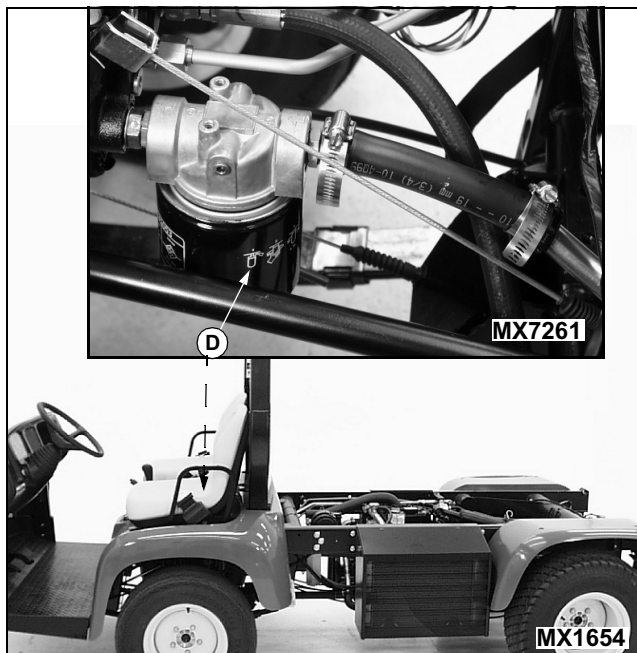
5. ドレーン・プラグを取り外します。オイルを抜き取る容器の容量は少なくとも 10.6 L（2.8 gal）なければなりません。

メモ：予備作動油キットが装備されている車両の場合、トランスミッション・フィルタ（C）は車体の右側にあります。



6. 車両の右側で、トランスアクスル上にある、トランスミッション・オイル・フィルタ（C）の位置を確認します。

メモ：車両に予備油圧キットが装備されていない場合、トランスミッション・フィルタ（D）は車体の真中、コントロール・バルブの真後ろにあります。



a. 標準車両ではコントロール・バルブの後方真中にある、トランスミッション・オイル・フィルタ（D）の位置を確認します。

7. フィルタを反時計方向に回して、取り外します。排水皿を使用して滴れ落ちるオイルを受けます。

8. 新しいフィルタを取り付けます。

- ・ 新しいフィルタのガスケットにきれいなオイルを薄く塗ります。
- ・ ガスケットが取り付け面に接触するまで、フィルタを時計回りに回します。ガスケットが接触したら、1/2

トランスミッションの整備点検

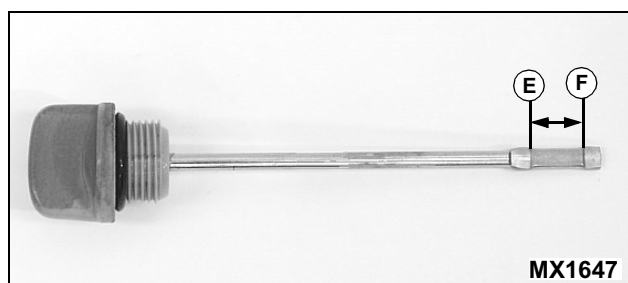
～ 3/4 回転締め付けます。

9. ドレーン・プラグを取り付け、締め付けます。

10. 約 10.6 L (2.8 gal) のオイルを充填口から補充します。

メモ：ディップスティックを締め付けないこと。ねじの部分がトランスミッション・ハウジングの上になるようにします。

11. フィラ・キャップ／ディップスティックを取り付けます。



12. フィラ・キャップ／ディップスティックを取り外します。ディップスティックのオイル・レベルを点検します。オイル・レベルは、ディップスティックの (E) レベルと (F) レベルの間になければなりません。

- ・ オイル・レベルが低い時は、ディップスティックの (E) レベルを越えない範囲でオイルを補充して下さい。
- ・ オイルがディップスティックの (E) レベルを越えている場合、適正なレベルになるまでオイルを抜きます。

13. フィラ・キャップ／ディップスティックを取り付けます。

14. 付属装置を降ろします。

トランスミッション・オイル・ストレーナの清掃

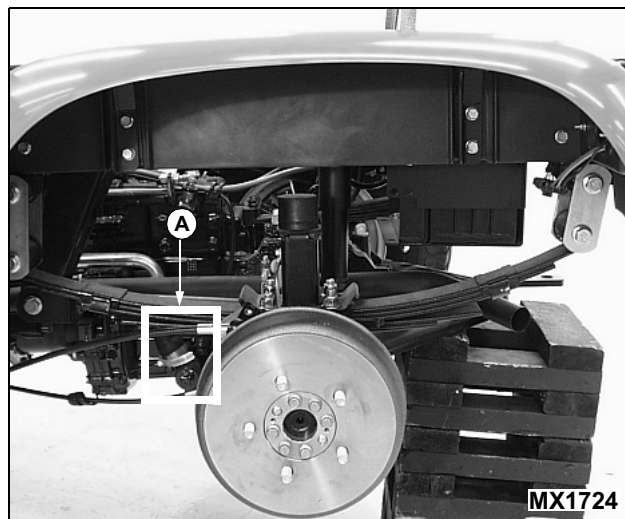


注意：ケガに注意して下さい！オイル・ストレーナの清掃は注意して行って下さい。機械作動中はトランスミッション・オイルが熱くなっている恐れがあります。

メモ：トランスミッション・オイルとフィルタを交換する際は同時にストレーナも清掃することを習慣づけて下さい。ストレーナを整備点検する時は必ずトランスミッションを空にしてから行って下さい。

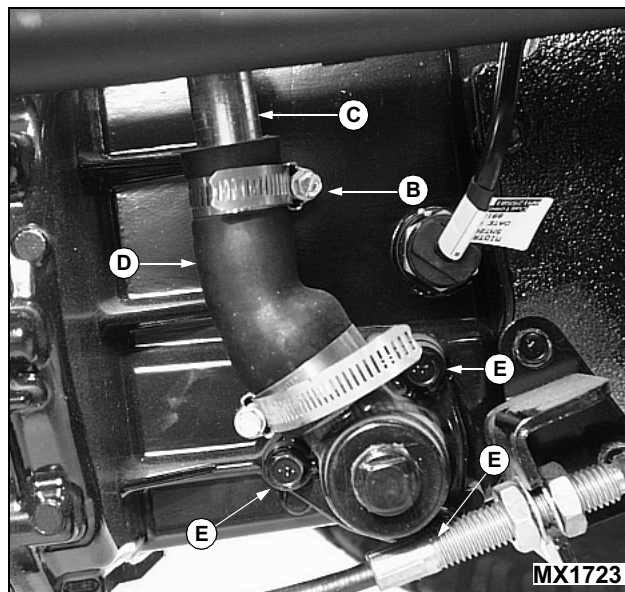
1. トランスミッション・オイルとフィルタを交換します。

メモ：写真では見易いように左の後輪を取り外してあります。



2. 車両の左側にあるストレーナ・ハウジング (A) の位置を確認します。

メモ：排液皿を使用して滴れ落ちるオイルを受けます。



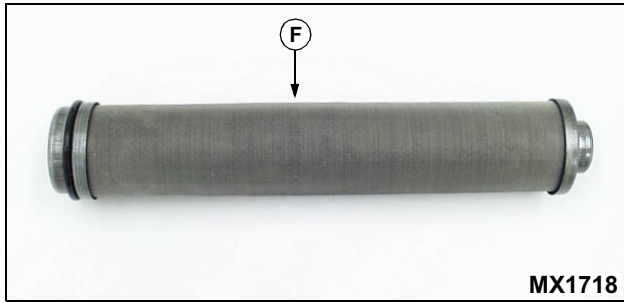
3. 調節可能なホース・クランプ (B) を緩めます。

4. ゴム製のホース (D) から油圧ライン (C) を取り外します。

5. ヘクス・ボルト (E) 3 個を緩めて、取り外します。

6. ストレーナ・ハウジングとストレーナを取り外します。

トランスミッションの整備点検



7. 溶剤あるいはミネラル・スピリットを使用してストレーナ（F）を清掃し、乾かします。
8. ストレーナ・ハウジングにストレーナを取り付けます。
9. ストレーナ・ハウジングを取り付けます。
10. ヘクス・ボルト（E）3個を取り付けて、締め付けます。
11. ゴム製ホース（D）を油圧ライン（C）に取り付けます。
12. 調整可能なホース・クランプ（B）を締め付けます。

グリース

重要：損傷に注意して下さい！ 部品の故障や早すぎる磨耗を防止するため、ジョン・ディア社推奨グリースをお使い下さい。

ジョン・ディア社推奨グリースは、-29 °C ~ 135 °C (-20 ~ 275° F) の平均気温の時に効果を発揮します。

この温度範囲外で運転するときは、お近くのジョン・ディア代理店で特別用途グリースについてお問い合わせ下さい。

下記のグリースを推奨します。

- John Deere Multi-Purpose SD Polyurea Grease
- John Deere Multi-Purpose HD Lithium Complex Grease

推奨グリースを使わない場合は、NLGI 等級 No.2 クラスの一般的な汎用グリースをお使い下さい。

湿っていたり、高速な場合は、特殊用途グリースを使う必要があります。この情報については、お近くのサービス代理店にお問い合わせ下さい。

駆動シャフトの注油（4WD モデル）

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



2. 駆動シャフトのグリース・フィッティング（A）の3箇所に、John Deere SD Polyurea グリースか、それと同等なものを注油します。

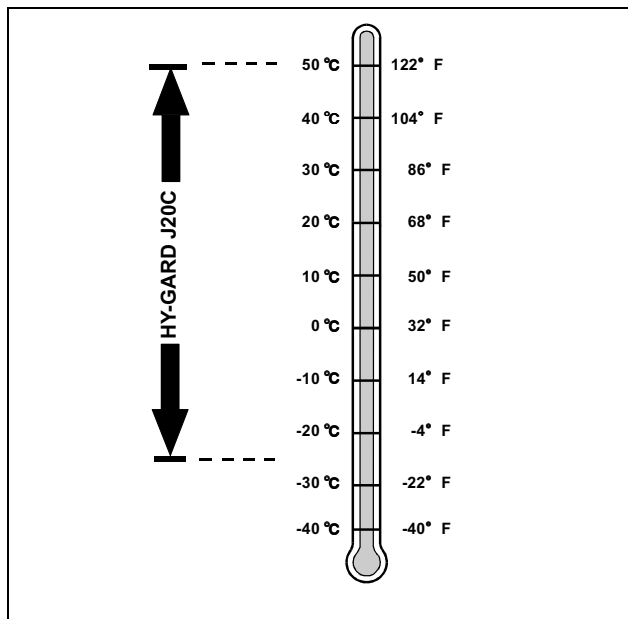
油圧機器の整備点検

作動油

次のオイル交換までの期間、予想される気温範囲に適した粘度のオイルを使用して下さい。

下記ジョン・ディア社製トランスミッション・オイル及び作動油を推奨いたします。

- ・ HY-GARD® (JDM J20C)



重要：損傷に注意して下さい！本予備オイル冷却器リザーバには、必ず高品質オイルをご使用下さい。本オイル・レザーバに、他のオイルを混ぜないこと。本オイル・リザーバにBIO-HYGARD®は使用しないこと。本リザーバに、エンジン・オイルや“Type F”（赤）オートマチック用のトランスミッション・フルイドは使用しないこと。

作動油レベルの点検

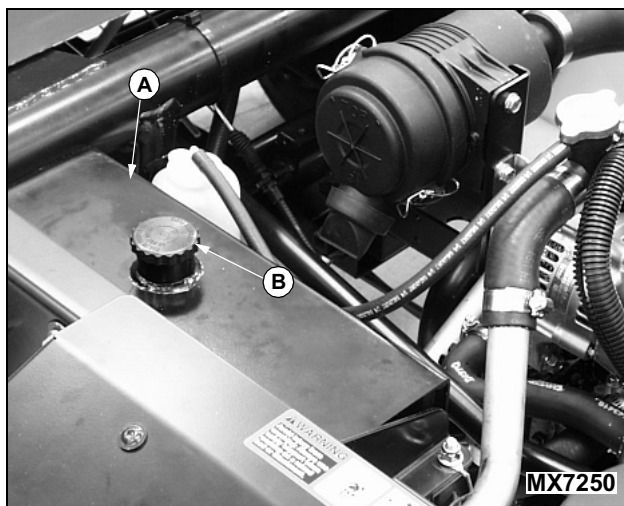
メモ：予備作動油キットが装備されている車両の場合、本整備点検手順を行う必要があります。

重要：損傷に注意して下さい！リザーバ・タンクのオイル・レベルの点検は、オイルの温度が十分下がってからにして下さい。

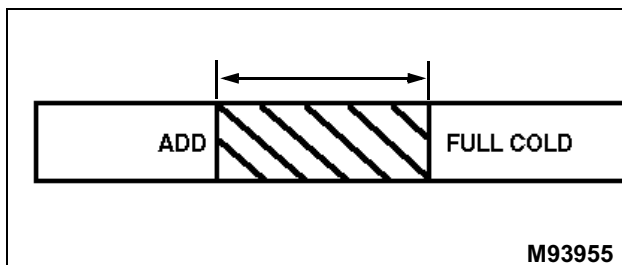
オイル・リザーバ・タンクに入れ過ぎないようにして下さい。運転中にオイルが膨張していて、溢れ出すことがあります。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. 車体の左側にある予備オイル・リザーバ（A）の位置を確認します。
4. ディップスティック・キャップ（B）の周辺を十分清掃します。
5. ディップスティック・キャップ（B）をオイル・リザーバ・タンクから取り外します。オイル・レベルを目視点検します。



- ・ オイルはディップスティックの“ADD”（追加）マークと“FULL COLD”（冷却時上限）マークの間になければなりません。
6. 必要に応じて、オイルを補給します。
 7. ディップスティック・キャップを取り付けて、取り付けます。
 8. 付属装置を降ろします。

油圧機器の整備点検

作動油とフィルタの交換



注意：ケガに注意して下さい！ 高圧液体ラインから漏れた液は皮膚を貫通して重傷に至らせる危険性があります。危険防止のため、油圧ライン又は他のラインの接続を取り外すときは、圧力を十分に下げてから行って下さい。圧力をかける前は全ての接続部分をしっかりと締めて下さい。ボール紙を使って漏れの有無を点検します。手など身体が高圧液に触れないよう十分注意して下さい。

作動油の補充や抜き出しは慎重に行ってください。機械の作動中は作動油リザーバが熱くなっていることがあるので注意が必要です。整備点検はエンジン及びオイル・リザーバの温度が十分下がってから始めて下さい。

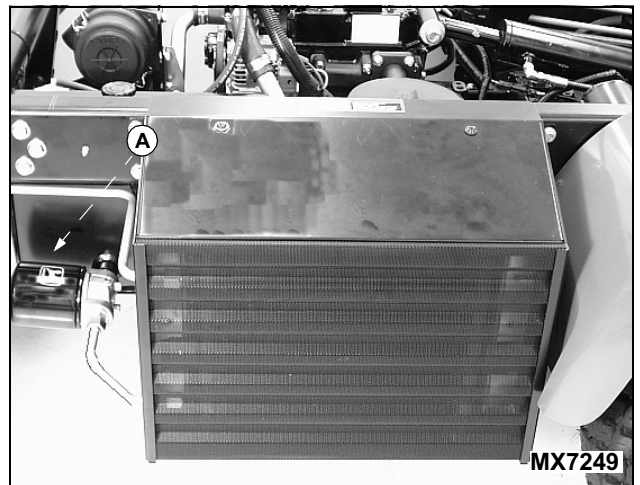
重要：損傷に注意して下さい！ 作動油の汚濁を防止して下さい。オイル・リザーバ・キャップは本当に必要がなければ、開けないこと。

作動油リザーバを一杯にしないで下さい。運転中にオイルが膨張して、あふれ出ることがあります。

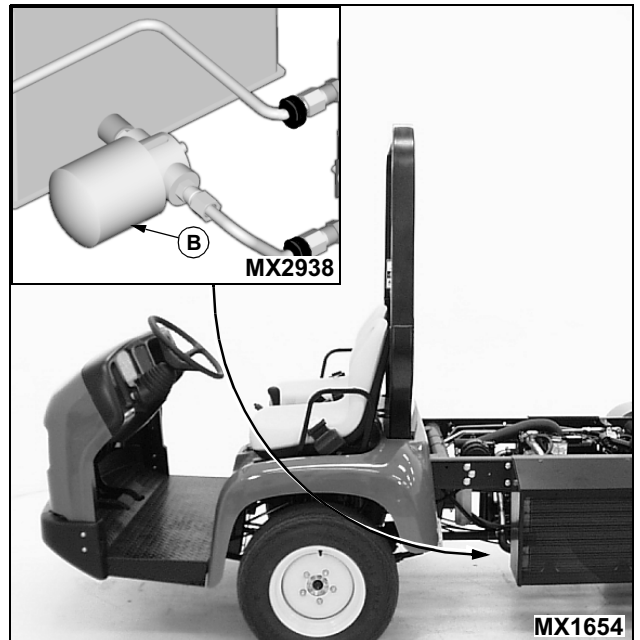
極端な、あるいは特殊な使用状況下では、より頻繁に整備点検を行う必要があります。

メモ：予備油圧キットが装備されている車両は、本整備点検手順を実行する必要があります。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）
 - ・ エンジンとオイル・リザーバの温度が下がるのを待ちます。



3. 車体左側にあるオイル・リザーバ下側のドレーン・プラグ（A）の位置を確認します。
4. オイルを抜く場所に容器を置きます。
5. ドレーン・プラグを取り外します。オイルを抜き取る容器の容量は少なくとも 13.2 L（3.5 gal）なければなりません。

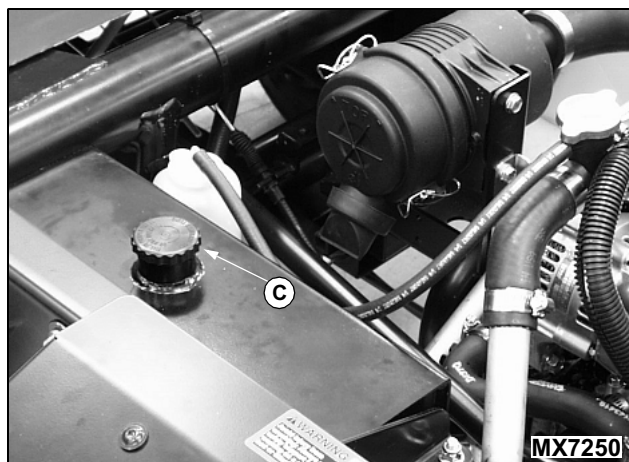


6. 作動油フィルタ（B）を取り外します。
 - ・ 油圧キットが取り付けられているとき、車体左側のフィルター的位置を確認します。
 - ・ 車体中央、コントロール・バルブの真後ろにあるベース・ユニット・マシン上のフィルタの位置を確認します。
7. フィルタを反時計方向に回して、取り外します。排液皿を使用して滴れ落ちるオイルを受けます。
8. 新しいフィルタのガスケットにきれいなオイルを薄く塗ります。

油圧機器の整備点検

9. ガasketが取り付け面に接触するまで、フィルタを時計回りに回します。ガasketが接触したら、1/2 ～ 3/4 回転締め付けます。

10. ドレーン・プラグを取り付けます。締め付け過ぎないように注意して下さい。



11. ディップスティック・キャップ (C) の周辺を十分清潔にします。

12. ディップスティック・キャップをオイル・リザーバ・タンクから取り外します。

13. オイル・リザーバに約 13.2 L (3.5 gal) のオイルを補充します。

14. エンジンを始動します。



15. 油圧 PTO レバー (D) を約 1 ～ 2 分間繰り返し作動させます。漏れがないかを点検します。

16. エンジンを停止します。

17. オイル・レベルをチェックします。必要に応じてオイルを補給します。

18. 付属装置又は荷台を降ろします。

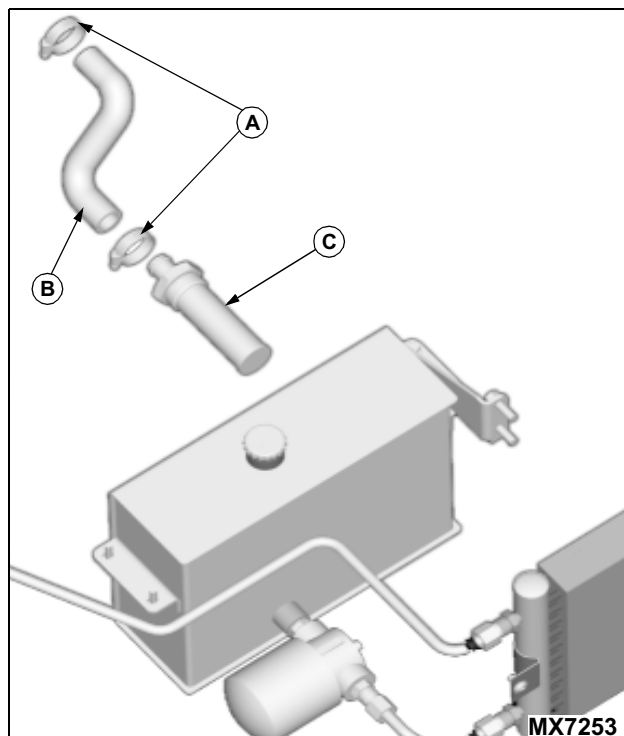
作動油リザーバ・ストレーナの清掃

メモ：予備作動油キットが装備されている車両の場合、本

整備点検手順を行う必要があります。

作動油とフィルタを交換する際は、同時にストレーナを清掃することを習慣づけて下さい。ストレーナの整備点検は作動油タンクを空にしてから行って下さい。

1. 作動油とフィルタを交換します。



2. 調整可能なホース・クランプ (A) を緩めます。

3. ストレーナ (C) からゴム製ホース (B) を取り外します。

4. ストレーナを作動油タンクから取り外します。

5. 溶剤又はミネラル・スピリットを使用してストレーナを清掃して、乾かします。

6. ストレーナを作動油タンクに取り付けます。

7. ゴム製ホースをストレーナに取り付けます。

8. 調整可能なホース・クランプを締め付けます。

オイル冷却コイルの清掃



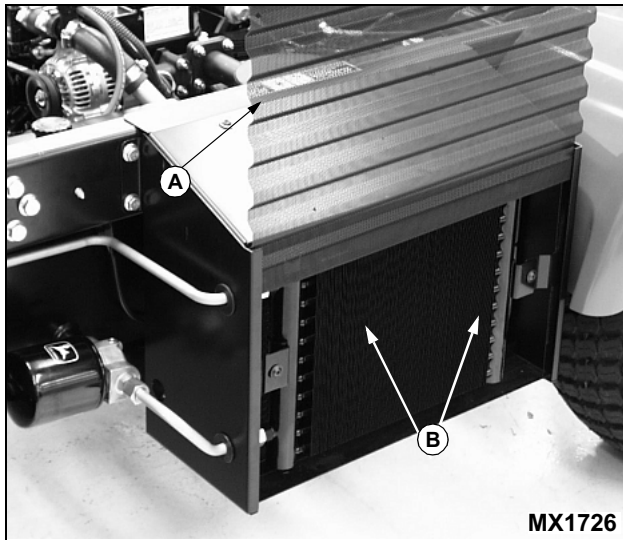
注意：ケガに注意して下さい！清掃のために圧縮空気を使用する時は、目の保護用ゴーグルを着用して下さい。

重要：損傷に注意して下さい！冷却コイルを清潔に保ち、オーバーヒートさせないようにして下さい。

油圧機器の整備点検

メモ：予備油圧キットが装備されている車両の場合、本整備点検手順を実行する必要があります。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



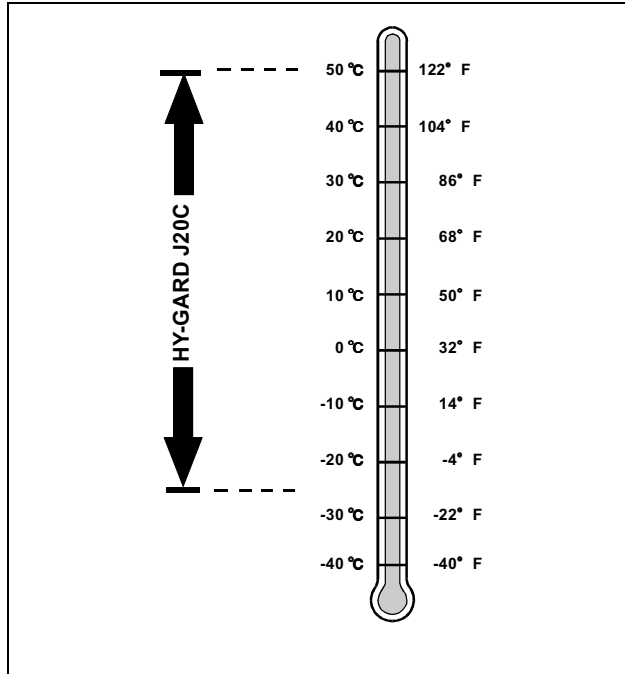
3. エンジン・ラジエータの前側から吸気口スクリーン（A）を抜き取ります。
4. 圧縮空気または水を使って、オイル冷却コイル（B）からゴミやホコリを取り除きます。コイルに損傷がないかチェックします。
5. 吸気口スクリーンを取り付けます。
6. 付属装置を降ろします。

ステアリングとブレーキの整備点検

前輪アクスル・オイル

次のオイル交換までの期間、予想される気温範囲に適した粘度のオイルを使用して下さい。

下記ジョン・ディア社製トランスミッション・オイル及び作動油を推奨いたします。



- HY-GARD® (JDM J20C)

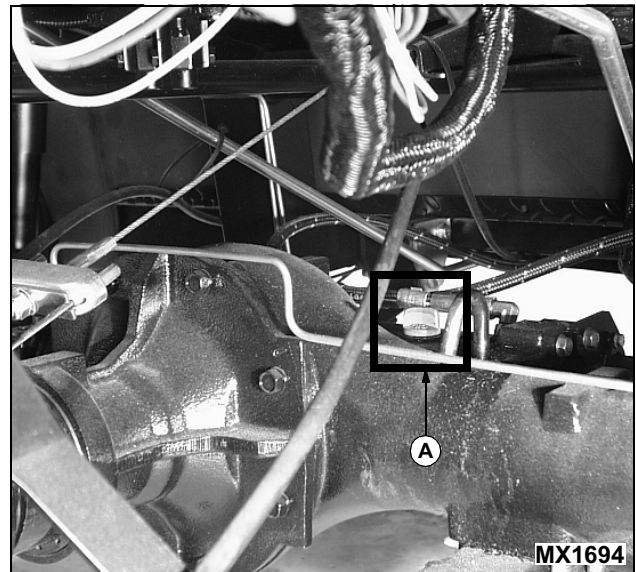
重要：損傷に注意して下さい！本前輪アクスル・ギア・ケースには必ず高品質オイルをご使用下さい。本ギア・ケースに他のオイルを混ぜまぜないで下さい。本ギア・ケースに BIO-HYGARD® は使用しないこと。

前輪アクスル・オイル・レベル (4WD モデル) のチェック

重要：損傷に注意して下さい！レベルをチェックする前に、前輪アクスル・オイルの温度が下がるのを待って下さい。

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。)

重要：損傷に注意して下さい！ディップスティック部分から汚染物質が入らないように注意して下さい。ディップスティックを抜く前に、周辺を清掃して下さい。

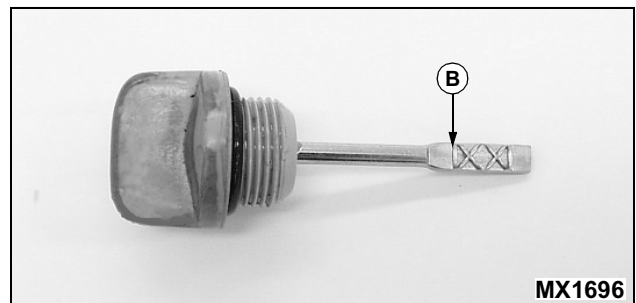


2. ディップスティック (A) のねじを緩めて、アクスルから取り外します。

3. きれいな布でディップスティックを拭いて乾かします。

メモ：ディップスティックを締め付けないで下さい。ねじの部分がアクスル・ハウジングの上にくるようにします。

4. アクスル・ハウジングにディップスティックを取り付けます。



5. ディップスティックを抜き取ります。オイル・レベルはディップスティックの (B) レベル位置でなければなりません。

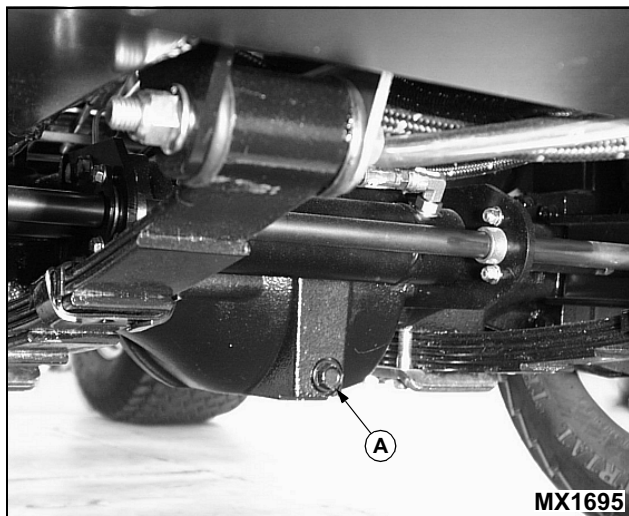
- 少ない場合は、オイルを追加します。オイル・レベルはディップスティックの XX 部分 (B) の一番上でなければなりません。

6. ディップスティックを取り付けて、締め付けます。

ステアリングとブレーキの整備点検

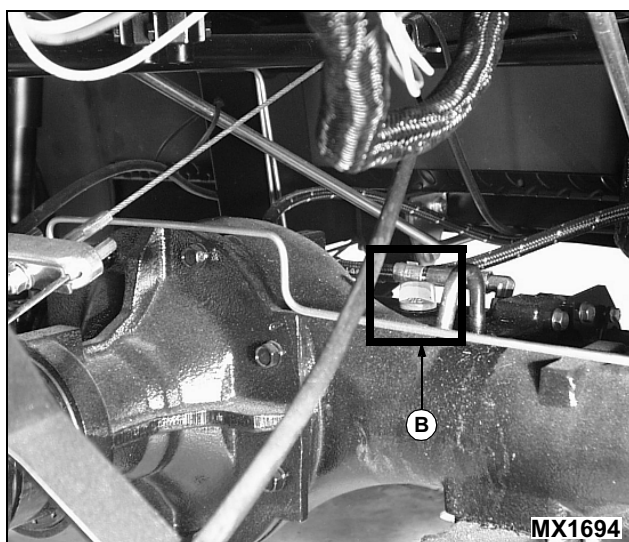
前輪アクスル・オイル（4WD モデル）の交換

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）
2. オイルを抜く場所に容器を置きます。



3. ディファレンシャル・ドレーン・プラグ（A）を取り外して、オイルを抜きます。
4. ドレーン・プラグを取り付け、締め付けます。

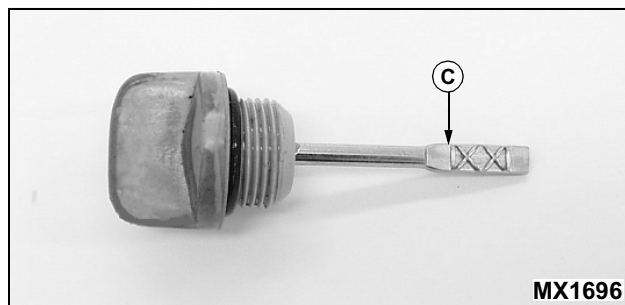
重要：損傷に注意して下さい！ディップスティック部分から汚染物質が入らないように注意して下さい。ディップスティックを抜く前に、周辺を清掃します。



5. ディップスティック（B）のねじを緩めて、ディファレンシャル・ハウジングから取り外します。
6. 約 3.3 L（3.5 qt）のオイルをディップスティックの開口部から補充します。
7. きれいな布でディップスティックを拭いて乾かします。

メモ：ディップスティックを締め付けしないで下さい。ねじの部分がディップスティック開口部の上にくるようにします。

8. ディップスティックを取り付けます。



9. ディップスティックを抜き取ります。オイル・レベルはディップスティックの（C）レベルになってなければなりません。

- ・ 少ない場合は、オイルを追加します。オイル・レベルはディップスティックの XX 部分（B）の一番上でなければなりません。

10. ディップスティックを取り付けて、締め付けます。

メモ：オイルは前輪アクスル・ハウジングからほんの少しづつ流れ出します。オイル・レベルは運転を開始して数時間後に再度チェックして下さい。

ブレーキ液

下記のジョン・ディア社製ヘビー・デューティー・ブレーキ液を、すべてのドラム及びディスク・ブレーキ用として推奨いたします。

- ・ **Brake Fluid 縫 OT3 (TY15975)**

上記のジョン・ディア社製ブレーキ液が入手できない場合は以下を満たしていれば、他のブレーキ液を使用することができます。

- ・ DOT3 認定済み。
- ・ Motor Vehicle Safety Standard No. 116 に準拠。
- ・ ウエット沸点が 140 °C（284° F）以上
- ・ ベーパ・ロックを防止するために、ドライ沸点は 232 °C（450° F）以上。

ステアリングとブレーキの整備点検

ブレーキ液レベルの点検

重要：損傷に注意して下さい！ブレーキ液を汚濁させないで下さい。フィラ・キャップを取り外す前に、回りを十分きれいにします。ブレーキ液リザーバ・キャップは本当に必要がなければ、開けないこと。

リザーバに補充するときは、細心の注意を払って下さい。液がこぼれると、塗装表面を損傷することがあります。

未開封の DOT3 ブレーキ液のみをご使用下さい。

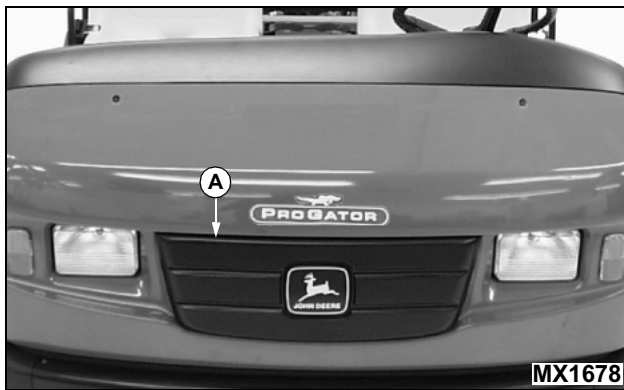
4. 液量が低い場合は：

- ・ リザーバ・キャップ（D）の周辺を丁寧に清掃します。キャップのねじを緩めます。
- ・ リザーバ補充ラインの中央までブレーキ液を補充します。

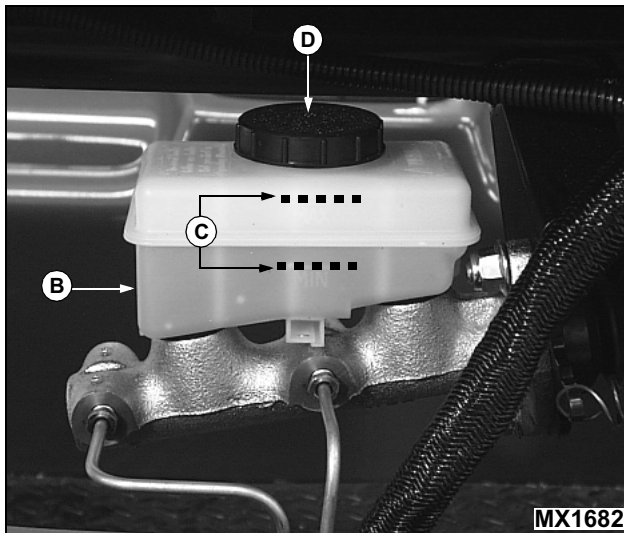
5. リザーバ・キャップを取り付けます。

6. フロント・グリルを取り付けます。

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



2. フロント・グリル（A）を取り外します。



3. リザーバ（B）は外から透けて見えるので、おおよその液量を目視チェックします。

- ・ ブレーキ液レベルは“MAX”（最高）と“MIN”（最低）両ライン（C）の間になければなりません。
- ・ 液量レベルが“MIN”（最低）より上になっていたら、キャップは開けないで下さい。

電気系統の整備点検

警告：バッテリー端子及び関連付属品には鉛と鉛成分、カリフォルニア州でガン及び生殖機能障害を引き起こす可能性があると認められた化学物質が含まれています。**作業後、手を洗って下さい。**

バッテリーの清掃又は交換



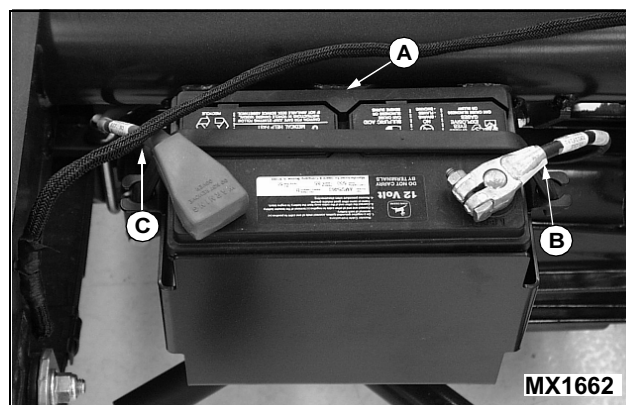
注意：ケガに注意して下さい！バッテリーは中を開けたり、液を補充したり、保守を行ったりしないこと。これらを行った場合、保証は無効となる上、ケガを招く恐れがあります。

バッテリー電解液には硫酸が含まれています。硫酸は有毒であり、大火傷を起こす恐れがあります。

- 目の保護用ゴーグルと作業用手袋とを着用して下さい。
- 皮膚が露出しないよう保護して下さい。
- 電解液を飲み込んだ場合は、すぐに医師の処置を受けて下さい。
- 電解液が目に入った場合は、すぐに水で15分から30分間洗い流してから、医師の処置を受けて下さい。
- 電解液が皮膚に付いた場合は、すぐに水で洗い流し、必要に応じて医師の処置を受けて下さい。

1. 付属装置を整備点検位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダ安全サポートの使用法」を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



3. ゴムの締め具ストラップ（A）を外します。
4. まず、マイナス（黒）ケーブル（B）をバッテリーから外します。
5. プラス（赤）ケーブル（C）を取り外します。
 - 赤の端子カバーを大きく引っ張り、端子が見えるようにします。
6. バッテリーが非常に汚れている場合は、バッテリーを取り外します。
7. バッテリー、バッテリー端子、ケーブル・エンド、締め具、バッテリー・トレーを、ベーキング・ソーダ（重曹）1に対し水4の割合で薄めた溶液で洗浄します。バッテリー・セルには溶液を入れないで下さい。

重要：損傷に注意して下さい！このバッテリーは納車時、完全充電されています。バッテリーに表示された整備点検期限（Service Expiration Date）までに、この草刈り機（モア）が使用されなかった場合は、バッテリーを充電します。

メモ：新しいバッテリーが必要な場合は、ジョン・ディア社製バッテリーあるいは同等品をお取り付け下さい。

8. 全てのパーツをきれいな水で洗い流し、乾かします。
9. バッテリーを取り付けます。
10. プラス（赤）ケーブル（C）をバッテリーに接続します。
 - 赤の端子カバーを取り付けます。
11. マイナス（黒）ケーブル（B）をバッテリーに接続します。
12. 腐食防止のため、バッテリー端子にワセリンを塗ります。
13. ゴムの締め具ストラップを取り付けます。
14. 付属装置を降ろします。

電気系統の整備点検

バッテリー電解液レベルの点検

7. バッテリーを取り付けます。



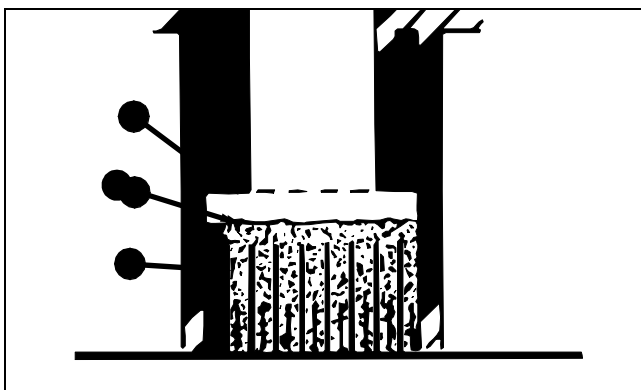
注意：ケガに注意して下さい！バッテリーは中を開けたり、液を補充したり、保守を行ったりしないこと。これらを行った場合、保証は無効となり、ケガを招く恐れもあります。

バッテリー電解液には硫酸が含まれています。硫酸は有毒であり、大火傷を起こす恐れがあります。

- ・ 目の保護用ゴーグルと作業用手袋とを着用して下さい。
- ・ 皮膚が露出しないよう保護して下さい。
- ・ 電解液を飲み込んだ場合は、すぐに医師の処置を受けて下さい。
- ・ 電解液が目に入った場合は、すぐに水で 15 分から 30 分間洗い流してから、医師の処置を受けて下さい。
- ・ 電解液が皮膚に付いた場合は、すぐに水で洗い流し、必要に応じて医師の処置を受けて下さい。

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）
2. 車両からバッテリーを取り外し、水平な面の上に置きます。
3. バッテリー・セル・キャップを取り外します。キャップ通気孔がふさがれていないことを確認します。

重要：損傷に注意して下さい！補給孔（A）の底にかかるまでセルを入れないで下さい。バッテリーを充電すると、電解液があふれて、損傷を引き起こすことがあります。



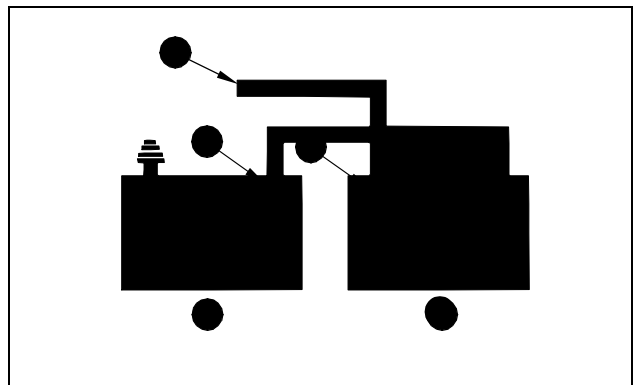
4. 電解液（B）は、補給孔（A）の底部とプレート（C）上部の間のおよそ半分まで入れます。
5. 必要に応じて、蒸留水を加えます。
6. バッテリー・セル・キャップを取り付けます。

ブースタ・バッテリーの使用方法



注意：ケガに注意して下さい！バッテリーは可燃性／爆発性のガスを発散し、爆発する恐れがあります。

- ・ 凍結したバッテリーではジャンプ・スタートを行わないこと。16℃（60°F）まで暖めます。
- ・ バッテリーのそばでは禁煙です。
- ・ 目の保護用ゴーグルと作業用手袋とを着用して下さい。
- ・ スパークや裸火を近づけないこと。
- ・ マイナス（－）ブースタ・ケーブルを、放電したバッテリーのマイナス（－）端子に接続してはいけません。放電したバッテリーから離れた良好なアースに接続して下さい。



A - ブースタ・バッテリー

B - 使用不能な車両のバッテリー

1. プラス（+）ブースタ・ケーブルを、ブースタ・バッテリー（A）プラス（+）端子（D）へ接続します。
2. プラス（+）ブースタ・ケーブルの他の端を、使用不能な車体のバッテリー（B）プラス（+）端子（D）へ接続し

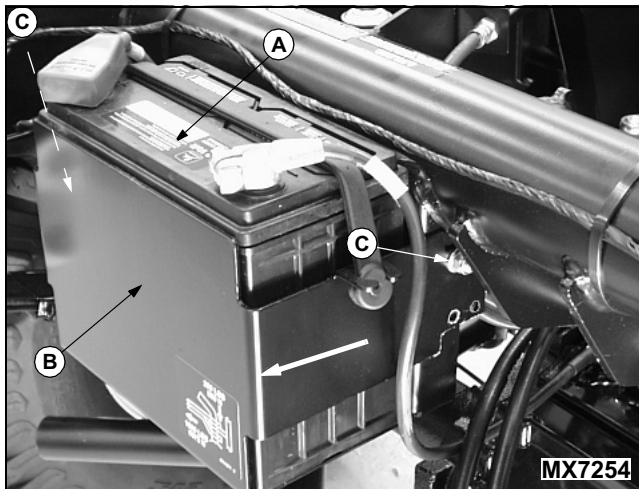
電気系統の整備点検

ます。

3. マイナス（－）ブースタ・ケーブルを、ブースタ・バッテリーのマイナス（－）端子（E）に接続します。
4. マイナス（－）ブースタ・ケーブルのもう一方の端（F）を、使用不能車のバッテリーから離れた金属部分に接続します。
5. 使用不能車のエンジンをスタートし、数分間運転します。
6. 上記手順の反対を正確に行って、慎重にブースタ・ケーブルを切り離します。最初にマイナス・ケーブルを、次にプラス・ケーブルを行います。

バッテリーの交換

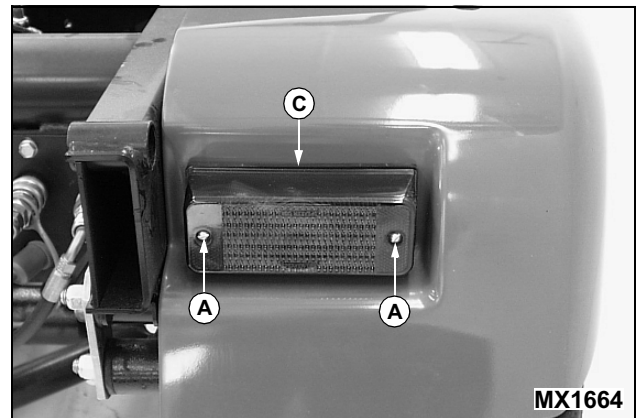
メモ：サービス用バッテリーはやや奥行きがあるので、バッテリー・ブラケットを取り外す必要があります。バッテリー・ブラケットには2組の取り付け穴が設けられています。



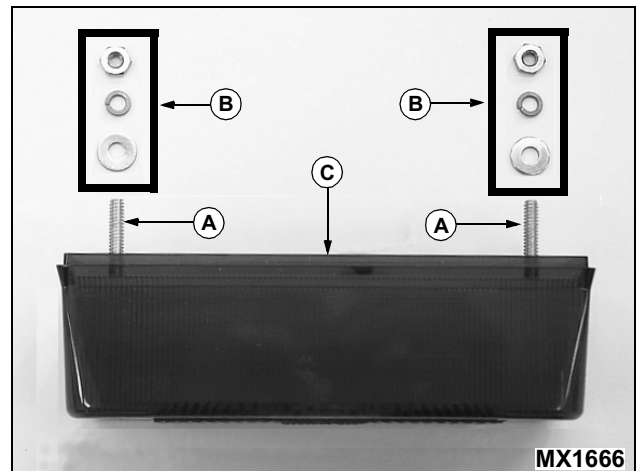
1. ブラケット（B）からバッテリー（A）を取り外します。
2. ブラケットの両側から金具（C）を取り外します。
3. ブラケットのもう一方の穴へバッテリー（B）を滑らせて、奥行きのあるサービス用バッテリーが合うようにします。
4. 先に取り外していた金具を取りつけて、締め付けます。
5. バッテリーを取り付けます。

ストップライト／テールライト・バルブの交換

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）



2. ストップライト／テールライト連結アセンブリから、取り付け金具（B）とレンズ（C）を取り付けているねじ（A）2本を取り外します。



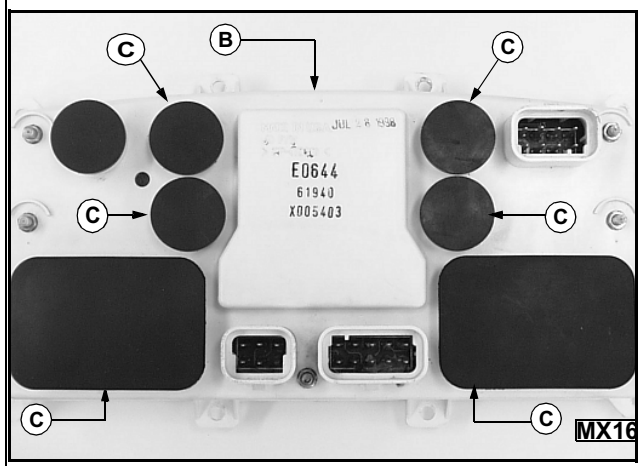
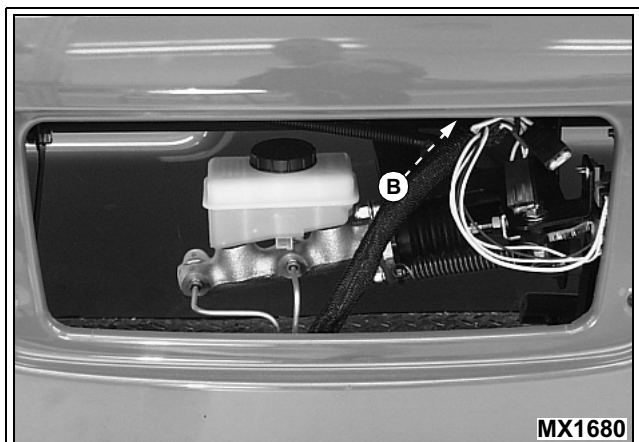
3. 不良バルブを取り外します。
 - ・ 反時計方向に 1/3 回転ほど回して、バルブをソケットから取り外します。
4. ソケットに新しいバルブを取り付けます。
 - ・ バルブの先を押し込み、ロック位置になるまで時計方向に回します。
5. ライトが点灯するか、チェックします。
6. レンズを取り付けます。

表示ライトのバルブの交換

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）
2. フロント・グリルを取り外します。

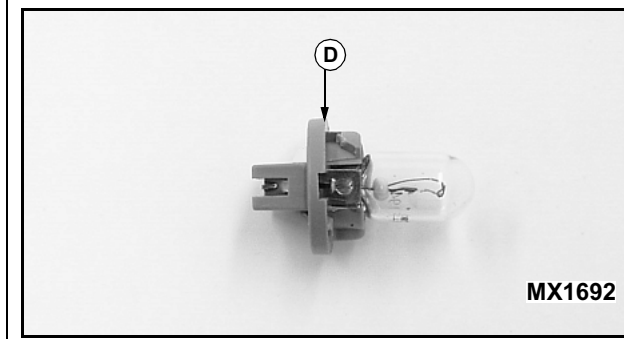
電気系統の整備点検

メモ：写真では見やすいように、インストルメント・パネル・ハウジングが取り外されています。



3. インストルメント・パネル・ハウジング (B) の後部を確認します。

4. ゴム・プラグ (C) を取り外し、表示ライトのバルブ・アセンブリの位置を確認します。



5. インストルメント・パネル・ハウジングから不良バルブ・アセンブリ (D) を取り外します。

- ・ バルブ・アセンブリを反時計方向に 1/3 回転ほど回して、ハウジング・ソケットから取り外します。

6. 新しいバルブ・アセンブリをハウジング・ソケットに取り付け、しっかり固定されるまで時計回りに回します。

7. ライトが点灯するか、チェックします。

8. ゴム製のプラグを取り付けます。

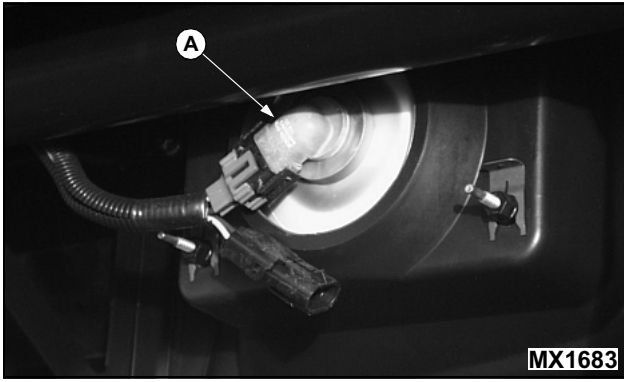
9. フロント・グリルを取り付けます。

ヘッドライト・バルブの交換

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）

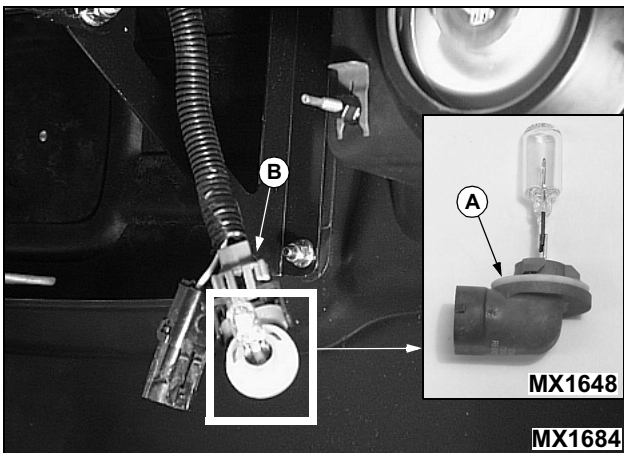
2. ダッシュボード下側にあるヘッドライト・ハウジングの位置を確認します。

電気系統の整備点検



3. バルブ・アッセンブリは反時計回りに 1/3 回転ほど回して、ソケットから取り外します。

重要：損傷に注意して下さい！ヘッドライト・バルブ・アッセンブリの点検や交換時に、早発故障を防止して下さい。このアッセンブリのガラス構成品に、素手で触らないで下さい。



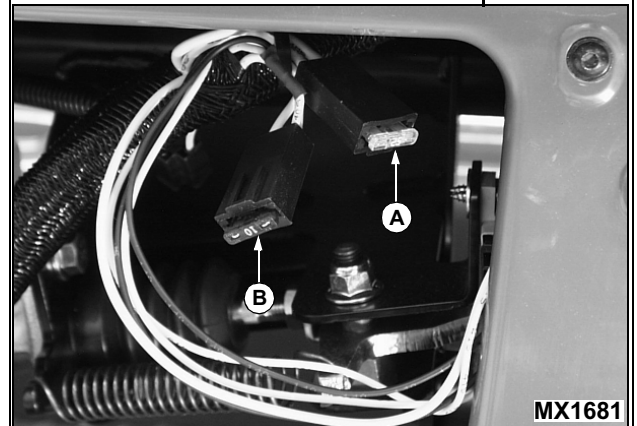
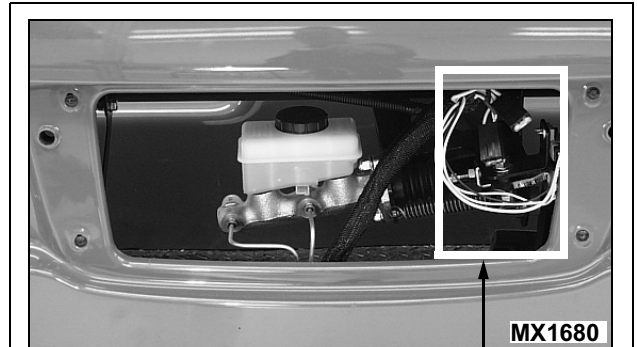
4. ワイヤ・ハーネス (B) をバルブ・アッセンブリから切り離します。
5. ワイヤ・ハーネスを、交換するバルブ・アッセンブリ (A) に接続します。
6. 新しいヘッドライトのバルブ・アッセンブリを、ハウジング・ソケットに取り付け、ロックされる位置まで回します。
7. ライトが点灯するか、チェックします。

ヒューズの点検と交換

重要：損傷に注意して下さい！車両の電気回路を傷めないように注意して下さい。交換用ヒューズが適切な容量のものであることを確認して下さい。

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）

2. フロント・グリルを取り外します。
3. ヒューズの確認：



- ・ 25 アンペア・ヒューズ (A) - ライト回路
- ・ 10 アンペア・ヒューズ (B) - スタータ回路

4. 不良ヒューズを交換します。
 - ・ ヒューズ・ホルダから不良ヒューズを取り外します。
 - ・ 新しいヒューズを押し込みます。
5. アクセス・パネルを取り付けます。

その他の整備点検

フロント・グリルの取り外しと取り付け

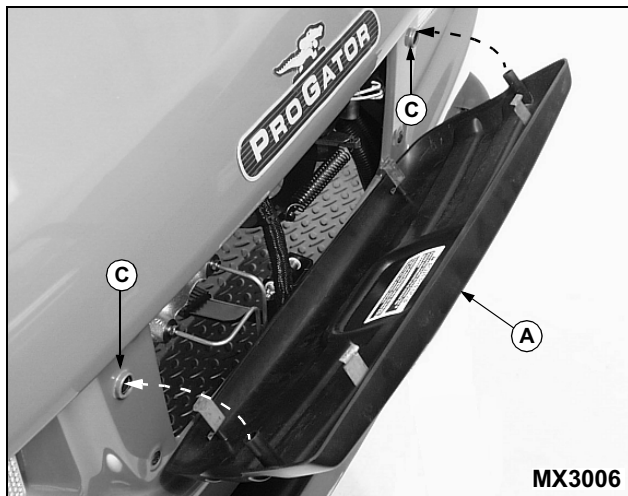
グリルの取り外し

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。)



2. グリル (A) の各側面を (B) 位置でつかみます。
3. グリルの各側面を外側へ均等にしっかり引いて取り外します。

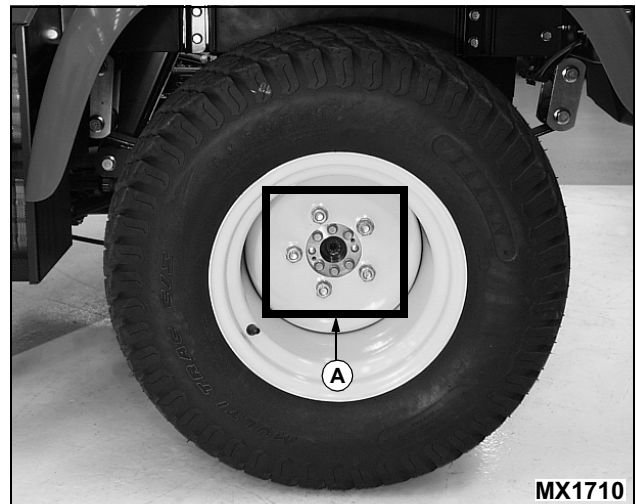
グリルの取り付け



1. グリル (A) をフロント・フードの穴 (C) に合わせます。
2. グリルの両端を均等に前へ押します。パチンと音がして、グリルが収まったことを確かめます。

ホイール金具の締め付け

メモ：最初の運転 10 時間後、及びその後 100 時間ごとにナットの締め付けを行います。



- 前後のホイール・ナット (A) を、互い違いに、115N・m (85 lb-ft) のトルクで締め付けます。

燃料タンクの補充

レギュラー 87 等級無鉛ガソリンを使用して下さい。

新らしくない燃料の使用によりエンジンに損傷を与えることを防止するため、燃料にジョン・ディア社製燃料安定剤をお加え下さい。安定剤の容器に記載されている説明に従って下さい。

メモ：燃料タンク内の結露を防止するため、作業後に毎回補充しておきます。



注意：ケガに注意して下さい！燃料の発散気は爆発性／可燃性です。

- エンジンを停止してから、オイルを満たします。
- 燃料の取り扱い中は禁煙です。
- 燃料には裸火やスパークを近づけないで下さい。
- タンクに燃料を満たすときは、屋外かよく換気された場所で行います。
- こぼれた燃料は直ちに清掃します。
- 静電気の放電を防止するため、清潔な承認済み非金属容器を使用します。
- 静電気の発生を防ぐため、漏斗は規格適合したスクリーンのないプラスチック製の清潔なものを使用します。

その他の整備点検

重要：損傷に注意して下さい！燃料中の汚れと水により、エンジンが損傷することがあります。

- ・ 燃料タンク開口部のホコリとゴミを清掃します。
- ・ 清浄で、新鮮な、安定した燃料をお使い下さい。
- ・ 燃料タンク内の結露を防止するため、作業後に毎回補充しておきます。
- ・ 燃料タンクや容器を充填する時は、プラスチックの網がついた非金属の漏斗を使います。

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）

- ・ エンジンの温度が下がるまで待ちます。



2. 燃料タンク内に溜まった圧力を逃がすため、燃料タンク・キャップ（A）をゆっくり取り外します。
3. 燃料タンクの充填は、補給孔の下までにとどめて下さい。
4. 燃料タンクのキャップを取り付けます。

プラスチック表面の清掃と補修

ジョン・ディア代理店には、各種プラスチックの表面にできたキズをきれいに除去するためのプロ用資材を取り揃えていますので、ペンキなどで隠すようなことはしないで下さい。

重要：損傷に注意して下さい！プラスチック表面の手入れが適当でないと、表面に損傷を与えることがあります。

- ・ 乾燥しているとき、プラスチック表面を拭かないで下さい。乾燥しているときに表面を拭くと、表面に小さな傷ができてしまいます。
- ・ 清潔で軟らかい布（バスタオル、おむつ、自動車用ミット）をご使用下さい。
- ・ プラスチックの表面には、磨き粉などの研磨剤を使用しないで下さい。
- ・ 機械の近くでは防虫スプレーを使用しないで下さい。
- ・ プラスチック表面に燃料をこぼさないで下さい。こぼしたときは直ちに拭き取ります。

1. フードと機械全体をきれいな水ですすいで、表面を傷つける可能性のあるホコリやゴミを取り除きます。
2. きれいな水と中性の自動車用液体洗淨石鹼を使って、表面を洗います。
3. ウォーター・スポットが残らないよう完全に乾かします。
4. 自動車用液体ワックスを使って、表面にワックスをかけます。“研磨剤無含有”と特に明示してある製品を使って下さい。

重要：損傷に注意して下さい！ワックス落としに動力式パッファは使用しないで下さい。

5. きれいで軟らかな布を使って手でワックスがけをします。

金属面の清掃と補修

清掃：

車体の塗装金属面の取り扱いについては、自動車の一般的な取り扱い方法に従って下さい。定期的に自動車用の高品質ワックスを用いながら工場仕上げ時の塗装表面状態を維持するようにして下さい。

小さなキズ（表面の引っかきキズ）の補修：

1. 補修する部分を十分きれいにします。

重要：損傷に注意して下さい！塗料表面に水磨き剤を使用しないで下さい。

2. 自動車用ポリシング・コンパウンドを使用して、表面のキズを取り除きます。
3. 表面全体にワックスをかけます。

その他の整備点検

深いキズ（金属地や下塗りが見える状態）の補修：

1. 研磨アルコールまたはミネラル・スピリットを使用して、補修部分をきれいにします。
2. ジョン・ディア代理店で入手できる工場調合の塗料と一緒にペイント・スティックを使って、キズを埋めて下さい。使用方法と乾燥方法は、塗料スティックの指示にしたがってください。
3. 自動車用ポリシング・コンパウンドを使用して、表面をならします。動力式パuffaは使用しないで下さい。
4. ワックスを表面に塗ります。

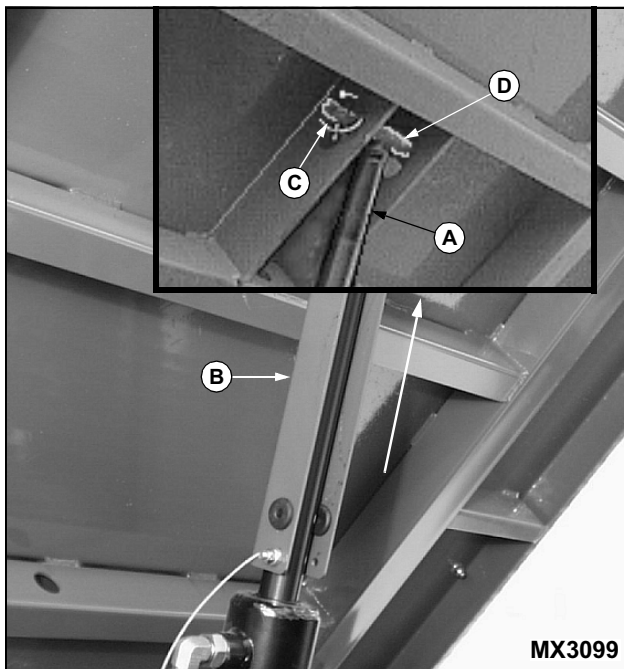
荷台の取り外し



注意：ケガに注意して下さい！

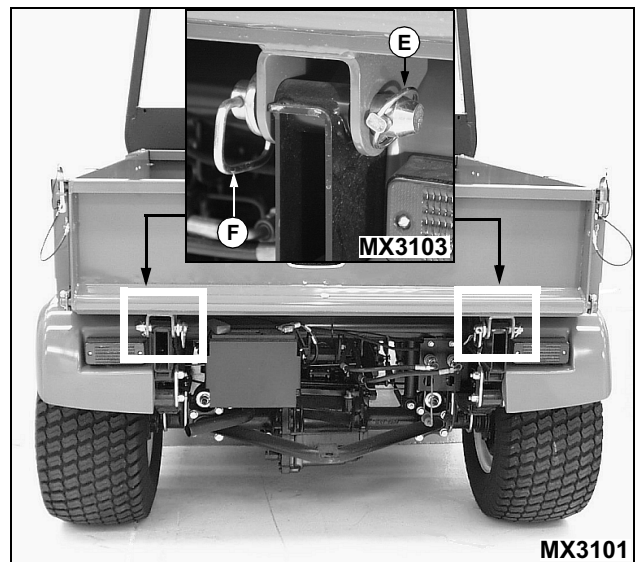
- ・ リフト・シリンダ安全サポートが適切に取り付けられていないときは、荷台を取り外そうとしないで下さい。
- ・ 取り外す前に、荷台の資材をすべて降ろして下さい。

1. 荷台を空にします。
2. 車両を地盤の固い、水平な場所に駐車します。
3. パーキング・ブレーキをかけて、エンジンを始動します。
4. 荷台を持ち上げます。



- ・ 荷台が完全に持ち上がるまで、リフト・シリンダ (A) を伸ばします。

5. エンジンを停止します。
6. リフト・シリンダ安全サポート (B) を取り付けます。
7. 安全なリフト装置を使用して、荷台の前部を少し持ち上げます。
8. 荷台からリフト・シリンダを取り外します。
 - a. フリップ・ピン (C) 及びシリンダ・ピン (D)、座金を取り外します。
 - b. 保管のため、シリンダ・ピンとスプリング・ロック・ピンをリフト・シリンダに戻します。
9. 安全サポートを保管位置に戻します。
10. エンジンを始動します。
11. リフト・シリンダを完全に引っ込め、エンジンを停止します。
12. 荷台の正面をゆっくり車体フレームの上に降ろします。

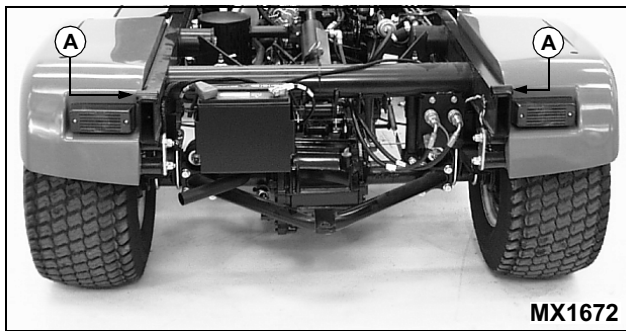


13. 荷台の後部をフレームに固定しているクイックロック・ピン (E) と止め穴付きピン (F) を取り外します。
14. 慎重に、荷台を車体から取り外します。
15. 止め穴付きピンとクイックロック・ピンを元通り車体のブラケットに取り付けます。

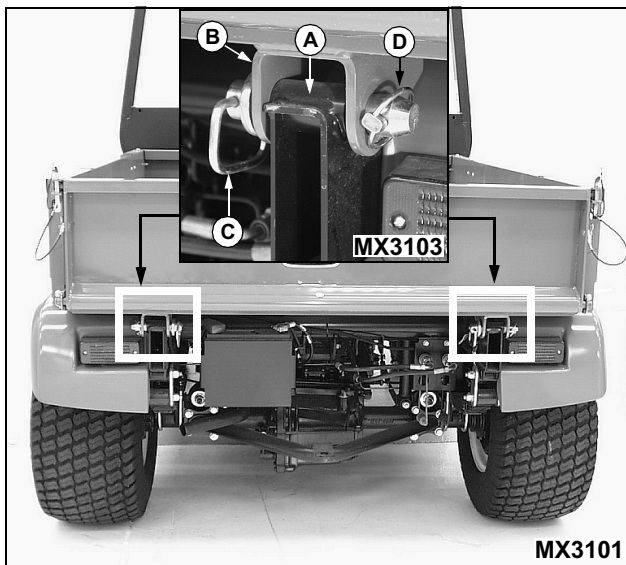
荷台の取り付け

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照して下さい。）

その他の整備点検



2. 車体後部のブラケット (A) に固定されているクイックロック・ピンと止め穴付きピンを取り外します。
3. 慎重に、安全なリフト装置を使用して荷台を車体フレームの上に載せます。



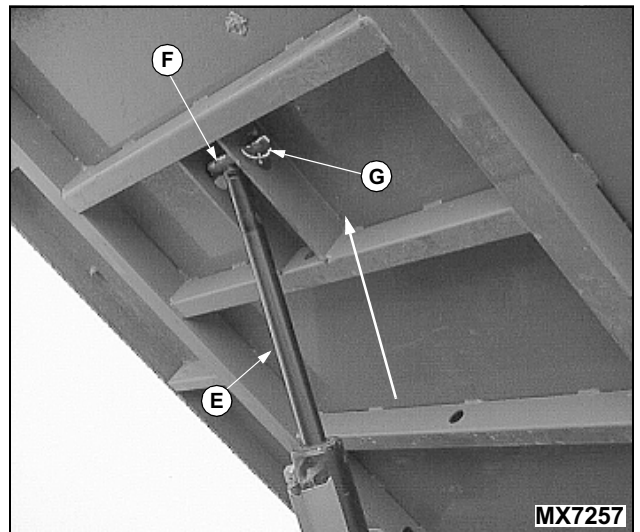
- 車体後部で、荷台タブ (B) とブラケット (A) を揃えます。

4. 止め穴付きピン (C) とクイックロック・ピン (D) で荷台の後部をフレームに固定します。



注意：ケガに注意して下さい！荷台の底にリフト・シリンダを取り付ける際は、荷台が持ち上げ位置で安全にサポートされていることを確認して下さい。

5. 安全なリフト装置を使用して、荷台の前部を持ち上げます。
6. リフト・シリンダに格納されているフリップ・ピン、シリンダ・ピン、座金を取り外します。
7. エンジンを始動します。



8. 荷台フレームの底にある穴とリフト・シリンダの上部が合うまで、リフト・シリンダ (E) を伸ばします。

メモ：座金は、シリンダ・ピンのフリップ・ピンと同じ側に取り付けなければなりません。

9. シリンダ・ピン (F) とフリップ・ピン (G)、座金を使用して、リフト・シリンダを荷台に取り付けます。
10. 荷台を降ろします。
11. エンジンを停止します。

トラブルシューティング

トラブルシューティング・チャートの使用法

このチャートに記載されていない問題が発生した場合は、ジョン・ディア代理店までご連絡下さい。

このチャートの推定原因をすべてチェックしても問題が解決されない場合は、ジョン・ディア代理店までご連絡下さい。

エンジン

問題又は症状	原因／点検事項
エンジンがかからない／始動しない	エンジン・オイルの粘度が不適當。 燃料が古い／燃料が不適當／燃料不足 燃料が汚れている／燃料フィルタを交換する。 ディーゼル・エンジン・モデル：燃料シャットオフ・バルブを開ける。 PTO 表示ライト点灯－油圧 PTO レバーを切り離す。 ヒューズが不良。 エア・クリーナ・フィルタ・エレメントの目詰まり。 ギア・シフト・レバーを「ニュートラル」位置に入れる。 ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグの配線がゆるんでいる／外れている。 ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグのギャップをチェックする。 バッテリー電圧が低い－バッテリーを充電する。 バッテリー・ケーブルのゆるみ／腐食－バッテリー・ケーブルをきれいにし締め直す。
負荷かかるとミスファイアーする	ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグのギャップが不適正。 ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグが不良－スパーク・プラグを交換する。 燃料が古い／汚れている。 燃料フィルタの目詰り－燃料フィルタを交換する。 電気系統の接続をチェックする。
エンジンがスタートしにくい	ガソリン・エンジン・モデル：キャブレタを清掃／調整する。（テクニカル・マニュアルを参照するか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。） 燃料が古い／汚れている。 ガソリン・エンジン・モデル：不良スパーク・プラグをチェック／交換する。 ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグのギャップをチェックする。 エア・クリーナ・フィルタ・エレメントの目詰まり。 電気系統の接続をチェック／清掃する。 燃料ラインがエア・ロックしていないかチェックする。燃料フィルタから燃料ラインを分離する。燃料が流れる。

トラブルシューティング

問題又は症状	原因／点検事項
エンジンがオーバーヒートする	エア・クリーナ・エレメントの目詰まり／フィルタ・エレメントを交換する。 ラジエータの吸気口スクリーン、ファン・シュラウド、冷却フィンを清掃する。 オイル冷却コイルを清掃する。(オプション) エンジン・オイル・レベルをチェックーオイルを補充する。 冷却液レベルが低い。 冷却システムのフラッシングが必要。 ラジエータ・キャップの不良。 サーモスタットの不良。 オルタネータのベルトが緩んでいる、又は損傷している。 エンジンが低速 (SLOW) アイドルではなく、高速 (FAST) アイドルで運転。 状態に対して早過ぎる対地速度で運転。
エンジンが低速 (SLOW) アイドルにならない。	ガソリン・エンジン・モデル：キャブレータを清掃／調整する。(テクニカル・マニュアルを参照するか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。) ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグのギャップが不適正。 ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグが不良ースパーク・プラグを交換する。 アイドル速度調整が不適切。 燃料が古い／汚れている。 燃料ラインの目詰まりー燃料ラインを清掃する。 バルブの位置が正しくないーバルブを調整する。(テクニカル・マニュアルを参照するか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。)
エンジンがバックファイヤーを起こす	ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグが不良ースパーク・プラグを交換する。 吸入バルブが固着ーバルブを調整する。(テクニカル・マニュアルを参照するか、ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。)
エンジンがペーパー・ロックする。	燃料フィルタを交換する。
エンジンの回転がスムーズでない	燃料インジェクタの汚れ／不良。 燃料ラインの目詰まりー燃料ラインを清掃する。 ディーゼル・エンジン・モデル：燃料シャットオフ・バルブが一部閉じている。 燃料が古い／汚れている。 燃料フィルタを交換する。 エア・クリーナ・フィルタ・エレメントの目詰まり。 電気系統の接続をチェック／清掃する。 ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグが不良ースパーク・プラグを交換する。 ガソリン・エンジン・モデル：キャブレータを清掃／調整する。(テクニカル・マニュアルを参照するか、ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。) 座席スイッチの故障。

トラブルシューティング

問題又は症状	原因／点検事項
エンジンの出力不足。	燃料が不適當。 エンジン・オイルが多すぎる－適正レベルまで抜く。 エア・クリーナ・フィルタ・エレメントの目詰まり。 エンジンへが過負荷－負荷を減らす。 エンジンがオーバヒート－ラジエータ・スクリーン、ファン・シュラウド、冷却フィン、オイル冷却器コイル（オプション）を清掃する。 ガソリン・エンジン・モデル：スパーク・プラグが不良－スパーク・プラグを交換する。 燃料フィルタを交換する。 エンジンがオーバヒート。状態に対して早過ぎる対地速度で運転。 冷却液温度が低い。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。 バルブのクリアランスが不適當。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。 燃料インジェクタの汚れ／不良。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。 インジェクション・ポンプの遅れ。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。
エンジンがノッキングする	燃料が古い／オクタン価が低い。 エンジン・オイルの量が少ない。 エンジンがオーバーロード－負荷を減らす。 アイドル速度調整が不適切。 インジェクション・ポンプの遅れ。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。 冷却液温度が低い。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。
オイル圧力が低い	エンジン・オイルの量が少ない。 オイル・フィルタの目詰まり。 オイル・タイプが不適當。 オイルの漏れ。
エンジンのオイル消費が過多	燃料タイプが不適當。 エンジン温度が低い。 サーモスタットの不良。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。 インジェクション・ポンプの遅れ。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。
エンジンが黒煙／灰色煙を排出	燃料タイプが不適當。 吸気口システムが詰まっている。 状態に対して早過ぎる対地速度で運転。 燃料インジェクタの汚れ／不良。ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。

トラブルシューティング

ハンドル（ステアリング）

問題又は症状	原因／点検事項
ハンドルが正しく作動しない	タイヤの空気圧を点検する。 トランスミッション・オイル量が不足－オイル・レベルをチェックする。 4WD モデル：前輪アクスル・オイル量の不足－オイル・レベルをチェックする。 トーイン調整をチェックし、調整する。（テクニカル・マニュアルを参照するか、ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい）

ブレーキ

問題又は症状	原因／点検事項
ブレーキが正しく作動しない	ブレーキ液の量が不足－液量レベルをチェックする。 ブレーキを調整する。（テクニカル・マニュアルを参照するか、ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい） 摩耗したブレーキ・シューを交換する。（テクニカル・マニュアルを参照するか、又はジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。） 摩耗または破損しているブレーキ・リンク機構を修理／交換する。（テクニカル・マニュアルを参照するか、ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい）

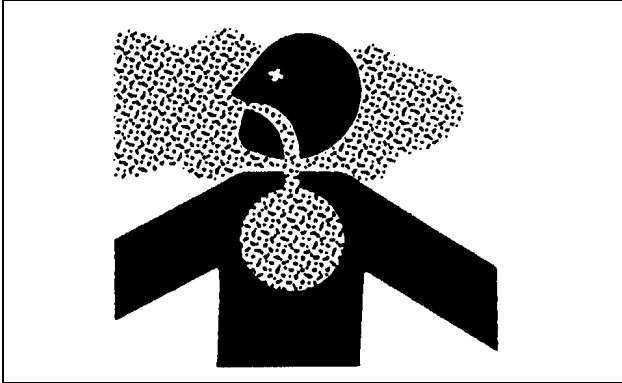
電気系統

問題又は症状	原因／点検事項
スタータが作動しない／エンジンがかからない。	電気系統の接続部分をすべてチェックし、締め付ける。 ギア・シフト・レバーを「ニュートラル」位置に入れる。 ヒューズが不良。 バッテリー出力が低い－電解液レベルをチェックする。 バッテリーを充電／交換する。 バッテリー・ケーブルのゆるみ／腐食－バッテリー・ケーブルをきれいにし締め直す。 キー・スイッチ／スタータ・モータの故障。（テクニカル・マニュアルを参照するか、ジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい）
スタータの回転が遅い	バッテリー出力が低い－電解液レベルをチェックする。 バッテリー出力が不足－バッテリーを充電する。 エンジン・オイルの粘度が高すぎる。 バッテリー・ケーブルのゆるみ／腐食－バッテリー・ケーブルをきれいにし締め直す。
エンジン運転中も、バッテリー電圧低下インジケータが「オン」のまま。	エンジン速度が低い。 バッテリーの不良。 オルタネータが不良。 オルタネータのベルトが緩んでいる、又は損傷している。

トラブルシューティング

問題又は症状	原因／点検事項
バッテリーが充電されない	バッテリー・ケーブルのゆるみ／腐食－バッテリー・ケーブルをきれいにして締め直す。 バッテリーの不良－電解液レベルをチェックする。 バッテリーの寿命切れ。 オルタネータのベルトが緩んでいる、又は損傷している。 オルタネータが不良。
ライトが点灯しない	ヒューズの不良。 バルブのゆるみ／不良。 スイッチ接続部分のゆるみ。

安全な保管



注意：ケガに注意して下さい！エンジンからの排気ガスを吸い込むと、疾病や死亡の原因になることがあります。

- ・ 閉鎖された場所でエンジンを作動させる必要がある場合には、排気ガスを除去するために排気ガス延長パイプを使用して下さい。換気には常に注意を払いながら作業を行って下さい。
- ・ 酸化した燃料に引火する恐れのある裸火やスパークが発生し得るような建物内には燃料が入った機械を保管しないこと。
- ・ エンジンの温度が下がるのを待ってから、屋内に保管して下さい。
- ・ バッテリーを取り外し、凍結する恐れがなくて、子どもの手の届かない、涼しくて乾いた場所に保管して下さい。

機械の保管準備

1. 摩耗あるいは損傷している部品を修理します。必要に応じて交換します。緩んだ金具を締め付けます。
2. サビを防止するため、こすれたり、えぐれた金属表面を補修します。
3. 床下を清掃して、落し口や刈り草収納袋の内部の草や破片などを取り除きます。
4. 機械を洗浄し、メタル及びプラスチック面にワックスを塗ります。
5. 機械を5分間運転し、ベルトとプーリを乾かします。
6. サビを防止するため、ピボットと磨耗ポイントにエンジン・オイルを薄く塗布します。
7. グリース・ポイントにグリースを補充します。
8. タイヤ空気圧をチェックします。

車両の保管

重要：損傷に注意して下さい！古い燃料はニスを生成し、キャブレタ構成部品を目詰まりさせて、エンジン性能に影響を与えます。

- ・ タンクに充填する前に、新しい燃料に燃料コンディショナあるいは安定剤を加えます。

1. 適切なジョン・ディア社製燃料コンディショナと安定剤あるいは同等品を、燃料タンクに入れます。製品ラベルの指示に従って下さい。
2. 安定剤が燃料系統に行きわたるように、エンジンを10分以上運転します。
3. エンジン・オイルとフィルタは、エンジンが暖かい時に交換して下さい。
4. ガソリン・エンジン・モデルのみ：
 - ・ スパーク・プラグを取り外します。
 - ・ 汚れのないエンジン・オイルを30 ml (1 oz.) ずつ各シリンダに入れます。
 - ・ スパーク・プラグを取り付けます。ワイヤはまだ取り付けないで下さい。
 - ・ エンジンを数回起動して、オイルを行きわたらせます。
5. 摩耗、破損している部品を修理します。必要に応じて、新しい部品に交換します。
6. エア・クリーナを整備点検します。
7. 車両を洗います。
8. 4WD モデル：ドライブシャフトを潤滑します。
9. エンジンとその周りを清掃します。オイル、グリース、その他のゴミを取り除きます。
10. エンジン・コンパートメントのホースをチェックします。
11. エンジンの冷却液レベルと凍結温度をチェックします。
12. 吸気口スクリーンを清掃します。
13. ラジエータ冷却フィンを清掃します。
14. 予備オイル・リザーバ・タンク・オイル冷却器コイルを清掃します。
15. サビを防止するため、必要な箇所にペンキを塗ります。



注意：ケガに注意して下さい！バッテリーには有毒で腐食作用のある酸が含まれています。バッテリーは子供の手の届かない所に保管して下さい。

16. バッテリーを取り外して、清掃します。電解液レベルをチェックします。バッテリーを充電します。バッテリーは寿命を維持するため、乾燥した冷所に保管して下さい。

保管

- 17.車両は乾燥した安全な場所に保管して下さい。屋外で保管する場合は、防水加工されたカバーをかけます。
- 18.タイヤにかかる重量を軽くするため、車両の下にブロックまたはスタンドを置きます。タイヤの空気を 1/3 ほど抜きます。
- 19.オルタネータ・ベルトを、水で湿らせたぼろきれで拭きます。ベルトに損傷がないか、チェックします。
- 20.オルタネータ・ベルトの張りを点検、調整します。
- 21.**ディーゼル・エンジン・モデル**：燃料セディメント容器シャットオフ・バルブを閉めます。
- 22.露出しているシリンダ・ロッドに汎用潤滑油を塗ります。
- 23.燃料フィルタを交換します。

保管場所からの車両の取り出し

1. タイヤ空気圧をチェックします。
 - ・ 適正なタイヤ空気圧は、69 ~ 83 kPa (10 ~ 12 psi) です。
2. ホイール金具をチェック、締め付けます。
 - ・ ホイール金具を互い違いに 115 N・m (85 lb-ft) のトルクで締め付けます。
3. バッテリー電解液レベルをチェックします。必要な場合は、バッテリーを充電します。バッテリーを取り付けます。
4. スパーク・プラグ・ワイヤを接続します。
5. エンジンのオイル・レベルをチェックします。
6. トランスミッション・オイル・レベルを点検します。
7. **4WD モデル**：前輪アクスルのオイル・レベルをチェックします。
8. リザーバの作動油レベルを点検します。
9. **4WD モデル**：ドライブシャフトを潤滑します。
- 10.ホース（空気取入口、燃料、油圧、冷却システム）、クランプ及び接続部分をチェックします。
- 11.シールドとガードが所定の位置にあることを確認します。
- 12.**ディーゼル・エンジン・モデル**：燃料セディメント容器シャットオフ・バルブを開けます。
- 13.汚れのない新しい燃料を燃料タンクに満たします。



注意：ケガに注意して下さい！エンジンからの排気ガスを吸い込むと、疾病や死亡の原因になることがあります。換気のよい場所でのみエンジンを始動させて下さい。

- 14.負荷をかける前に、低～中速アイドル速度で、エンジ

組み立て

納入時の説明

納車前に、所有者／オペレータと共に、リストに記載の整備点検チェックを行って、車両を清掃し、本マニュアル内容を確認します。所有者やオペレータが、本車両を安全に運転できることを確認します。

液量レベルの点検

重要：損傷に注意して下さい！車両を始動させる前に、すべての液量レベルをチェックします。

車両は堅い平らな地面に駐車し、パーキング・ブレーキをかけて、キー・スイッチを“STOP”位置にします。

1. **ラジエータ冷却液レベル**をチェックします。エンジンが暖まっている時、冷却液レベルは、冷却液リカバリ・ボトルの“FULL”ラインと“LOW”のラインの間でなければなりません。エンジンが冷えているとき、冷却液レベルは、リカバリ・ボトルの“LOW”ライン上にあるはずです。必要に応じて、指定の割合で希釈した不凍液を加えます。詳細は、**エンジンの整備点検**セクションの**冷却液レベル**のチェックを参照して下さい。

重要：損傷に注意して下さい！オイル・レベルが“L”マーク以下の場合、エンジンを始動してはいけません。

2. **エンジン・オイル・レベル**をチェックします。オイル・レベルは、ディップスティックの「ADD」マークと「FULL」マークの間になければなりません。必要に応じて、オイルを補給します。詳細は、**エンジンの整備点検**セクションの**エンジン・オイル・レベル**の点検を参照して下さい。

重要：損傷に注意して下さい！トランスミッション・オイルの量が不足している場合、エンジンを始動してはいけません。

3. **トランスミッション・オイル・レベル**をチェックします。トランスミッション・オイル・レベルは、トランスミッション・ディップスティックの「FULL」ラインの一番上になければなりません。必要に応じて、オイルを補給します。詳細は、**トランスミッションの整備点検**セクションの**トランスミッション・オイル・レベル**の点検を参照して下さい。

4. **前輪アクスル・オイル・レベル**を点検します。前輪アクスル・オイル・レベルは、ディップスティックのXX部分の一番上になければなりません。オイルのチェック時、ディップスティックは完全に締め付けしないで下さい。必要に応じて、オイルを補給します。詳細は、**トランスミッションの整備点検**セクションの**前輪アクスル・オイル・レベル**の点検を参照して下さい。

バッテリーの点検



注意：ケガに注意して下さい！スパーク、火のついたマッチ、その他の裸火をバッテリー上部に近づけないで下さい。バッテリーから出る気体により爆発を起こす可能性があります。

絶対に、端子間に金属物を置いてバッテリーの電荷を調べてはいけません。電圧計または液体比重計を使用して下さい。

凍結したバッテリーを充電しないこと。爆発する恐れがあります。バッテリーを暖めて温度が16℃ (60°F) になってから充電を開始して下さい。

メモ：バッテリーに関する詳細は、本マニュアルの「整備点検—電気系統」セクションを参照して下さい。

1. エンジンが回転せず、ヘッドライトが暗いか、点灯しない場合、バッテリーを充電します。
2. バッテリーは5～10アンペアで30分以上充電します。ご使用のバッテリー充電器に「ディープ・サイクル」又は「メンテナンス・フリー」設定がある場合、この設定でバッテリーの充電を行って下さい。

バッテリー電圧の点検



注意：ケガに注意して下さい！バッテリー爆発の防止：

- ・スパーク、火のついたマッチ、その他の裸火をバッテリー上部に近づけないで下さい。バッテリーから出る気体により爆発を起こす可能性があります。
- ・絶対に、端子間に金属物を置いてバッテリーの電荷を調べてはいけません。電圧計または液体比重計を使用して下さい。
- ・凍結したバッテリーを充電してはいけません。爆発の危険があります。16℃ (60°F) までバッテリーを暖めて下さい。

工場出荷時、バッテリーには酸が充填され、充電済みです。バッテリー寿命を延ばすには、引渡し前に電圧をチェックして下さい。電圧が12.6ボルトより低い場合は、バッテリーを完全充電します。

安全インターロック・システムの点検

安全インターロック・システムの完全な点検手順は、**機械の操作**セクションの**安全インターロック・システムのテスト**

トを参照して下さい。

ホイール金具トルクの点検

ホイール・ボルトに適切なトルクをかけるための詳細説明や仕様については、**整備点検**—その他セクションの**ホイール金具の締め付け**を参照して下さい。

タイヤ空気圧の点検



注意：ケガに注意して下さい！タイヤとリム・パーツは、正しく整備点検を行わないと、急激に分離を起こす恐れがあります。

- タイヤの取り付けは作業に熟知した人による適切な器具使用のもとで必ず行うこと。
- タイヤの空気圧は推奨圧力以上に上げないこと。
- ホイール及びタイヤ・アセンブリは溶接や加熱を行わないこと。熱を加えると、空気圧が上昇し、タイヤの破裂を引き起こすことがあります。また溶接するとホイールの構造を弱めたり形状を歪めたりする恐れがあります。
- タイヤに空気を入れる時はタイヤ・アセンブリの正面に立ったり、おおいかぶさったりしないこと。クリップ式チャックと延長ホースを使用して少し離れた所に立って作業できるようにして下さい。

1. タイヤの損傷を点検します。
2. タイヤの空気圧を正確なゲージで点検します。
3. 必要に応じて、空気圧を調整します。

荷台の取り付け

荷台の取り付けに関する詳細は、**整備点検**—その他セクションの**荷台の取り付け**を参照して下さい。

仕様

エンジン (モデル 2020 - ガソリン・エンジン)

メーカー	ヤンマー
モデル番号	3TG72
馬力 @ 3400 rpm	19.1 kW (25.6 hp)
排気量	879 cm ³ (53.6 cu. in.)
シリンダ数	3 気筒
サイクル数	4 サイクル
低速アイドル回転数 (± 50 RPM)	1,450 RPM
高速アイドル回転数 (± 50 RPM)	3,570 RPM
オイル・フィルタ	交換可能フル・フロー
潤滑方法	完全加圧式
冷却方法	液冷式
エア・クリーナ	2 次エレメント付きキャニスタ・タイプ

エンジン (モデル 2030 - ディーゼル・エンジン)

メーカー	ヤンマー
モデル番号	3TNE74
馬力 @ 3200 rpm	16.6 kW (22.2 hp)
排気量	1006 cm ³ (61.4 cu. in.)
シリンダ数	3 気筒
サイクル数	4 サイクル
低速アイドル回転数 (± 50 RPM)	1,450 rpm
高速アイドル回転数 (± 50 RPM)	3,450 rpm
オイル・フィルタ	交換可能フル・フロー
潤滑方法	完全加圧式
冷却方法	液冷式
エア・クリーナ	2 次エレメント付きキャニスタ・タイプ

燃料系統 (ガソリン・エンジン・モデル)

燃料のタイプ	無鉛レギュラー
燃料フィルタ	交換可能エレメント
燃料ポンプ	電気式

燃料系統 (ディーゼル・エンジン・モデル)

燃料のタイプ	ディーゼル燃料
燃料フィルタ	交換可能エレメント
燃料ポンプ	機械式

仕様

電気系統

タイプ	フライホイール、オルタネータ
オルタネータ容量	55 アンペア
バッテリー電圧	直流 12 ボルト
寒冷クランク・アンペア @ 0 ° F	500
イグニッション	CDI

ステアリングとブレーキ

常用ブレーキ・タイプ	4 輪油圧ドラム
パーキング・ブレーキ・タイプ	機械式ドラム
パーキング・ブレーキの操作方法	手動式レバー
ステアリング	油圧式パワー・ステアリング

タイヤ

前部（標準）

サイズ	23x10. 50-12
プライ・レーティング	4
圧力	69-97 kPa (10-14 psi)

後部（標準）

サイズ	26x12. 00-12
プライ・レーティング	4
圧力	69-97 kPa (10-14 psi)

後部（オプション）

サイズ	26x14. 00-12
プライ・レーティング	4
圧力	69-97 kPa (10-14 psi)

トランスミッション

メーカー	カンザキ
タイプ	5 速式、シンクロメッシ
4WD オプション	自動、オンデマンド

対地速度（全モデルとも標準リア・タイヤ装備）

1 速	4. 5 km/h (2. 8 mph)
2 速	7. 4 km/h (4. 6 mph)
3 速	12. 7 km/h (7. 9 mph)

仕様

4 速	24.1 km/h (15 mph)
5 速	30.7 km/h (19.1 mph)
バック	5.8 km/h (3.6 mph)

寸法

地表からの間隔	16.8 cm (6.6 in.)
ホイールベース (前輪アクスルからリア・アクスルまで)	167.6 cm (66 in.)
ホイール・トレッド、前輪	123.2 cm (48.5 in.)
ホイール・トレッド、後輪	129 cm (50.8 in.)
オプション荷台を含めた全体長	328.4 cm (129.3 in.)
オプション荷台なしの全体長	319.3 cm (125.7 in.)
全体幅	158.5 cm (62.4 in.)
全体高	193.7 cm (76.3 in.)

ターン時の最小半径

ターン時の最小内側半径－ 2WD	84 cm (33 in.)
ターン時の最小内側半径－ 4WD	274 cm (108 in.)
ターン時の最小外側半径－ 2WD	498 cm (196 in.)
ターン時の最小外側半径－ 4WD	630 cm (248 in.)

重量 (付属装置なし時)

モデル 2020 2WD (標準タイヤ付き)	829.2 kg (1828 lb)
モデル 2020 4WD (標準タイヤ付き)	849.1 kg (1872 lb)
モデル 2030 2WD (標準タイヤ付き)	829.2 kg (1828 lb)
モデル 2030 4WD (標準タイヤ付き)	849.1 kg (1872 lb)

フルイド類の容量

燃料タンク	30.3 L (8 gal)
冷却システム (合計)	3.8 L (4.1 qt)
オイル・フィルタ付きのクランクケース (ガソリン・エンジン・モデル)	2.1 L (2.2 qt)
フィルタ付きクランクケース (ディーゼル・エンジン・モデル)	2.1 L (2.2 qt)
トランスミッション・オイル・システム (合計)	10.6 L (2.8 gal)
前輪アクスル・オイル (4WD モデル)	3.3 L (3.5 qt)

牽引

最大牽引能力 (後部ヒッチ)	680.4 kg (1500 lb)
--------------------------	--------------------

仕様

最大タンク重量（後部ヒッチ）	90.7 kg (200 lb)
----------------	------------------

荷台

全体長、内側	165 cm (65 in.)
全体長、内側	128.4 cm (50.5 in.)
全体奥行き、内側	26.8 cm (10.5 in.)
重量	144.2 kg (318 lb)
エアコア 2000	907 kg (2000 lb).
油圧パワー・リフトがある場合の最大リフト能力	907 kg (2000 lb.)
ベッドライナ	オプション
自動テールゲート・リリース	オプション

推奨潤滑油

エンジン・オイルーガソリン・エンジン・モデル	John Deere TURF-GARD™ SAE 10W-30
エンジン・オイルーディーゼル・エンジン・モデル	ジョン・ディア社製 PLUS 50™ SAE 15W-40
	ジョン・ディア社製 TORQ-GARD SUPREME™ SAE 5W-30
エンジン冷却液	COOL-GARD™ PRE-DILUTED SUMMER COOLANT
	COOL-GARD™ CONCENTRATED SUMMER COOLANT
トランスミッション／作動油	John Deere J20C HY-GARD™
エンジン・オイルーディーゼル・エンジン・モデル	John Deere Multi-Purpose HD Lithium Complex Grease
	John Deere Multi-Purpose SD Polyurea Grease (汎用 SD ポリ尿素グリース)

索引

あ		き	
安全インターロック・システムのテスト	21	ギア・シフト・レバーの使用法	19
安全インターロック・システムの点検	71	ギア・ロックアウトの使用法	16
安全喚起マーク	1	キャブレターの調整	29
安全、タイヤ	9	吸気口スクリーンの清掃	33
安全な操作	4	吸気口ホース、油圧ホース、ラジエータ・ホース、クラン プの点検	35
安全な保管、	69	金属面の補修と清掃	61
安全、排気ガスの吸引防止	29	く	
安全、冷却システムの整備点検	36	駆動シャフト（4WD モデル）の注油	46
い		クラッチ・ペダルの使用法	18
インストルメント・パネル	17	グリース	46
う		グリルの取り外しと取り付け、フロント	60
運搬、安全	7	け	
運搬、ユーティリティ・ビークル	23	牽引、積載物	23
え		牽引、ユーティリティ・ビークル	22
エア・クリーナ・エレメントの整備点検	34	こ	
液量レベルの点検	71	コイルの清掃、オイル冷却	50
エレメントの整備点検、エア・クリーナ	34	コンソール及びその他のコントロール装置	12
エンジン・オイル	29	コントロール装置、コンソール及びその他	12
エンジン・オイルー ディーゼル・エンジン・モデル	29	コントロール装置、ダッシュボード／フット	12
エンジン・オイルとフィルタの交換	31	さ	
エンジン・オイル・レベルの点検	30	座席とパーキング・ブレーキ・スイッチのテスト	21
エンジン稼働、オペレータが運転席で腰を上げた状態	22	座席の調整	12
エンジンの始動	20	作動油	48
エンジンの停止	21	作動油とフィルタの交換	49
エンジン保証メンテナンスに関する表明	29	作動油リザーバ・ストレーナの清掃	50
お		作動油レベルの点検	48
オイル、エンジン	29	し	
オイル交換ー エンジン	31	シート・ベルトの着用	13
オイル、作動油	48	仕様	73
オイル・ストレーナの清掃、トランスミッション	45	書類、整備点検関連	26
オイル、前輪アクスル	52	す	
オイルとフィルタの交換、エンジン	31	スイッチのテスト、ニュートラル	21
オイルとフィルタの交換、作動油	49	スイッチのテスト、予備油圧システム	22
オイルとフィルタの交換、トランスミッション	44	スクリーンの清掃、吸気口	33
オイル、トランスミッション	43	ストップライト／テールライト・バルブの交換	57
オイル（4WD モデル）の交換、前輪アクスル	53	ストレーナの清掃、作動油リザーバ	50
オイル・リザーバ・ストレーナの清掃、作動油	50	ストレーナの清掃、トランスミッション・オイル	45
オイル冷却コイルの清掃	50	スパーク・プラグの点検	32
オイル・レベルの点検、エンジン	30	せ	
オイル・レベルの点検、作動油	48	整備点検関連の書類について	26
オイル・レベルの点検、トランスミッション	43	説明、納入時	71
オイル・レベル（4WD モデル）の点検、前輪アクスル	52	前輪アクスル・オイル	52
オイルーディーゼル・エンジン・モデル	29	前輪アクスル・オイル・レベル（4WD モデル）の点検	52
オルタネータ・ベルト（ガソリン・エンジン・モデル）の 交換	40	前輪アクスル・オイル（4WD モデル）の交換	53
オルタネータ・ベルト（ディーゼル・エンジン・モデル） の交換	41	た	
オルタネータ・ベルトの点検と調整	39	タイヤ空気圧の点検	72
		ダッシュボード／フット・コントロール装置	12

索引

ち

チリ除去バルブの清掃、ゴム製 33

て

定期点検表 27
ディファレンシャル・ロック・レバーの使用法 14
テールゲートの操作、荷台 24
テールゲートの取り外し、荷台 25
テールライト、ストップライト・バルブの交換 57
テクニカル・マニュアル 26
テスト、安全インターロック・システム 21
テスト、座席とパーキング・ブレーキ・スイッチ 21
テスト、ニュートラル・スイッチ 21
テスト、予備油圧システム・スイッチ 22
手すりの使用 5
電解液レベルの点検、バッテリー 56

と

トラブルシューティング・チャート 64
トランスミッション・オイル 43
トランスミッション・オイル・ストレーナの清掃 45
トランスミッション・オイルとフィルタの交換 44
トランスミッション・オイル・レベルの点検 43
トランスミッションの操作 18
トレーニング、オペレータ 3

に

荷台テールゲートの操作 24
荷台テールゲートの取り外し 25
荷台の上げ下げ 24
荷台の取り付け 62
荷台の取り外し 62
ニュートラル・スイッチのテスト 21

ね

燃料シャットオフ・バルブ（ディーゼル・エンジン・モデル）の使用法 13
燃料セディメント容器（ディーゼル・エンジン・モデル）の整備点検 39
燃料タンクの補充 60
燃料の安全 9
燃料フィルタ（ガソリン・エンジン・モデル）の交換 38

は

パーキング・ブレーキ・スイッチ、座席のテスト 21
パーキング・ブレーキの使用法 14
パーツ・カタログ 26
パーツ、交換 26
排気ガス制御装置認定ラベル 3
排気ガス適合期間 3
バッテリー電圧の点検 71
バッテリーの使用法、ブースタ 56
バッテリーの清掃又は交換 55
バッテリー電解液レベルの点検 56
バッテリーの点検 71
パネル、インストルメント 17

バルブの交換、ストップライト／テールライト 57
バルブの交換、表示ライト 57
バルブの交換、ヘッドライト 58
バルブの清掃、ゴム製チリ除去 33

ひ

PTO コントロール・レバーの使用法 15
ヒューズの点検と交換 59
表示ライト・バルブの交換 57
表、定期点検 27

ふ

ファン・シュラウド、ラジエータ冷却フィンの清掃 ... 33
フィルタ、エンジン・オイルの交換 31
フィルタ（ガソリン・エンジン・モデル）の交換、燃料 38
フィルタ、作動油の交換 49
フィルタ、トランスミッション・オイルの交換 44
フィルタの交換、オイル 31
フット・コントロール装置、ダッシュボード 12
プラグの点検、スパーク 32
プラスチック表面の清掃と表面の補修 61
ブレーキ液 53
ブレーキ液レベルの点検 54
ブレーキの使用法、パーキング 14

へ

ヘッドライト・バルブの交換 58
ベルト（ガソリン・エンジン・モデル）の交換、オルタネータ 40
ベルト（ディーゼル・エンジン・モデル）の交換、オルタネータ 41
ベルトの点検と調整、オルタネータ 39

ほ

ホイール金具トルクの点検 72
ホイール金具の締め付け 60
保管、安全 69
保管、車両 69
保管準備、機械 69
保管場所からの取り出し、車両 70
保証、排気ガス制御装置 2

ゆ

油圧ホース、ラジエータ・ホース、クランプ、吸気口ホース、点検 35

ら

ラジエータ・ホース、クランプ、吸気口ホース、油圧ホース、点検 35
ラジエータ冷却フィンとファン・シュラウドの清掃 ... 33
ラベル、安全 1

り

リフト・シリンダの安全性 10
リフト・シリンダ・レバーの使用法 15

れ

冷却液レベルの点検	36
冷却液、エンジン	36
冷却システムの排液	37
冷却システムのフラッシング	37
冷却システムの補充	38
レバーの使用法、ディファレンシャル・ロック	14

サービスについて

ジョン・ディア社製パーツ



当社は、純正ジョン・ディア社製パーツをお客様のお手元に迅速にお届けし、皆様にお仕事をスムーズに運んでいただくお手伝いを致します。

そのため、当社では幅広く在庫品を取り揃えており、お客様のニーズに迅速に対応できるよう常に準備致しております。

レベルの高い技術者チーム



ジョン・ディア社のサービス技術者は常時トレーニングを受けられる体制にあります。

当社スタッフは、定期的に行われるトレーニング・セッションによって、お客様の機械／装置の機構、及びそのメンテナンス方法の把握を常に確かなものとしています。

その成果は、お客様に安心して信頼して頂ける経験に裏付けられた技術となって現れています。

適切な工具、機器の使用



当社のサービス部門は、精密工具とテスト装置で、故障をいち早く発見、修理し、皆様のお時間と経費節約のお手伝いを致します。

迅速なサービス



当社の目標は、いつでも、どこでも、常に迅速で効率的なケアをお客様にお届けすることです。

修理は状況に応じて、当社への引き取り、又は出張サービスのいずれでも可能です。お気軽にお問い合わせ下さい。

ジョン・ディア社サービス部門は、お客様のニーズにいつでも迅速に対応できるように常に万全を期してお待ち致しております。

整備点検記録

整備点検実施日

オイル交換	オイル・フィルタの交換	機械の潤滑	エア・クリーナ・エレメントの点検／清掃	燃料フィルタの交換	冷却液の交換